

黑

潮

第二十三難

卷頭言

機関紙「黒潮」も第二十二号を刊行することになった。黒潮の編集の過程で、さまざまな理由により妥協しなければならないことが幾度かあった。日頃、我々はこの画一化された社会の中で自己の理想を求めるながらも、その可能性の小ささ故に、適当なところで妥協してしまうことがあまりに多いのではないか。社会生活を営むからには、ある程度の妥協はたしかに必要だろう。しかし、その程度は最小限にとどめたいものである。

信念を貫くことは、数多くの対立や争いを生じるだろう。妥協を日常化してしまった方が、どれだけ安易な生活を送れるかしれない。だが、それでは自己の発展は望めないだろう。理想を求める信念だけは妥協の中に埋没させずに大切に守っていきたいものである。

目 次

卷頭言
先輩の部

題字 故 小笠原先生

無題	二十五年卒
古橋広之進氏の意見	三十二年卒
過去から現在へ	三十五年卒
思いつくがままに	三十八年卒
同期の桜の現在	四十年卒
水泳が一番苦しかつた	四一年卒
英語の勉強について	四一年卒
私の彼は左きき	四十三年卒
無変化	四四年卒
恋愛についてちよつと思い出した事	四十六年卒
十年目	四六年卒
私の小さな冒險	四十六年卒
我が現役時代	四八年卒
わかれらの時代	四八年卒
シゴキ反対？賛成……賛成	四九年卒
春	四十九年卒
滑稽	本生 大武 小大 越戸 薩宮 伊賀 井菱 置武 幸小 矢崎
親近なるかな水泳部	間田 石笠 沢田 智叶 袋本 藤泰 千穂 順一
わかれらの時代	茂隆好秀 昌佳紀俊 泰邦 武明 一名
シゴキ反対？賛成……賛成	毅樹彦次生晃之子子男 隆邦 武明 一名

他校水泳部からのたより

武蔵水泳部のはなし

黒潮一家に最敬礼

私の推薦する一冊の本

現役の部

水泳部生活回顧

青春とは？

魚になつた日

泳ぐこと

水泳部紹介

無題

田舎帳のメモより

記録の部

昭和四十九年度記録

全蜀立各種目三十傑

会規約

水泳部主将

新会員名簿

續集後記

武藏高校 橋本さん 竹内君

橋竹
本内
さ
ん君

一一二三三三三
年年年年年年年
塩大中幕田小村
川貫町内畠木上
恭直恩理正協
子子子子子紀仁敬

先輩の部

無題

二十五年卒 矢崎晃

若者には未来を、老人には過去をとい。過去の思い出を依頼される年齢になつたようだ。そう言えば都立のブールで遊んだのは二十才の頃、現在四十四才では、止むを得ない。

私は旧制の中学校を卒業して都立高校に入ったから入学したのは十八才、昭和二十二年のことである。終戦直後で食べるものも着るものもロクにない時代であった。しかし高等学校に入つて、何かが啓けるであろう希望だけは持つていた。中学時代は戦争中で勤労動員以外何もやつていらないようなものだつた。水泳部に入った動機ははつきり記憶にはない。しかし水泳は好きだつたこと、何か運動部に入りたいこと、金が無いからもつとも費用がかからないのは水泳部だろう等考えた末だつたろうと思う。

中学時代は同級以外のつき合いは殆んどなかつた私にとって上級、下級生が同一の集団である生活は新鮮な感覚であつた。

しかし、水泳部員としてはあまり優良生ではなかつた。練習も適当にさぼつたし、勿論速い方ではなかつたから試合に出たこともない。四百フリーの記録が八分十五秒、信じられないような水泳部員であつたわけだ。

入部して間もなく、部誌に後輩にたかられるのは楽しいと書いた。私の中学時代には先輩にたかる等の習慣は皆無であつたのでたかられて見ると何となく偉くなつたような気がした。

ところが、尋常科の連中はいかにして先輩におこつてもらうかと考えてばかりいたようでもまことに不思議な新入部員が入つてきたと思つたようだ。もつともそんなに金があつたわけではないから、書いただけで御気持には添えなかつた。

ブールはあるものの水が入らない。（これには二つの理由があり一つは、給水制限、もう一つはパイプが細い。なにしろこのブールは造つたときは最新式の泥過装置がついていて、春満水にすれば、シーデン中は水換えの必要がない筈だつたため、一インチ位の管が入つてゐるだけ。戦後だから勿論この浄化装置はこわれて使えない。従つて掃除して水を入れ出しても満水になつた時は、あおみどろであつた。）ので他所のブールを借りてあるいた。日大ブールもよく借りたブールであつた。當時日大は古橋、橋爪、浜口、真木等全盛

時代。ボールを借りたおかげでこれ等の名選手と水球の試合をしたのも得難い思い出だろう。競泳では全く問題にならなくても水球では結構勝負になつた。しかし彼等のスピードは物すごくて、ドリブルして行くと後ろからおいかけて、追い越し、前に廻つてこちら向きになつてアタックする。しかし彼等のスピードは物すごくて、ドリブルして行くと後ろからおいかけて、追い越し、前に廻つてこちら向

きになつてアタックする。シュートにしてもボールをさし上げたままジリジリせり上つて、ヘソが出る位今まで浮き上つてからシュートする。しかし馬力だけが水球の強さをきめるものではない事が分つた。だからと言うわけではないだらうが練習の主力は水球となつた。さらに我々が三年になつた時は日制の最後のため、一、二年生が居なくなり、部員も三年生の九人だけとなつてしまつた。この時に至つてやつとボロのレギュラートとなつた。

大学に入つて勿論水泳部に入つた。ところが運動部員は体育実技の単位とみなされるため出席がやかましく、馬鹿々々しなくなつてやめてしまつた。したがつて水泳部員としての生活は都立の三年間だけだつたが得られたものは友人も含め学生時代の最大なもの一つであることは間違ひない。

なぜそんなにうちこむのか。失礼だが、たかだか『泳ぐ』ことのために……。

「走るのは誰でもできる。速いか遅いかだけ。水泳はちがう。いきなり泳げる人はいない。練習の過程で頭を使う。泳げたときの喜びは夢を実現した喜び。そしてさらに距離をのばす、スピードを増すといつた『次の段階』を求める。その間、他人には頼れない。うかうかすると沈む。全身を使つといふほかに、このきびしさが水泳のよさ。ルールを守り、規律を尊重し、自分をコントロールできる人間をつくるには水泳がいちばんです。知育、德育、体育。バランスのとれた気持ちのいい青年が出来ますよ。」

泳ぐことは、遊びでも、単なるスポーツでもない。この人にとつては、生きることそのものなのだろう。そして、避けたり、シャンカまえたりせずに、真正面から歯をくつしばつて進むことを、子供達に、若者達に、ハダで伝えようとする。

体力はいつか衰える。英雄も、いつかはその栄光の座を降りなければならぬ。だが、その間にきたえた強じんな精神は衰えることを知らない。

古橋広之進氏の意見

三十二年卒 小坂順之助

古橋広之進 ふるはし・ひろのしん

以前、黒潮に載せてもらいたいと思つて、古橋広之進元選手のインタビュー記事の一節を紹介します。出所は、昭和四十四年八月

十五日付の夕刊フジの七面です。

静岡県浜名郡生まれ。日大卒業。二十四年、ロサンゼルスでの全米選手権では、一五〇〇メートル自由形に十八分十九秒〇を出し、世界中のドギモを抜く。東京五輪で選手団秘書、メキシコ五輪の水泳

チーム監督。米国の水泳名著殿堂にリターザンニアで知られるジョー・ワイズミューラー、英仏海峡をはじめて泳ぎ渡つたウェッブ(英)、他にシヨランダー(米)、フレイザー(豪)らとともに入っている。国際水泳理事、日大助教授。一七五センチ、九五キロ。一五〇〇メートル自由形は今では三十分ほどかかるという。

過去から現在へ

三十五年卒 幸 部 誠 一

高校も大学も入学式が終ると、クラブへの勧誘が盛んである。なんとしても入数を揃え度いのが人情である。上級生は目をつけた新入生をくどき、なんとかして入部させようとする。我々が入学した時も同じであり、水泳部の上級生となると、少しばかり感じがするし、上級生の五、六人にとり囲まれると、身の危険さへ感じさせられるものである。

我々の時は、横山、中村、服部、山本さん等、昼休みになると菅野君等を囲み水泳部の良さを強調したり、春とは言へ寒いのに泳ぐのはいかに楽しいか身をもつて、にこつた冬から水かえをしないブルーで泳いだり、大変なものである。そこをゆくとその他のクラブ等、すぐに実行できるクラブは手堅である。最初の菅野と僕は、卓球に熱中し、練習にはげんだものである。菅野は水泳の春期トレーニングに出され部室に入りびたり、これが三年間続いたわけである。

勉強の方はオコソカになつてゐる事は確かである。しかし卒業したところを見ると勉強もしてゐた事は確かである。我々の学年も水泳部には数人が入部したが、結局、菅野、新井、大槻、幸部の四人だけとなつた。他の三人は入つた時から泳ぎは上達していくから良いものの、小生等は金縛なので、其のハンディは、どうしようもなくづるづるべつたりで卒業を迎えてしまつた。なにしろ水泳競技となると、樂しくというより苦しみを乗り越える競技と言えるので、泳いでいない時はたゞしく過さないと、合宿でも夜逃げをしかねないので、コンバをやつてインスピレーションをやつたり、天井にたのしい本の有る図書室をささやかながらこしらえたり、冬の昼休みにも部員を集めため、ブール清掃道具でゴルフをやつたり、幹部は大変に頭を使わなければならないのである。水泳部でゴルフのまね事をしているのを、新聞部員が取材に来れば、「これは冬期の基本的な腰の回転運動の練習である」等と煙にまいたり、とにかく、話題には事欠かないものである。卒業迄残つた人はそれなりに有意義な学生生活を送つた筈である。

つまるところ、其の部に最後まで残るか残らぬかは、其のスポーツの魅力プラス部員の雰囲気によるものである。小生等色々やつて見たく硬式テニスのラケットを買って硬式クラブに入つてやつたがやる気になれなかつたし、卓球は大分熱中し卓球の合間に水泳部に來た様なわけで、何とも申し訳なかつたが、最後まで続いたのは先輩達ならびに部の雰囲気に少なからず魅力が有つたからだと思う。大学に入つてからは水泳部はなく空手部に入部した。祝儀酒範の玄制流である。特徴は剛柔流と異つて素速い動きと型のキビキビした美しさを持った流派である、初段迄進み自由組手の試合となる

と手のつき指、其の他ケガの可能性が出て来た。歯科の臨床にたづさわる様になると右手指は大切なものとなる。

従つていつまでも危険な環境にいる訳にはゆかなくなりほつたらかになつてしまつた。兎も角一つのスポーツをマスターし上達する事はなかなか難かしいものであり学生みたいにひまが必要である。今では千葉県柏市に引越し、カシワファミリー歯科で毎日診療に追われて居り、運動をやる時間がない。

人間はそれぞれの年令で一番たのしく思う事があり、高校時代には高校時代の楽しみがある。

其の意味では卒業して何十年経つても全く不意に高校時代の想い出を引き出して呉れる水泳部等は過すのに悪くない部であると思う。

思いつくがままに

三十八年卒 武 村 祥 正

男子四〇〇米自由形五分〇一秒四、同一五〇〇米二十分五四秒、

なかなか立派な記録である。残念ながら僕の記録ではない。昭和五十年頃の公認日本記録で、当時は世界のトップレベルにあつた游泳日本でこれらの記録を残した僕の父もつい先眞他界して、今身の回りの整理をして日本記録証を見つけた。おかげで依頼の原稿もなかなか手を付けることが出来ず締切に間にあわなくなつてしまつた。

冒頭に水泳選手としてはオリンピックに行くほどの偉大な父の事で書き始め、それに引換えまたく名前も記録も残すことが出来なかつた僕の水との戦いを少し書いてみたい。幼き頃より水には親んできた。夏ともなれば朝から夕方まで多摩川や、明大プールで食事もわざれて遊び、小学校時代には学校では一番とおだてられ世田谷区の大会に出て惨敗、中学時代にも出来たての水泳部に籍を置き大した成績もおさめることは出来ず、そして都立に進学、もう水泳はやめつもりで、野球部に入部したが、四月だというのに我都立の水泳部は練習を始め水の生活に慣れた僕の体はジッとしていた。野球部は三日で退部、以後三年間の水泳部生活、しかしながらカエルの子はオタマジャクシにもなれず、黒潮の記録欄を見るのは大変つらい思いをする。なにしろリーメンバー位でしか僕の名前は発見することが出来なくなつてしまつていて。負けおしみではないが水球では記録を残すべはならしく懸念でならない。競泳では対戦に於て頭数をそろえるため色々な種目に頸を出し、あまりかんばしい成績も残すことは出来ず、もっぱら水球に活路を見い出しがんばつたつもりである。あのシートの決った瞬間の快感は今でも忘れることは出来ない。最近又水球を始めたと聞き一度位は母校のプールへも頸を出したいと思つてゐる。

今思い出してもあの鬼の競泳コーチ（横山さん、菅野さん）のシゴキにいかに手を抜いて練習するか頭を悩まし、おかげで大成することが出来ず悔恨を残すことになつてしまつた。現役諸君は手を抜かずせいぜいがんばつてもらいたい。後で悔まぬためにも。

現在では家庭を持ち、仕事を持つ身で年に数度水に体を浸す程度

で、はたしておはれずにゴールまで泳ぎ着けるかはなはだ疑問である。ましてや水の中で球をあつかうなんて考へることも出来ない。

かつては水球の練習用のゴール板に穴を開けてしまおうと、ジュー^トの練習に熱を入れていた現役時代の体力と馬力は今や狂乱物価との戦いに費やし、シゴキからの圧力をのがれるすべは妻からの圧迫にたえられる気力を培つて現在の生活に生かされている。

同期の桜の現在

三十八年卒のある人

(早坂義昭) 農林省の役人で、一般庶民の血税で世界に誇る我国の農業政策を推進し、米を余らしたり、不足させたりして楽しみ、競馬を国民的娯楽にして上げ又々さやかなる財布を軽くするのに役かっているらしい。眼下千葉の家庭で子供のために乳しばりをしていくるとか?

(森健二) 電々公社に於て、電話の盗聴の技術をみがき米国ホワイトハウスにてその技術を生かしたとか? 背いレモンの味がする幼馴染とめてたくゴーリン、今や二児の親父となり千葉県で家庭を持つていて。

(北村満彦) リコーに勤め得意の電子リコビーで壱万円札をコピーして大金持になろうと日夜努力をしているそうだが成功のニュースは入つて来ない。中学時代のクラスメートとの長い春にめでたく

ゴールイン、乳母車に子供を乗せての駒沢公園の散歩すがたは月賦店のCMにびつたりである。

(中井啓之) 建築の方では怒力のかいあつて今や工学博士の肩書も持ち、地震が來てもこわれない大小屋の設計は大いに注目されているとか? 嫁さんをもらつたニュースは入つてこないところをみると独身生活を羨慕しているのかそれとも嫁のきてがいなかの後者の方が有力な説である。

(武村昶正) 家業のあとつき、ささやかな給食センターを営んでいる。近所の犬猫が姿を消したそなが關係ないと思う。一人前に結婚はしてゐるが子供の作り方を知らないらしく、親切な人はだれか教えてやつてほし。

(佐泊久美子) 花の三十八年卒(?)の中の紅一点、いや黒一点かな? なにしろ一番色の黒いのが彼女、早坂でさえかなわなかつた。現在消息はまったく不明、音楽関係の学校でフルートをやつていたとの話、ランバル、ニコレとならぶ世界的フルーティストになつたとの話もないところを見ると、平和な家庭の主婦の座にデンとおさまつてゐるかもしれない。子供も沢山、なにしる安産型、子沢山タイプの体つきであつた。

以上が我々仲間の姿である。我々も今年は三十才、小さな子供達に「おじさん!」とよばれてもしようがない歳となつてしまつた。我々三十八年卒でメドレーのメンバーを組むとしたら、バツク早坂、ブレ森、バタ武村、アンカーノー北村とこの順になるが、まったくの偶然ではあるが、それぞれ結婚したのが順に四十五年一月早坂、二月森、三月武村そして北村だけは一寸おくれて十一月にめでたく嫁さんに来ていただいて現在に至つてゐる。

(追伸) 水泳部には関係ないがTBSで馬鹿なアナウンサーとして有名な久米宏は我々の同期である。後輩諸氏もせいぜい応援してもらいたい。

水泳が一番苦しかつた

四十一年卒 菅 沼 千 明

先日、ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈博士が日本に帰られて、TVの画面に出ていた。そのとき彼は、「研究者はちょっととした発見に喜びを見出す生き物である」というようなことを言つていたが、私も研究者の端くれとして共感するところが大であった。

私の専門は電気回路網理論であつて、研究内容もノーベル賞には程遠いようであるが、それでも小さな発見に喜びを感じ、それに胸はずませることも少くはない。もつともその反面、悲愴のどん底につき落されることもある。ついこの間も半年かけた研究の成果がすでにアメリカの学者によつてやられていたのを知つた時は、非常にくやしい思いをした。しかし浮き沈みがあつてこそ物事にやりがいが見出せるのだろう。

水泳でもそうだつた。練習は今思い出してもつらかったが、やはりタイムが上つている時は楽しかつたし、疲労さえもこち良かつた。しかし逆に、ランプに陥つたときの苦しさは今でも良く覚えている。不思議なもので、そんな時の疲労は何倍にもなり、ブール

に向う足どりが重く、実は大学時代には何度も練習をさぼつたことがあつた。

私は高校、大学と水泳をやつたが、その当時をふり返つて今研究をやつっている自分自身を見ると、どこか共通のバターンを歩んでいるような気がする。ただ一つ違つてゐるところといえば、困難に対してさほど苦痛を感じなくなつたことだろ。難しいと思えたときはいつも五十メートルインターバル・トレーニングをノルマ四十一秒で三十本やる氣で切りぬけてきた。たいていの場合、五十・三十本より楽だったようだ。そして今でも今までに一番苦しかつたことは水泳の練習ではなかつたかと思つてゐる。勝海舟は、「俺が本当に修業したのは剣術ばかりだ」と言つたが、これほどではない。しかしあやかりたいものだ。

英語の勉強について

四十一年卒 井 上 武

今年の一月から三月まで、会社から離れて貿易研修センターで勉強しました。貿易研修センターとは、国と財界の出資により設立された国際人養成のためのビジネススクールといつたもので、静岡県富士ノ宮市の山の中にあります。研修生は、企業・官庁・団体などから派遣されます。卒業生も三百名近くになるとのことです。ここには、三ヶ月と一年の二つのコースがありますが、私はこの三ヶ月

コースで勉強したわけです。研修の内容は、英語と貿易実務の二つに大きく分けられます。英語の内容は ① Pronunciation

② Structure ③ Vitalization の三つです。このそれ

ぞれについて、能力別の十人程度のクラスが編成されます。①は発

音とヒヤリング、②は構文とその変化、③は話すこととのそれぞれ能

力アップを目的としています。これらは、私の学生時代の英語の教

育法とは全く異なるものでした。都高での英語は、①リーダー②英

文法③英作文の三つがおもな内容ではなかつたかと思ひます。すぐ

なくとも、発音についてはあまり習つたという記憶がありません。

発音などは、中学校でやつておけば、今になつての矯正に苦労する

ことはなかつたと思います。とにかく、このよだな内容で三ヵ月間

英語を勉強したわけです。このほか、研修センターは全寮制ですの

で、夜には、外人教師とのディスカッションがあつたり、週二・三

回は講演会などがあつたり、一日中英語にとりかこまれてすどした

わけです。この中で感じたのは、「英語力」というのは、学識とか

教養とか、その人の全人格と密接な関係があるということです。た

だ単に、日常の英会話ができる——たとえば海外旅行で不自由しない

程度の英語——ということならそれほど問題にならないでしょう。し

かし、ほんとうに内容のある会話をするために、単に、英語の発

音が良いとか、構文や前置詞の使い方を知つてゐるということでは、

不十分のようです。ほんとうの会話——コミュニケーション——ができ

るために、その人の人格とか教養・学識が基礎となつてその上に

英語の力がなければならないと思われます。英会話スクールなどの

語学教育は、非常にさかんで、それはそれでよいと思いますが、そ

れよりも、もつと会話のための基礎になるもの——人格・教養・人間

性など——のほうが重要ではないでしょうか。「話すことに内容がなければ、話しても意味がない」。こんな簡単なことに、三ヵ月の研修後、気がついた次第です。

私の彼は左きき

四十三年卒 菅ヶ谷 泰 邦

「私は、かの麻丘めぐみの『私の彼は左きき』という唄が大変好きなのであります。しかしそれを言うと皆バカにして笑うのです。なぜでしょうか。日本で左ききの唄は初めてなのに……。」

人が良いというのか、バカというのか、今年は黒潮を出しますと言われて、二つ返事で原稿を書くといつてしまつた。いつてしまつた以上、なんとか名文を書いてやろうと、アーティストでもない二つ、三つ書いてはみたが、とてもトルストイにはなれそうもない。ツルゲーネフの方がはるかに良い文章を書いてゐる。(黒潮十九号二十頁より)しかし問題は内容だ、などと思つてはみても、ナターシャを題材にして人間を追うだけの文才もなし、鴨もた易くはみつからない。されば、視覚にうつたえて劇画調に梶原一騎か、さいとうたかおで追つてみようか。根性ものはやすれた感があるので、クールに目で勝負してみようか、などとロクでもないことを考へてゐる。「案ずるよりも生むが易し」で、ともかく書き

始めたら支離滅裂なものができた。あとはふてくされて、開き直つてみるのも一興かもしれない。

ふり返つてみれば、現役時代もその連続であった。今さら眞面目になつたところで何も起るまい。どうせ一週間監禁されてしまふに死んでやると、開き直つて腹をすえたとん、自己新を十秒もうわ廻つてしまつた。インターバルのノルマも前の日の記録になる。それでも全部切つて泳いだらコーセーが「こいつはバカか、気狂いか。」と言つたので「ハイツ、バッカ（バッタ）です。」と答えておいた。これはいけると翌年の春季大会へ出たら、速い奴らはバタフライを泳いでいる。ブールへ帰つてマネをしたら「前よりもカッコがいい」とみんな無責任なことを言う。カッコがいいなら、

これで泳ごうとバカをしたらよけい疲れた。疲れるから流していくら、三年になつて狂い咲いた⁽⁷⁾村山氏が、猛然と追い上げてきた。これは危いと、ブールの底の彼氏に別れを告げて、鶏頭を選ぶことにした。するとかの村山氏は、変なインターバルでしごきにきた。

「ンッ、これが理想のインターべルだ！」とひとことおつしやつてひきあけていかれた。あーそうですかとふてくされていたら、ワル

のりしていた菱沼コーセーが、ダッシュでフリーと一緒に泳げと言わされた。岩瀬、中原両氏は「気狂い、とばすな、流せ！」と言う。黙つてしまら両氏は、「波が立つて泳ぎにくいらばの前へ出て泳いだらいいだろう。」と全く明解なことを言われた。

あたりまえのこと、いちいち文句を言ってあれは、一生かかるでも速くはない。夏が暑いのも、練習がきついのもあたりまえのことである。これにダチを言つていたら体は動かないし、かえつ

て疲れてしまう。無理があたりまえとして通用するのが運動部である。その無理に反抗すれば、「流すな！」「増し！」の罵声がとぶ。更に反抗すれば「流しの名人」「根性の人」とまつりあげられてしまう。本当に流したかどうかは、各氏の太宰風、三島風の告白によつて始まる。曰く「オレは流してしまつた。」、「オレは流した。」卑下するか、美化するかは、トンネルを抜けたかどうかに關係するのかもしれない。あるいは入口を間違えたのかもしれない。

「誰か光を！」

「私が何をしたと云うのですか。」

——あなたは、何もしてこなかつた。それが、あなたの罪なのです。

「しかし、しかし少なくとも努力はした。」

——その努力も「速けりや良いんだろう。」という開き直りにすぎない。

「あー、誰か光を！」

——自分の力で歩いていきなさい。扉はすぐそこにあります。

就職もどうにか決まり、解放感からフラツとブールへ寄つた時、今季のH・コーセーの田島君から「先輩の記録が破られるのは、時間の問題ですよ。」と告げられた。なる程マコトに速そうな現役がいちに嘆願した。しかし、かの鬼コーセーは「泳ぎにくいらばの前へ出て泳いだらいいだろう。」と全く明解なことを言われた。

しかし五年の歳月は白い肌と見知らぬ各校コーセー陣、聞き慣れぬ記録保持者という大きな波で一度に押し寄せてきた。その大きな波の前に私は、ただ観戦させてもらうだけで、なにもできなかつた。こ

の淋しさを誰に伝えよう。そうだ、ウルトラマンを呼ぼう……。

「田島君、水谷君、菱沼君、葉袋さんごくろうさまでした。

そして、現役諸君、来年もガンバリましょう。

三年の大石君、よくガンバリました。

無変化

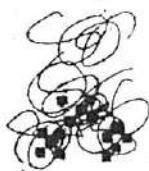
四十四年卒 伊藤 隆

イヤサカ一 水泳部、イヤサカ！

黒潮の原稿を書き終えました。読み返してみると、バカだなアといふ自己嫌悪に陥りそうです。でも、こんなバカな先輩もいるんだなといふ安心感を後輩に伝えるのも無駄ではないかも知れない。世の中、全て茶番劇とニヒルなことをおっしゃる代議士もいるのだから……。などと自己満足している。いったい、それが自分自身なのかわからなくなってしまった。（九月二日 日誌より）

月日というものは驚くべき早さで過ぎて行くものです。会社づとめを始めて四ヶ月という今、高校を出てから五年という時間が経過しています。

水泳部にいた時には、大学生のコーチが随分大人に見えたし、ましてや会社づとめの人となると二世代位上の人の様に感じられたものです。ところが、現在の自分を眺めてみると、一体高校時代からどれ程の進歩があつたのだろうかと首をかしげてしまいます。いや、進歩というのは適当ではない。どれ程変つたのだろうかと言う方が良いでしょう。変つたことは変つたのです。若干ヒゲが濃くなり、すね毛も生えそろい、肉の付き方も中年型へ移行するきざしが見え始めています。酒、タバコをたしなみ、麻雀も一通りのおさらいは済みました。大学における知識の吸収はいくらか社会の毒に対する免疫性をつけてくれたかもしれません。けれど根本的なことは何も変つていません。究極的なところで下だす判断はあくまで主観的なものであるし、その基準も変つたとは思えません。それは相變らず自分にとつては混沌としたものなのですが、でも何があるとやっぱりそこの中から結論を引きずり出して生きています。現在の自分は高校時代にはほほ出来上つていたのではないでしようか。それも最も重要なところが。しかし、これが一般的であるとは言いません。



この五年間、暑くかつ暇な時はやはりプールに行っていました。プールには僕の高校生活があり、行つてみると相も変らない現在の僕がいるのです。

“夏”という言葉から思い出されるものは、プールのまわりの風景、特にプールを囲んでいる白いコンクリートのへいと、そのむこうにある青い空を背景とした木々のざわめき。それが熱い陽ざしの中で照り輝き、プールでは陽やけした引き締った腕が水しぶきをあげ、快いピッチで水を切つて行く。プールの底には水面の影が、そして自分と両どなりを泳ぐ人の影がゆらゆらと……。“天国”です。

去年はあまりプールに行けなかつたなア。初めて行つたのは六月終りのある日、夜中の十一時頃でした。福島と自由ヶ丘で飲んで、そのまま酔う程に高校まで歩き、いつものようにへいをよじ登り、テニスコートを横切り、金あみを又よじ登ればプールです。ストレッジで現役に疲労が見えてきた頃、唯一本当に命をかけ、トップを奪つて悦にいるのが精一杯。あらためて練習の達大さを思い知るのみ。そして体には水泳独特のあの疲労感。しかし、それは仲々こち良いものなのです。帰りしなにすするコーヒーガバッゲンでした。

そんな時に伝統の良さを感じます。伝統とは今の僕にとっては、いつ行つてもある、行かなくても根強く命脈を保つてゐる、そんな安心感。そして過去の自分を現役から引き出し、現在の自分に投影してみて、その無変化にアホらしくなり、かつ安心する、そんなものなのです。現役の頃には伝統とはシゴキに来るものとしか思えないのでしょう。それも正しいのですが。

とりとめのなき、文の拙なさも相変らず、この辺でやめておくことにしましよう。

それから新しく入つてくる現役諸君に一言。水泳部員たるもの一度は“水着を着用せず”五〇メートル以上泳がなければなりません。このプールは横に泳ぐのに最適です。特に平泳ぎでは水中で一かき一けりをすると、あと二ストロークで岸につくのです。

それから新しく入つてくる現役諸君に一言。水泳部員たるもの一度は“水着を着用せず”五〇メートル以上泳がなければなりません。これが黒潮会の伝統です。伝統とは尊いものなのです。

今年は七月下旬の某日、初めてプールに顔を出しました。ちょうど合宿の最中だったのですが、例年の如く、水中には現役が、プー

ルサイドにはOBがにぎにぎしく顔をそろえ、インターバル、PK

C、ダッシュ等々、修羅場を演じており、そんな様を見ると心浮き立つものを覚え、私も負けじと飛び込みましたが、運動不足の筋肉と、ヤニで目づまりした肺では如何ともし難く、二〇〇メートルも泳げばあの過酷な合宿を思い出し、水から抜け出し、五〇メートルダッシュで現役に疲労が見えてきた頃、唯一本当に命をかけ、トップを奪つて悦にいるのが精一杯。あらためて練習の達大さを思い知るのみ。そして体には水泳独特のあの疲労感。しかし、それは仲々こち良いものなのです。帰りしなにすするコーヒーガバッゲンでした。

恋愛についてちょっとと思ひ出した事

四十六年卒 宮 本 隆 男

さて何から書こうか。私は昨年の春大学に入り一応の安定はみたものの、なぜか心の奥底ではやはり昔のままの何か得体の知れない懊惱がわき上つてくる、それは何だろうか。あまりに深くしみてゐる出来事。そう、あれは私の失恋の事でしょう。今まであまり友人赤裸々に告白してしまおう。この為私が今夏ブールに行く事が出来なくなりともかまわない。そうすることが、二十一才をむかえ、もう心の疼くような純愛を経験することもあり得ない今の私に対する総括となるからである。かと言つて恥しさが皆無というわけではないのですよ！ では語ることにしましようか。

今を去る事七年、私が中学三年。彼女も同じく中学三年。東京都世田谷区立尾山台中学に通つていた。私は当时三一Bに在籍していて彼女、名を市川薰といふ、は三一Cにいた。三年になつて組分けがあつて私と悪友の白須謙治は三一B、三一Cにと分かれてしまつた。始業式の後三一Cに白須の奴を訪ねてみると、どういう訳か奴は一人の女の子と座つていて、こう私に言つた。「女の子と同じ席になつちやつた。この人市川さんといふんだ。」別にその時はなんて事はなくただ頭を下げて挨拶しただけだつた。ただ奴が妙にテレしているのが可笑しかつたのを覚えてゐる。それから三ヶ月程過ぎ

て、私は夏休み恒例の林間学校へ行くことにした。一年・二年の時は海へ行つていたのだが、その年には山もいいんじやないかと思つて奥日光へバスで出かけることにした。一九六七年七月二十三日、バス数台に百数十人の生徒が分乗し一路奥日光へと向つた。気が付いてみると私の前の席には彼女が居た。そこで初めて彼女と話しか交すことになつた。内容はすつかり忘れてしまつたが、彼女の舌をはりつたけの話しをした。話しが途切れないので氣を使い、中禅寺湖に至るまでの道中話し続けたようだ。その日の宿舎は確かに戦場ヶ原近くの旅館だつたと記憶している。私は持つて来たカメラにフラッシュユニガンを付けて彼女を撮ろうとしたが失敗してしまつた。そのため全然関係のない女の子を撮るはめになつてしまつた。翌日私は五色山から前穂高へかけ登山することになつた。これは男子で特に元気のよい者だけで、自信のない者や女子は別の乗合車を登つたようだ。私は一番きついルートを選んだ。登山経験のない私は五色山まで本当に疲れた。そして山頂でニギリメシの昼食をとつていると、ボソボソと大つぶの雨が落ちて來た。雷までも鳴つて來た。大急ぎで下山しなければいけない。山道はまるで小川のようになり、後方から閃光とすさまじい雷鳴がせまつてくる。ころがるように走りながら、雷鳴と閃光との間隔を一ツ二ツ……と数えていた。最初は十秒ぐらいだつたがほとんど同時にになつてしまつた。つまり真上で雷雲が暴れているのであつた。雷と雨はますますひどく、ほんの数十メートル先で落雷の為木が縦に裂けるのを見た。十分程走つてると女子達のグループに私は追いついた。そこには薰がいた。何て最初に言つたか忘れてしまつたが、並んで

二人一緒に下山したことが記憶によみがえつてくる。あるひどい落差に私は差しかかった。私は先に下りて薫の手をとつて下してやつた。その時に薫はどういう訳かバランスをくずしてしまい、私の体にもたれかかるような形になってしまった。私の方は薫の手を右手に握り、薫の体に左手をまわした形をとるようになつた。ほんの数秒間だけであつたが、私はボーッとなつてしまい目の前が真暗闇になってしまった。すると薫は私の手をふりほどくかのように身を踊らせ、まるでウサギのようピヨンピヨンと登山道を走り下りていつてしまつた。私はただその元気な後姿を見つめていただけだつた。靴は水に濡れて重く、そんな足を引きずつてキャンプ場のある管沼へ歩いていく心は重かつた。その夜はそのキャンプ場のバンガローに白須やその他二人と泊つた。翌日、バスは再び出発し法師温泉は本来混浴であるが、私達が行つた時はベニヤ板でしきりが作つてあつた。その夜、私は数人の男共と女の子の部屋へ行つてみたが、どういう訳か薫は部屋に居なかつた。後でわかつたことだが、薫は白須の奴と一緒に花火をしに行つていたのだつた。そんなこんなで私はひどく滅入つてしまつた。(これを読んでおられる諸兄は全く子供じみているとお感じのことと思ひます。私も同感。よくもまあといつたところですが、当時の日記を読み返してみると我ながら赤くなるようなことがもつと長々と書かれているのですから、まことに始末が悪い。)

さて日光から帰つて来て数週間たち、私はその頃図書館の委員長をしていた為、夏休みでも連日学校の図書館に通つていた。ある日私がテーブルに向つてラベル張りやら分類をしていると、薫が入つ

てきた。薫は私に写真の礼を言つた。(帰りがけに榛名湖の近くで撮つたもの。今も大切にしている。)そして二人でどんな本がいいとか、こんな本を読んだとか私にとつて楽しい一時を過していると、友人の川田がやつて来て私に話しかけてきた。人の気も知らないで、その間に薫は帰つてしまつた。私は今でもこの時の無念さがこみ上げてくるような気がする。

二学期に入り私の学校へ行く楽しみは薫の顔を見るだけだつた。ああなんとその頃の私の小心なことか。顔を会わせてもただ会釈するだけ。話をしてもことさら避けているようなものだつた。そなくせ薫に対し思ひはつのるばかり、しかしラブレター一つ書く勇気がなかつた。というのも薫の友人のある女の子にラブレターを書いた奴がいたが、なんとその女の子は仲間内にその手紙を公開して喜んでいたので、私はそれを極度に恐れたのだった。全く女の子の残酷さには驚きます。

ここで少し薫の概説をします。身長一五八センチぐらい、体形は普通、足はやや短め、髪は耳の下ぐらい。大きな深くて黒い瞳、ちょっとソバカスの見える鼻、舌たらずで甘つたるい話しぶりは大らかで包容力のある感じがする。反面、頭脳明晰。中学時代私は、他の学科はさて置き、多少数学に対しての自信があつたが、薫にはいつもテストの点で負けていた。腹立たしい限りであつた。

勇氣。これさえあれば今のような悔恨の情はもう少し軽減され得たろうに。ついに卒業に至るまで出でじまいだつた。そしてせめてもの名残りにと、薫が持つていた青いバラの花を形どつたハンカチへ卒業生にくばられた。をそつと戴いただけだつた。この青いハンカチは今も大事にしているが、以前誰かに使われたことがあつ

てその時は大いに腹が立つた。

卒業後、薫は都立青山へ、私は都高へと別れ別れになってしまった。以後は青山の文化祭へ一度行つた折りに会つてちょっと話しかけた程度。またどこかの街角でちょっと見かけたこともあつた。私の胸の中にはどうにもならないくらい薫への想いで一杯だつた。しかし水泳部にてその中で厳しい練習があるうちにはまだよかつた。毎日の練習が薫を忘れさせてくれた。でも二年の秋となり記念祭も終る頃には胸の中にボッカリ大きな穴があいてしまい、その中を薄寒い風が吹きぬけていき私を何かに駆り立てるのだつた。そこで私は心の命じるままに薫へ手紙を書いた。真心をこめて書いた。ヘタでひどい私の字でどう書いたかは忘れてしまつたが、薫から一応返事が来た。それは私を悲しませるのに充分だつた。私はガッカリしてしまい、しばらくは何も手につかなかつた。自殺なんて言葉がチラッと頭の隅で閃いたこと也有つた。まことに今から思うとよくまあんなにマジメに考えたものだ。だいたい名前しか知らない男から急に、しかも何年もたつて突然変な手紙をもらつて、うれしくもなんともない決つている。かえつて困つてしまふ。いや馬鹿馬鹿しくなるに違いない。そんな事とは露知らず私はその後も何度も書いたのである。当然結果は分り切つていい。軽く受け流すような感じの返信を一度だけ受け取つた。

その後、最後に薫を見たのは奇しくも浪人一年目の夏、駿台の夏季講習会であった。その時は逆に薫が恥しそうに見えた。すぐ私を認めて近づいて來た。京大の法学部を受けて落ちたこと。その後こうして予備校に來ている事。来年もまた受けること、等々相変わらずの明るさを持つて話してくれた。私は北大医学部を受けて落ちた

こと、白須は戸山から東京医科歯科を落ちたこと、また奴とは中学時代のように一緒に駿台に通つてることなどを話した。医者になりたいと言うと、薫は「おそろしいわネ。」と下を向いて笑つて言った。「僕がなるのがかい。」「両方共ヨ。」私の目の前に立つている薫は白いブラウスにミニスカート。まぶしい夏の太陽にてらされてゐるその姿を私は真直に見ることが出来なかつた。胸のふくらみが少女から見事に若き女性に変身したこと物語つていた。あれから二年以上たつてしまつた。私はそれ以後薫とは会つていない。今度会う時薫がどう変わつてゐるか。また私がどう変革しているか。楽しみでもあり恐ろしくもある。その時私がどういう風に薫を見るか私自身にも分らない。

現在の心境はと言えばこんなことなのです。たまには炎のような想いにかられようとも、現実を直視することでこの辛い想いを抑えられるようになつたと言えるでしょう。それは辛いとか悲しいとかいう感情よりも、年と共に風化していく想い出に対する寂しさと言つたものでしようか。また同時に私が過去において持つていてかもしけない純粹さとか素直さを現在ではどこかに捨ててしまつたのかもしれない。薫を想うだけで体の底のほうから湧き上がるあの胸の痛みはもう昔のものとなつてしまつた。何故か妙に興ぶつて寝られぬ夜が続いたあの頃はもう二度と帰つて来ないのでした。それは私の少年期の終わりなのかもしれない。するところからは一匹の男として、子供ではない、子供ではない、と自分で言い聞かせつゝ生きてゆかなければならぬのだろう。社会における責任の重さは少年期のそれとは比較にならない程増大してゆくことになろう。その中で自分が生きてゆく時、必然的に一人の大人と大人としての関係を女

性との間に持たなくてはならない。その重さたるや私は到底耐えられそうにない。例えば高校卒業後四年程してクラス会に出てみるとしよう。そこで会う女の子達の変身ぶりはどうだろうか。誰々は結婚したとか、誰々さんはお見合いとか、私には遠い世界のことが彼女達にはごく身近なことになつていて。私にはとてもじやないが耐えられないものである。しかしこの耐えられない事実があの薫にも起つていてとしたらどうだらうか。残念ながら私はどうすることも出来ない。ひたすら逃避するだけである。無茶苦茶に勉強するかもれないし、減茶減茶に酒を飲むかもしない。そんなことは分らないが、ただ後々までひどく悔しいことだけは確かである。

さて私が恋愛について思うのは、互いに一人の人間として尊敬し合えたら、ということである。人格的な長所を認めつつ幸福な生活が営めたらと思うのです。可愛い女性は確かに好きだ、でもそれだけでは女性として、一人の人間としての何かが欠けている気がする。美は知性と教養と、なによりも人間としての思いやりから生まれるのではないでしようか。従つて学校を出て花嫁修業を積んでただ漫然と親の勧める男を待つような女性は、たとえ美人で可愛らしくても、どうも尊敬しかねるなあ。人形のように心を持つてないようと思てしまふ。常に何か問題意識を持つ人、それは女性に限らないけどそんな人が理想であると同時に、自ら範とする生き方なのです。

別に年とつた訳でもないのに変に私はこの頃過ぎ去つた日々を回想するのです。都高水泳部に入つてもう六年にもなつてしまつたのです。時は夢のように飛び去り、楽しい事、苦しい事も一緒くたにもう決して戻らぬ想い出になつてしまつました。夜一人でいるとふと思ひます。ここにいる俺は本当の自分なのだろうか。仲間と一緒に

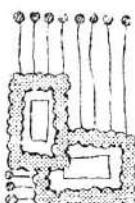
に泳ぎ遊んだあの楽しい日々の自分は一体どこへ消えてしまったのか。無性に寂しくて悲しくなつてしまふ。この刻々と動いて行く時間が恐ろしくなつてしまふ。なにがどうして、過去があんなに甘美でかつ愛しいものなのだろうかと。いつまで書いても出るのはため息ばかりです。

最後に、私は今年もブールに参ります。十代の持つ奔放とまばゆい太陽を求めて。

では先輩諸兄及び現役諸君、ブールで会いましょう。

一九七四・三・二十六

無事教養二年に進級出来た日に。



「十年目」

四十六年卒 薩 級 子

(そんなに水の中にいて、よくあきないわね。まるでカッパみた
い」とは、友達が私に対してもうことばである。せめて「人魚」と
でもいつてもらいたいのに……

水泳を始めて十年目になる。なぜ、水と縁が切れないのか、自分
でもふしぎだと思う。

思い出してみれば、いろいろなことが次々とうかんでくる。高一
の十六校、百米自由形で一位になつた麹町学園の沢田さんが「あり
がとう。あなた達が飛ばしてくれたから、私もベストが出たんだわ」
とうれしそうにいつてプールから上つた。

さわやかなことばだつた。

その翌年の関東大会。アドバイスを与えると、早朝六時にはも

う姿を見せて、「クール」の一言でスタート前の緊張をほぐしてくれた、村山先輩。そして十六校の個人メドレー決勝直前、「飛ばせ
ば勝てるぞ! 相手が強いのはブレストだけだからな」

その言葉に勇気づけられ、ベストが出た。あとで聞けば、「三種
目はお前と同じくらいの速さで、ブレストは相手のほうが速いから、
ほんとうは無理だと思っていた」とのこと。村山コーチの心理作戦
はみごとに成功した。

去年、武藏大学の田崎さんという人を知つた。やはり水の大好き

なスママーである。インカレの日、盲腸を薬でおさえ、全力で泳ぎ
きつた田崎さん。自己にきびしく、最後までがんばりぬいたその姿
に感激した。

同じインカレのとき、一生懸命練習してきた友達が決勝で失格になつてしまい、更衣室で泣いていた。心から水泳に打ち込み、試合
をめざしてがんばってきたからこそ、『くやしい』といつて泣ける
のだろう。

その情熱に少し圧倒されながら、うらやましさもあつた。
今、とても残念なのは、勝つても負けても泣けるだけ打ちこめな
かつたこと。

練習中でも、『自分からやる』という意欲が足りなかつたようだ。
コーチがいくら必死になつても、泳ぐ者が何も考えず、ただ泳がさ
れるという気持だけだとしたら、つまらないことだと思う。
自分から泳ごうとする意欲をもつことは、とても大事だと思う。
そして自分の泳ぎをみつけられれば、すばらしいことではないか。
試合に勝つことだけが泳ぐ目的ではないし、自分なりに精一杯や
れたら、結果など、たいしたことではない。

水泳に関してだけでなく、どんなことに対しても、意欲的に自ら
やろうとする気持を、いつまでも持ちつづけていたいと思う。
水泳、十年目。今年もまた『泳ぎたい』とさけんでいる。やっぱ
り私は、カッパなのかもしれない。

私の小さな冒険

四十六年卒 戸 叶 佳代子

黒潮の原稿の締め切りが近くなつたある日、急に何か書きたくな
り、思いつくままにペンを走らせてあります。

「かわいい子には旅をさせよ」という言葉がありますが、今、私はその事の重要性をひしひしと感じております。と言うのは、家を新築するにあたつて両親と別居することになつたからです。初めは反対されましたが強く希望したため、金銭的な援助をしないという条件で許してもらいました。

別居生活がはじまつてからは、親と離れたという解放感とそれに基づく自己の行動に対する責任を感じ、毎日充実した生活を送つていました。金銭的な問題に悩まされてきました。家賃はもちろんの事、この世の中は狂つたような物価高、今まで自分のお給料はすべて小使いにしてきた私にとって、今度はそのほとんどが生活費になつてしまい、こんな状態だつたらいつそり親元に帰つてしまおうかと思つたりしました。でもここで負けたらダメだと思いがんばつてしまひました。

又、精神的にもずいぶん苦しみました。ふとさびしくなつた時でも話し相手はなし、遅く帰つて来た時でも待つているのは真暗な部屋だけ、何度も涙が出そうになりました。こういう経験をして初めて親の存在価値をあらためて考え直し、自己との戦いに苦しみ、ほ

んとうですがらしのものでした。だから後輩の諸君にもお勧めしたい。半年でも一年でもよいから親元からは離れ、すべてにおいて自分の力で生活してごらんをさい。きっと何かが得られるであろうし、これから長い人生において、大きなプラスになると思います。
私のほんの小さな冒険でも参考になればと思ひそ書きました。
家が立つまで後わずかですが、この貴重な時間を大切にして行きました
と思つております。

我が現役時代

四十八年卒 横 翟 昌 之

今日、卒業して初めての黒潮会に出席した。黒潮会規約第四条の会員規約によりめでたく黒潮会会員となつて初めての黒潮会であつた。現役・OBの紹介の時には当然OB側に属したわけであるが、OB側から現役諸君を見ると、現役時代にOBに対した時の気分とは違つて、一種異様なものがあつた。思うに、あれは一言で言うなれば都高ブールにおける主役である現役諸君に対するうらやみであつたのかもしれない。現役時代には早くOB側に行きたいと思つたものだつた。苛酷な練習から逃避したいと思う心がそう思はせたのだろう。しかし、考えてみれば、長い都高ブールとのつきあいのうちで現役側に属せるのはたつたの三年間だけである。それはあまりにも短くそして貴重な三年間であろう。このことを今になつて本当に悟

つたような気がする。伝統ある黒潮会の会員になることは、何と言つてもうれしいことであるが、このうれしさの数倍の喜びがこの三年間に眠つてゐるようと思える。眠つてゐる喜びをあらゆる形で叩き起こすのは、もちろんコーセー以下諸先輩方の手助けもあるかもしれない。いや、当然あるだろう。しかし、最終的に手を下すのは自分自身以外の何ものでもない。自分は、はそして現役三年間のうちどれほどの喜びを叩き起させたであろうか。三年目のシーズン終了時にはすべてを叩き起こしたと思ったのだが、今にして思えば……。

一年入部当時、自分は決して優等生ではなかつた。はつきり劣等生であつたと言つた方がよいかも知れない。体格にも恵まれず、同輩の大和田、平出、横尾の諸君には、はつきりと差をつけられていたようだ。特に同じ種目（背泳）を泳ぐ大和田には、初めから水をあけられた。この頃から大和田コンブレックスは始まつたようである。レース、アーミング、インターバル、ダッシュと、ことごとく負けた。ただ一つ勝てたのはピートだけであつた。しかし、それとて彼は大空を見上げ楽しみながらやつていていたのに比べ、自分は必死にピートのためのピートを行なつていたにすぎなかつた。今思えば馬鹿な話である。夏休みに入り大和田が特別休暇をとり、どこやらへ消えてしまつた時、彼と泳いで勝てないのなら一人で泳いで勝つた。うと心密かに決心し、福島氏の親身の指導のかいもあり、どうにか大和田をかわすことができた。ところが人生はそれほど甘くはなかつた。あれは忘れもしない彼が休暇に飽きたらしく、帰つてきて三、四月たつた戸山戦で彼はいとも簡単に自分を抜かしベストで先に泳ぎ終わつたのである。こんな時、唯一の心の慰めは歴代三十傑になつた。バックは歴代の泳者が少ないとあつて三十傑にのることも、

またある程度まで上に上がつて行くこともそうむずかしいことではなかつた。少なからずベストを出した時には黒潮に見入つたものだつた。しかし自分がいくら上に上がつてもその上には必ず大和田がいた。このことは当然頭にこびりついて離れるとはなかつた。そのうち大会のシーズンとなり、大会に強い大和田に決定的とも言うべき大差をつけられてしまつた。これはもう水をあけられたという表現はあてはまらず大和田との間に一つの大きな川ができるようなものだつた。そんな中で終わつた一年目のシーズンであつたが、袁れにも思われた自分にとって唯一なことは、二百米で三分をかろうじて切つたことであつた。それはシーズン最後の練習日であつた。なぜこのことが自分にとつて唯一なことかと言えば、当時背泳歴代一位を誇つていた田中氏の一年の時の記録をわずかではあつたが上まわつたものであつたからだつた。それでも大和田はこの時すでに歴代一位に〇秒九と迫つていたのである。

シーズンオフに入り、主将に選ばれた。正直うれしさもあつたが、歴代最悪と言われる白星堂々組と称する親愛なる同輩諸君をまとめしていくことができるかどうか非常に心配であつた。ここで白星堂々組について注釈を入れるならば、我が代の二つ上の代に夜襲組なる一大組織があることから始めねばならない。これはその名前から察するに夜襲を特徴とするらしいのだが、夜襲とは一体何を意味しているのであろうか。これを深く追求するとあたりさわりが出てきそうなのでここではしないことにするが、これに反し、白星堂々組とは同じ様な行動を白星堂々とやつてのける組合であるらしく、そのメンバーの大半が教師の所有するプラックリストに名を連ねていたようである。しかし、案するより生むがやすしといふことわざ通り、

彼らの、もちろん自分も含めて水泳を通してブルーその他における団結は非常なほどの強固さを誇った。このおかげで主将としての苦労もありしなかつたが、この点に関しては、同輩諸君に大へん感謝している。そんな中で二年目のシーズンが始まった。当初、一年の人数的弱体化には少々まいったが恨み性旺盛な大石君にたのもしさを感じた。泳ぎだすとすぐに、自分の脳裏にその影をシーズンオフを通して、だんだんと小さくなりかけていた大和田コンブレックスは第一レースでどきつくも表面化したのだつた。このコンブレックスを当時ヘッドコーチをしてくださった角田氏は、よく理解してくれ、自分のわがまま手伝つて、レースとダッショにおいてはコースを遠く離してくれた。だが、それも焼け石に水であつた。大和田がいかなるタイムで泳ごうと、自分は常にその数秒後に泳ぎ終わつた。今シーズンもこれで終わつてしまふのかとあきらめの気持ちが頭を持ち上げかけた時、自分にとつて、大きな運命のいたずらがあつた。それは強化練習中に大和田が交通事故で足の指を骨折したことだつた。一言でこの時の自分の気持ちを言い表わすことは、とても不可能である。主将として、今シーズンのエース級の人間を失うこととは、ヘッドコーチ以下諸コーチの方々に非常に申し訳ないことであり、また現役全体に悪影響が及ぶのではないかと心配した。しかし、自分の偽りのない心にそれを問うをならば、少々から「喜ぶ気持ちがなかつたとは決して言い切れないであろう。ともかく、これで自分の大和田コンブレックスが次つ飛んだことだけは確かであつた。この時から、自分は少なくとも二百米において歴代一位を意識して、レースをしてインバーバルを泳いだ。大和田のためにも自分が田中氏を抜こうといささかあつかましい考え方でもが働く

いた。そして、ついに八月十七日、角田氏、福島氏の指導のおかげもあり、二百米において念願であった歴代一位となることができた。あの時の喜びは、今でも覚えている。そしてちょうど一年後の八月十七日、百米においても歴代一位となり、自分にとつて八月十七日は、忘れる事のない日となつた。一方、大和田にも自分への意地があつたのだろうか、全快しないうちからまた泳ぎだした。その根性には、大へん敬服している。練習終了後、一人、角田氏のコーチのもと、アーミングを始めたのであつた。しかし、時期的に大会が近づいていたため、二百米競泳要員として、フリーに転向してしまつた。そして、彼が二継要員として大会において多大な活躍をしたこととは言うまでもない。しかも、彼が大会で活躍はまだあつた。闘六で百米背泳に出場して、予選において、自分を上回つたタイムで泳いだのであつた。そのレースで大和田に負けたと知つた時、自分は一瞬放心状態におちいつた。しばらくして、それは、驚きやら、自分に對しての情けなさやらが混ざつた複雑な気持ちに変わつたが、この時はさすがに、大和田コンブレックスを今までの練習の積み重ねによる自信が、からうじておさえてくれた。そして、決勝ではどうにか勝つことができた。しかし、この時、もつと大きな視野のものと現状を見つめると、決して芳しいものではなかつた。シーズン途中で、大和田と並ぶエース級の人間を、これも事故で戦力的に失つた。それでなくとも、人数的弱体を誇っていたため、都高チームとしては十六校、闘六にまつたく相手にされず、各自の記録を見ても低迷なもののが多かつた。自分も二百米に比べ百米が著しく遅かつた。そして、いくら歴代一位であつても大会では勝てないと、一年前ヘッドコーチであつた福島氏が自分達に口をすっぱくして言われ

たことを自ら身をもつて体験したのであつた。この二年目のシリーズ

の大きな悔いが、翌年、我が二十三期の狂い咲きの大きな原因の一つとなつた。

こうして自分の現役時代を字にしてみると、如何ともしがたい気

持ちになる。都高に入学し、水泳部に入部したのがつい先日のよう

な気がしてきた。自分にとつて、高校生活は即ち水泳部の生活であつた。そして常に水泳部における自己中心の三年間であった。その

ため、主将として、その職務に怠慢であつたようだ。特に、一年下

の大石君の代には、先輩らしいこととしてやれず、そのまま卒業し

てしまつた。すまなかつたと思つてゐる。その大石君も今年は三年

目のシーズンをむかえ自ら現役同様の練習をしている。たのもしい

限りだ。たまにブールに行き、彼を見ていると、去年の自分を思い

出す。しかし、去年の自分に浸つてゐる間にも、多くのたのもしい

現役諸君が、去年まで自分がそうであつたように、自己のベストを

そして歴代一位をめざし懸命に泳いでいる。そして、わずか一年目

にして自分の記録を抜こうという者が多数でてきた。もう時間の問

題といふところまで追つてきた者さえもいる。彼らにとつて自分は

自分にとつての田中氏であり、大和田などのであろう。時代とともに

追う者は追われる者に変わる。この世界の一つのきびしさといふものが、このへんにも現われているようだ。今日の黒潮会で一層強く

感じた。恐らく、今度ブールに行く時までには、少なくとも一つは自分の記録も敗られてゐることであろう。せひぜい覚悟して行くこ

とにしよう。

最後に、自分をこれまでにして下さった福島氏、他諸先輩方、そして、自分をよく守り立ててくれた我が親愛なる同輩諸君には、感

謝の念が絶えないことを記し、終わりとしよう。

昭和四十八年 八月十二日

〃初鼻〃

四十八年卒 大和田 晃

ぼくは、水泳部に入ったのです。そうですあの恐ろしい『ほめてやらないよ!』氏がコチの年の水泳部に。

最初の水上練習の日は、暗く冷たい風の次々四月の末だったのです。そう忘れもしない寒い日だったのです。ぼくは、A組のチヨ君や同じクラスの虫メガネ君らと「今日は寒いから出るのよそ」と衆議一致の結果帰路につこうとした時、そうですあのいましげヒがぼくたちの前を横切つたのです。「おおお前、クラブ出るのかー。」とぼくが聞くと、彼は平然と「ああ」と答えてさつさとブールの方へ歩いてしまつたのです。ぼくたちは、啞然として顔を見合せたのです。数秒の沈黙のあと虫メガネ君が「ちよつと見に行こうよ。」と言つたのです。それがまちがいの始まりだったのです。ここで帰つていたらあの醜態を見なくてすんでいたのです。

ぼくは、この寒いのにと心の中で言つたりして着がえを始めましたが、あとの二人は、一向に着がえようとしませんでした。それで一人は悪いと思ったのかちんたらちゃんと着がえ始めたのです。

た。ぼくは、先にブールサイドに出ました。しかしあまりの寒さに

「やっぱり帰ろうかな」なんて考えたがあとのまつりで、Fコーセ

(前出の『ほめてやらないよ』氏)が、「さつさと体操(のちのテ

ンク)しろ!」とどなつたのでありました。なんとか体操は無事

に終わつたのですが:「アップ四百」というぼくにとつても、新人

生みんなにとつて、未踏の距離に近い距離を、アップとしてやろう

としている声が背後から耳になりひびきわたつたのです。ぼくたちは、あっけにとられて「えつ、四百。」と、聞き返しましたが、沈黙・・・・・

と言ふような具合で練習は始まつたのでした。まず練習が始まつ

て間もなく虫メガネ君が、「きもちわるい。たすけて!」と陸に上りました。つづいて元凶のチビ君が相次いで倒れたのでした。さ

ま見ろ!

しかし、しかしながら。彼らは毛布にくらまつてねでいるといふのに、深くたちは風呂にちよつと入れてもらえるだけであつたのです。

こんなことから始まつたのです。三年間があつと言ふまにすぎて今はOB、OBはいいな。

完

この作品はフィクションであり、実在の個人、団体とは無関係ではないようです。

僕は、大分に気分を大切にしていたのだ。)

そしていざレース、あの恐るしい福島氏の目が、今日は何故か微笑んでいた。「きっと今日はインターバルを大増しするんだろう。」「ようしべストを出して少しでも皆の為に、福島氏の気分を良くしよう。」などと思ふ、スタート台へ、そしてあの何とも形容しがた

滑稽

稽

四十八年卒 小沢秀生

現役を二年余りでOBという捺印を押され、ブールへ行くと、今の現役に「こおんちゃん」という声におだてられる。先輩としては、可愛い現役に何か差し入れでもという気にさせられる。幸運にも僕は、どうにか逃げて来れたが、これからどうなるのかわからぬ。また来年ともなれば、コーセと呼ばれ、現役に白い目で見られるのだろう。何ともあわれである。

話は変わるけど、現役当時の秘めたる楽しさについて少々。

ある夏の、体中の汗腺が大きな口を開けてあの大ベたたした汗の中に、体を呑み込まれそうな暑く苦しい目に、いつものようにあの魔のブールへ入つた。するとあの大きな汗腺の口も思わず閉じてしまいそうだった。

きつと海水をしたばかりだろう。そういうえば、コースラインの何とはなく清々しい。

「ようし今日のレースは、ベストでも出してみるか。」(その頃

一九七三年秋 著者

い三管笛の音。だが今日の僕はいつもとちがつていた。そしてスタート台を離れた。

水に飛び込むと、体中の皮膚がまるで猫の毛を逆立てるかのように、こわばつて、鳥肌の立つのが感じられた。「こんなに冷たくはなかつた筈なのに」「とにかく俺はベストを出すんだ。」などと思つうちに最初のターンを過ぎて2度目のターンにさしかかると、あの福島氏が、すごい剣幕で「ベスト、ベスト、ベスト」と叫んでいた。「ようししい調子」と思いつつ、ふと右に目をやると、福島氏が赤かなんかのジャージを振り回しながら、走つている。そしてあの一種独特な福島氏の言ひ方で「ベスト、ベスト、ベスト」と叫んでいるのかと想像し、思わず笑つてしまつた。泳いでいる途中で笑うことがこんなに苦しいとは思わなかつた。呼吸は苦しいし、テンポが乱れるし、体中の力は抜けるし、もう最低の状態だつた。そのうちに三度目の壁をけとばして、ゴールにたどりついた。

水から上ると、福島氏が何故か首を傾げてゐる。「残念！」と思つたが、案の定ペーストにはちょっと足らなかつた。「畜生、先輩があんなものを振り回さなければ」などと思つたが、あの言ひ方を思い出し、独りで笑つていた。

そして他にもまだあるのではと考えてみるのだが、何故か思いつかない。やはり、先輩方の恐ろしさが、でんと前に立つていて、そのうしろにある楽しさが隠れてしまつてゐるらしい。（おわりに福島氏を個人的に傷つけたことを謹んでおわびいたします。）

十月三十日

今日は暴りだ。

※越智君よ、これでよいのだろうか！

越智…よい。

編集長…バカッ！こんなのだめだ！

親近なるかな水泳部

四十八年卒 武笠好次

「水魚の交り」（三国志）とは「切り離せぬ親密なつながりの君臣や友人などの仲」の意であるが、それを幾分水泳部を例にとつて分析してみたい。「切り離せぬ」とは、我が水泳部と「乱」であり、「親密」とはこの場合「内密」に等しく、「つながり」とは「頼みの綱狩り」で、それのある友人などの仲と解釈出来よう。それを「切り離せぬ」は納会の「酒宴」日「酒縁」であるとか、「つながり」を「お〇〇狩り」などと解しては大変である。また、友人を同輩とするならば先輩後輩は君臣であろうか。しかしそう解釈すると水泳部（黒潮会）なる一団は（水魚の交り）どころか「陸魚の交り」と化した怪物の内粉により遙か昔に崩壊している筈である。したがつてそれは君臣ではなく「くん信」とでもするのが好かろう。この「くん」にはさほど意味はないので熟視する必要無し。さて「乱」とは、乱心であり乱入である。正しくは乱心による乱入である。次に「内密」であるが、これは「水魚の交り」の解釈一部分であるにもかかららず、その意に反し、現役のコーチに対する「内密」である。この逆の場合は稀であると言えよう。「頼みの綱」とは慈非的なコーチに認められることであり、すなわちそれを狩るのが「頼みの綱狩り」である。

話は代わつて、我が同輩の紹介なり。

疊天の下に縁がブールを憂鬱質に譲しはじめている。晴天の下に土

手の上の女の子が逃げている。「何故逃げる」背泳の越智君と大和田君はそう思つたことだらう。無理もない、水の中では外の声は聞こえない。いつの日も自由形の平出君、田淵君、そしてこの武笠君は折り返しに脅えるばかり。これも無理はない。某先輩に振つてい

ただいた鐘が或る日平出君の頭にゴツン。そして平泳ぎの横尾君、小沢君はその昔、人一倍苦しい時を経験したそなな、以上紹介終り。

それではこのへんで、酒について述べておこう。僕は「日本史」が大兼いである。何故なら「百姓一揆」なる言葉が存在するからであり、この言葉は紙コップよりも、そしてカエルにも増して漢に恐怖感を覚えさせる。都高水泳部員の一揆は、歴史上一揆を起こしたところの原因と異なる。つまり上からの命令により、年に何度も一揆を起こすのである。前に述べた「乱」による乱心、乱入はこの一揆と締密な関係にある。乱心し、一気が一揆となり乱入するのである。一気(一揆)に酒を飲む。その時酒は魔物となり、乱心が亂心を呼ぶ。

涙流して泣く頬を
水の中に隠さんと欲し
共に流すこの身体
辛苦の末に忘らりよか

男河童よ何処へ行く
朝に泳ぎ夕べに泳ぐ

そんな阿保の東団も

いつしか大人となりにけり

水泳部生活における僕自身の内的遺産。

疲れた体がブールへと歩いていると、その前をコーチが歩いていく。「今日こそ来ないといへな、先輩」と、そう思つて矢先、残酷にも僕の前約五十米の所を先輩は坂を登つてゐる。そして勿論、その日も試合どおり練習が開始される。そんなような毎日が続いた。僕は正直言つて練習が嫌だつたが、しかし兎に角練習をしたし、一秒遅いが為にもう百米、と泳いだのだ。そして不思議なことに一度も退部を考えたことがない。辛いが為の我武者羅だつたのかも知れない。理想も現実も無かつた。

今年僕は二十才になるが、思慮も分別も一応頭の中では人並に身についたと思うし、打算という宝物も体得した。「甘くない社会」でガングル為に大学にも行きたい。(大学受験二度失敗、再度来年挑戦の予定)

・そんな今、「五十、六十に至っても若者であることを自差し、これからと言える人生を頑張りたい」というと矛盾するだろうが、しかし水泳部時代の生活が今の自分に自己嫌悪を与えてくれる以上、それをふまえた上でこんな望みを持つのも好かろうと思う。

すばらしき恩師であり、
すばらしき悪であり、
すばらしき善である

ちなみに僕の二度にわたる大学受験失敗の原因は、国語力の欠乏であると自他共に認めてるので、ここに記しておく必要があろう。それでは、高校時代三年間お世話になつた（勿論これからもよろしくお願ひします）諸先輩方々と、前述で紹介した仲間達に感謝の意を表し、そして現役諸君の活躍を祈り終りにしたい。

わ れ ら の 時 代

四十九年卒 大 石 隆 彦

ようやく俺も、あこがれの黒潮会員に入れたわけであつて、以前のように、練習のメニューや、天気の状態や、「今日は、あのコ一チ來てるかな。」などといつた、メメしい心配は必要なくなり、晴ればれとした氣持で、ブールに行くことができるようになった。

ブールに行けば行つたで

「コンチワッ！」

などと後輩たちから、威勢のいい声をかけられる。悪くない気持だ。

ウォツチのヒモをクルクル回しながら、

「お前はネエ、手が外をかきすぎてんんだよ。」

だの何だとコーチするのも、OBでなくては味わうことのできない

独特な感情であろう。

ところが、調子にのつて「いつちよう現役と泳いでみるか。」などと泳いでみると、「オヤツ？」と思つてしまつ。どうもうまく泳げない。タイムを聞くと「アレッ？ そんなにおいのかなア、こんなはずじやないんだけどなア。」とこんな調子。現役と一緒にちよつと練習をつきあつてみると、全身がタタクタになつてしまつて、もうだめです、ハイ。そんな俺の横で、現役たちは、例のごとく、喜々として、漫画の話に熱中し、やれ、アジ・ヤ・バ・イがどうしたの、ビ・ジ・ヤ・バ・イがどうしたのと、その口もとには微笑さえもうかべて話しているのだ。（特に石山の「の目つき!!」）まさに恐布だ。「こいつら、こんなに練習した後、よく平氣でいらっしゃるなア」と不思議にさえる。

しかし、俺も去年はこんな練習をしてきたのかと思うと、ずいぶんと、力が落ちたものだと、考えさせられてしまう。

あの頃は、俺にとつて、なんとすべきな時代だつたのだろう。

ブールの見える、ブラタナスの木の下で、もう沈みそうな秋の夕日を痛いほどにあびながら一人思うと、ロマンチストな少年（俺）は、こみ上げて来るをおさえきれずに、涙さえするのであつた。
……なんていうカッコのイイ、それでいてどこかさびしい気持に、幾度おそれたことか。

そのブールも、あのおんぼろの部室は取り去られ、今や様相を変えようとしている。ある意味で、ブールの、いや、水泳部の転換期と言えるかもしれない。そんな意味から、私の思い出のブール、部室、水泳部に対する別れの歌を書いて、終わりの言葉とかえさせていただきます。

明るい春のそよ風の
ほのかに桜の匂うころ
胸に希望を抱きつつ

入りし俱楽部は水泳部

五月の水の冷たさに
ふるえる我身我心

横目で湯船をにらみつつ
冷たき水へとおどりこむ

真夏のブールの思い出は
つたなき筆では表わせぬ
初めて酒を飲みほして
騒ぎしどきの思い出よ

ああ今はもう戻らない
二度と再び過ごせまい
悔いなき私の青春と
われらの時代の水泳部

「シゴキ反対？……賛成」

四十九年卒 生田茂樹

クラブは漢字で俱楽部である。真ん中の文字に注目してみよう。

これはまさしく『楽しい』の樂である。しかし自分の現役時代のクラブは、まったくそれにおよびでなかつた。今、現役の諸君たつて「今日はクラブだ。うれしいな」という人は、絶対にいないだろう。たいていの人は、どうやつてクラブをさぼろうか、授業中に考えているのである。ただでさえ競泳は孤独なスポーツなのに、そのうえシゴかれては、誰でもそう思うのはあたりまえだ。私はこういつたクラブのあり方には反対で、もつとクラブを楽しくやつたらどうかと思う。ようするにあまりシゴかずしてやろうということです。もつとも記録の向上は望めないが。ではどうして私が、シゴかれるのを承知で水泳部に入ったかといいますと、別に水泳部ではなくてもよかつたのですが、クラブをはなれての先輩、後輩といふ関係がどういうわけか好きだったので入部したわけです（クラブ中の先輩は、ニクタラシク他に顎を見ない）今の現状では、現在生きていらっしゃる先輩が死なない限り、シゴキをやめることは無理でしょう。実をいうとシゴキ反対であるはずのぼくたつて、シゴキ反対には反対なのである。皆さん矛盾をお感じになられるでしょうが、たしかに僕の現役時代はシゴキに反対でしたが、二年間先輩たちにシゴかれて、今ここでシゴキがなくなつてしまつたらどうだらうか。

先輩になつた楽しみがなくなつてしまつてではないか。それにシゴキ以外にどこに浪人の欲求不満をぶつける所があろうか。現役の諸君期待して待つていて下さい。そのうち行きますから。それでは。

(雑文でどうも失礼しました。)

春

四十九年卒

本間

穀

緑色の風
青色の空
黄色の光

桃色の匂い

鳴呼

冬のドアが開いた！

みんな飛んで来い

みんなで空高くジャンプ

みんなでへとへとになるまで走り

みんなでバカみたいに笑う

緑色の風

青色の空

黄色の光

桃色の匂い

すばらしき季節

どうして速い人はみんなヒゲが薄いんだろう？
歴代一位の○○君や○○君は、二十才を過ぎたといのに、
まだまばらにしか生えていない。先輩の○○さんは腋毛もな
かつたなあ。

早く泳ぐから毛がすり切れるのかな。それとも、体が柔ら
かいから速いとする、女性ホルモンが多いのかねえ。
ヒゲの薄い、すね毛なんか全然生えていないような新入生
を部員にすれば、ひょっとして、十六校で優勝できるかも…。

(書人不知)

他校水泳部からのたより

武蔵水泳部のはなし

武蔵高校OB 竹内君

私のいた武蔵高校水泳部と貴校水泳部とのつながりは大変長いものであります。お互いの部の様子についての情報が交換されるなど、そういう事は私が知っている限りほとんどなかったように思います。この度、貴校OBの田島さんから黒潮の原稿の依頼を受け、武蔵水泳部の様子について書かせていただきました。多少なりともこの原稿が貴校水泳部の参考になればと思っております。どうぞよろしく。

さて、他校水泳部から武蔵の水泳部を見た時の印象というのは、ひょっとしたら次のようなものではないかと思います。

「それ程練習をやっている様子もないし、試合時の態度もどうもしまりがないのに、十六校や都の水球リーグでは結構優勝したりしている。小にくらしい。」

（多少、自意識過剰、成長満の所があるかも知れませんが、かえつ

てぬけぬけと書いた方がお互いのためになるかと思しますのでこのあともぬけぬけと書きます。）

どうも武蔵OBの私でさえ甘い汁を吸っているのではないいかと思う時もある位ですから、仮に以上のようないい印象がある、としたらそれももづともです。だからといってすべて運ばかりというわけでもないようです。武蔵高校の練習は週三日ですが、それで週六日や七日練習している他校の水球チームに勝ったりするの、それだけ能率の良い練習をやっているからではないかと思います。（これから書く事にはかなり水球の方の話がはいってきますが、それらも本質としては競泳中心の練習をやっている貴校の場合にも通じる所のある事柄であると思っています。）「能率の良い練習」というのは我が水泳部のモットーですが、能率の良さの根底に必要なのは部員のまとまりであり、そのまとまりを作る部員の雰囲気です。では、その辺りから具体的な話をしましょ。

いくら個人的にやる気のある人でも、部全体の雰囲気がだらけていては、そのやる気も次第に薄れていってしまうでしょう。こういう点からも雰囲気を良くすることは大変必要ですが、それを作り出す最も基本的なことは練習をサボらないようにすることです。武蔵でも以前は週五日の練習でしたが、その頃はサボる部員が続出して

いました。一人一人は週三日か四日は練習をするのですが、練習に行けば常に全員が出ているというわけではないので連体感なども今一つ何かが欠けているようでした。三年前、本格的に水球をやり始めた時にチーム・ワークの必要性を痛感し、思い切って週三日制とする代わりに絶対サボらないようにしたのです。私はこのやり方の方が、だらだらと何日も練習するより良いと信じていますし、それなりの成果は上がっているようです。もちろん、誰もサボらず週七日気合のはいつた練習ができるというのならそれにこした事はありません。でも所詮我が水泳部ではそこまで望めませんし、貴校の皆さんも恐らくそうでしょう。（そうでなかつたら失礼。）実際に誰もサボらず毎日練習している学校もあるにはありますが、私の知っているそういう学校では個人が自覚を持つて練習している様子ではありませんでした。そういった点から武藏高校の場合、当分練習日数を増やす事はないと考えています。ここで「サボるから日数を減らす」というのではいつまでたつても進歩がないじゃないか。」という疑問をいだく方もいらっしゃるのではないかと思います。ただ、

この場合の週三日というのは練習日数の最低必要条件（これは運動能力の維持などの点から考えた科学的データです。）であり、これ以上はどんなことがあっても減らせないという下限です。それでもサボるようだつたら部は崩壊してしまるので、かえつて部員個人個人の責任は増しているわけです。

先程、水泳をするには部員のまとまりが必要だと書きましたが、逆に水球をやる事によつてまとまりが強まつてゐるとも言えます。競泳の場合は個人競技でありますから一人で黙々と練習をしてもなくなますが、水球ではそりはいきません。また一人が練習を休む

事が直接みんなの迷惑となりますから、必然的にサボりにくくなるという利点も一方ではあります。それに共通のみんなの目標を定めやすいのです。今、我々の目標はインターハイ出場です。もちろん「インターハイ優勝」は望む所でありますが出場できなくては話になりません。とにかく我が水泳部にとつてこのような具体的目標ができたことは大きなプラスだったと思つています。練習態度等にも大きく関係してくるでしょう。しかし、大きな目標を持つのも良し悪しで、最初からあまり現実性のないことを目標にすれば結局無駄となってしまいます。折衷案的ではありますが、大きな目標をかかげながら、それに向かう小さな目標を一つ一つ地道に達成していくというやり方が良いように思われます。

さらに、良い指導者を持つことは部にとつてとても大切な事です。武藏高校の各部を見ましても、活発に活動し成果の上がつてゐる部にはたいてい良き指導者がついています。水泳部においてのそれは高橋伍郎先生です。（ヒゲもじやで一見クマのような印象的な先生なので貴校水泳部にも覚えていらっしゃる方がいると思います。）水球を始めるようになつたのも先生の御指導ですし、技術的な面に関する大変良く知つておられ、また常に効果的な練習方法を考えおられます。ですから部員としては、「こんな練習、意味があるんだろうか？」などという疑問もなく安心して練習する事ができます。練習内容に不信感があれば、どうしても気のりがしなくなります。」

といふ事は練習への障害となります。武藏はそういう障害を持つてないだけ幸せだといえるでしょう。ただ、部員があまりに指導者に頼りすぎて自分達自身では何も自主的にできないようになつてしまつたらこれは本末転倒です。武藏水泳部でも多少そういうひつた傾向

(例えは、先生が見にいらつしやらない時にはあまり練習に身がはいるない等々)があるので大いに反省しなければいけないと思っています。

また話は元に戻りますが、我が水泳部ではとにかく週三日しか練習しないのでありますから他校に對しての負い目やあせりがあります。その結果かえつて以前より一つ一つの練習を大事にするようになります。この為個人種目ではそれ程ふるわなくともリレーでは絶対的な強さになりました。練習を大事にするというのは、それぞれの練習がどういう意味を持つてゐるか、そしてそれが自分にどのように為になるのかを考え、一つ一つを真剣にやるという意味です。真剣さと同時に時間的ハンディをカバーするために中味の濃い練習を心がけようになりました。

例を上げれば、水球の場合、巻き足のためだけの練習とか、あおりを強くするためだけの練習はほとんどせず、そういう物はバスやシユートの練習の時に同時に練習してしまいます。そうすればそれによつて余つた時間をフォーメーションの練習にまわせます。そしてフォーメーションの練習は同時に持久力や瞬発力をつける練習にもなつてゐるという具合です。もつとも、これらとて練習を大事にする気持あつてこそ意味のあるものです。

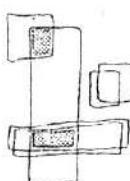
これまで書いてきた事に水球の話が多くなつたのは、武藏にとつて水球を始めた事がそれだけ大きな革命的転換だつたことを意味しています。ではその水球が、今後は武藏の競泳をどのように変えたかを少し書いてみます。

まず最初に、バタフライ・バック・ブレストの専門家がいなくなりたことがあげられます、これは当然の結果でしょう。次に、自由型が全員早くなつたこと。これも当然と言えば当然ですが、注目

すべきことは速さのツブがそろつてきたことです。例えは、水球のフィールドプレーヤーの六人を見ますと、四百フリーでは一番早くても五分二十秒位ですが六人平均でも五分三十秒は切つてゐるといつた現象です。また、五十フリーでは八人が三十秒を切つていて、この為個人種目ではそれ程ふるわなくともリレーでは絶対的な強さを發揮することができるのだと思います。(ただし、十六校レベルでの話ですが)。それからちよつと意外なのは個人メドレーで意外に強いという事です。特殊種目の練習はせいぜい六、七日しかできないのですが個人メの場合は、そりいつた事よりタフの方が問題になるからかもしれません。水球にはベース配分などありませんからタフになる為には良い様です。昨年の十六校優勝の要因は、リレーで勝つたこと、個人種目自由形で着実に点をとつたこと、個人メドラでかなり点をとつたことなどがあげられます、この結果は前記の事柄を良く反映していると言えましょう。(ちなみに、バタフライ、バック、ブレストでの得点はたつた二点でした。)

随分繁雑な文章となつてしましましたが、少しは武藏の事も分かつていただけたかと思ひます。これからもお互いに良きライバルとして頑張りましょう。

四月二十六日



黒潮一家に最敬礼!!

学大附高 橋 本 さ ん

聞くからに強力そうな黒潮会と、いとも軟弱そうな俗称「下馬スイミングクラブ」こと我が学大附高水泳部。両校のおつきあいも、そろそろ〇年目を迎えようとしております。

初めて貴校とお手合わせ頗ったころ、その迫力にただただ圧倒されそうだったのをよく覚えています。どちらかと言うと長めの胴に小粒の多い学大チーム。見るからに水泳人といつた感じの都高チーム。本当にこれが同じ高校生なのか、と疑つたくらいです。実際、試合になつても、その力量の差が歴然と現れ、男子の四継などは五十メートル以上も離されてしまつて、いやあ、参つた、参つた——ありました。しかしながら、質より量の我校も、何回か試合を重ねてゐるうちに、僅かながらも差を縮めるようになつたようですね。にしろ、我クラブの目標は、

「都高に追いつけ追いこせ!!」

なのですから。

毎回試合のメインエヴェントを飾る水球、ウォーターボローの

ときも、最初は21対1などという、あまりにもイモなゲームを、次の年には7対5と、かろうじてワンサイドを免れたスコアにしたのも大進歩といえましょう。(もつともこれは、黒潮会の大親分かつ名レフエリーの田島氏の公明正大(?)なるジャッヂがなかつたら、

あり得ないものでした。)

全く、都高と我がクラブの関係は、親分・子分の間柄だと断言できそうです。まして、黒潮一家の影響たるや大変なもので。

昨年などは五回にわたる都高との試合で、その度に、翌日からは我校のブールにおもしろい変化が見られるのです。出前のお盆がな

いからと、ピート板にデカデカとラップを書いて、ブールサイドを走りまわる姿。コース台に群らがつて「ガンバレ!! ワッショイ!! ガンバ!!」の声。ユニークな黒潮方式が、あらゆるところで折りこまれているのです。それに加えて、恥じっぽいエールからおさらばできたこと、ウォーターボローのおもしろさを知つたこと、みんなが都高から教わつたおかげなのです。

我々にとつて、都高を真似るということとは、それだけ都高の良さを取り入れることにつながると思えました。しかしながら、一番真似たいことは、都高のバネのあるのびのびしたフォームです。我々は、ワッショイのかけ方よりも、ピート板をもつて駆けまわることよりも何よりも、美しく速い泳ぎを研究し、真似しなければなりません。そしてそれは一番難しいことなのです。そういう点において、部員一人一人が都高の泳ぎを自分の目で見、体で覚えようと、あるいは、個人的にアドバイスを受けたこと、がとてもよい勉強になり、充分プラスになつて効果を生んだものと信じております。

こういつた技術的な面でなく、精神的なチームワークの良さ。これが都高は抜群ですね。女子が少ないから、かわいそうだなーなんて思いがちだけど、とんでもない!! 女の子はとても大切に(?)かわいがられているし、むしろ学大の女子はうらやましいので

はないかしら……と言つたら学大の男子諸氏ににらまれるのでやめ
ておきますが、とにかく、クラブが、大親分・組長・参謀を中心
ガッチャリとスクランブルを組んでいた。だから強いんだ、そんな気が
します。水泳というのは個人競技、言わば、自己と記録との闘い。
ですから、なおさらそういうたチームワークが必要になつてくるの
ではないでしょうか。

兎にも角にも、都高は我々の師であり、友であり、親分であります。
その柱となる黒潮会の歴史は遼大で、我々はまだまだ小さい。

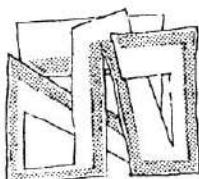
けれども我々は我々で、個性豊かな、黒潮会に劣らぬクラブに成長
することをお約束します。そして今後も、お手合せの度に、めき
めき力をつけていき、恥ずかしくないレースを開くこと、それ
が仁義だと心得ております。黒潮会の○○氏、××君、△△ちゃん
ファンクラブも、ぞくぞくと発足することあります。

それでは、世界にとどろく黒潮会の御發展と、都立・学大、兩高校
校の若アユたちの躍進を祈つて、ここに幕を閉じることに致します。

△おわり△

(編集部注)

十六校、関六の両大会に於て常に上位を占め続けていいる武藏高校
水泳部と距離的に近く親しいお付きをしている学芸大学附属高校水
泳部より、お便りを戴きました。
武藏高校水泳部は我が水泳部の目標であり、学芸大学附属高校水
泳部は近年とみに力をつけてきています。



「空想から科学への社会主義の発展」

エンゲルス

その年の暮から翌年にかけての頃に読んで、混乱の中に「科学的
世界観」という一条の光を見出すことができた。

山田二男

一冊というとむずかしくなりますね。若い時は何でも無茶苦茶によんで良いのではないですか。東京では電車の中という絶好の機会があります。

やさしいもので「チボ一家の人々」（ロジェマルタンデュガール作 山内義雄訳 白水社。）などは、恋あり、反戦あり、それでいて読み方によつては奥も深く推薦したいと思います。

菅野義信

「共産党宣言」 マルクス・エンゲルス 岩波文庫

今をさる約三十年前、平凡な学徒であった私が、ジャーナリスト・ソ連研究をこころざすに至った最大の動機は、ソ連抑留中苦心

さんたんの末読破した露文の本書の訴えでした。資本論を始めとするML文献を読みこなすことは大変な苦労ですが、これならまずまづ。内容に共鳴するかどうかは別として、いつか一度は目を通してごらんになる事をおすすめします。

久芳健夫

「人生の途生にて」 クローニン著
著者のヒューマニズムにうたれ、他にもクローニンの著書はよく読みました。

「恩讐の彼方に」 菊池寛著

卒業の年に終戦、その後に読んで、感銘をうけた記憶あります。

高瀬昭夫

部時代は、授業、練習等をサボってまで仲間と映画（「モロッコ」「大平原」そして新着の「アメリカ交響曲」といったようなもの）をつい分見たりしました。読書については、継続して愛読しているものは一寸ない。最近は北杜夫を愛読。全部読んでいます。又もつと最近は遠藤周作のキリスト三部作と「ジーザス・クリイスト・スバースター」の舞台と映画両方に感銘したところ。

二宮睦彦

「親と教師に語る」

——子供の世界とその導きかた——

ホーマア・レイン著

文化書房・博文社 七八〇円

小坂順之助

「人生の途生にて」 クローニン著

著者のヒューマニズムにうたれ、他にもクローニンの著書はよく読みました。

「人間不平等起源論」 ルソー

卒業の年に終戦、その後に読んで、感銘をうけた記憶あります。

「廻廊にて」 辻邦生著

新潮社

河出書房（辻邦生作品I）

強く叫びだす前の静かを描きかけに似た緊密な抑制された文体をもつて、作者は灰色の時代に置かれた一女性の生のなかの不安、恐怖、希望をいわば澄明な大気の中の水と光と音のごとき根源的な生の原質として描出している。ここに現在忘れられがちな文学の透明な基底がある。」埴谷雄高評

「耶馬台国の秘密」 高木彬光

光文社

耶馬台国はどこにあつたか？の謎を解明する推理小説。肩のこらないで読める非常に興味深い本である。

米倉昭利

「論語」 講談社

「古典落語」（上）（下）（続）（続・続） 講談社

ためになるかどうかわからないが、このようなユーモアが人間関係の潤滑剤になるのではないか。

桜井讓治

「心」 ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）

岩波文庫（但し、絶版）

「心」は日本に帰化して小泉八雲と名を変えたハーンが、日本及

び日本人の心を描いたものである。旧来の日本のわび・さびを好み、欧化を嫌つた外国人の目を通して、改めて日本人的心情を見いだす。

大谷裕

「なんで英語やるの？」 中津燎子著 午夢館

英語をなぜやるのか、また、学校の英語教育について考えさせられた本。

今までの英語に関する本とは、少し違うので、語学に興味のある人には、おもしろいとおもいます。

葉袋紀子

「熱気球イカロス5号」 梅棹エリオ著 中公文庫

日本で初めて熱気球を作り飛ばすという夢を追求し、ついに成功させた若さあふれる人々の記録です。青春時代といふものについて考え方させられる本で、現役諸君に推薦したいと思います。

水谷勝恒

「どくとるマンボウ青春記」 北杜夫著 中公文庫

最近は「ノスタルジー・ブーム」だそうで、一九三〇年代のファンションや、五〇年代のヒット曲がリバイバルしておりますが、旧制高校での珍行・奇行を書いたこの本、黒潮会の大先輩達の府立高校時代の雰囲気を知るには、「黒潮」のバックナンバーとあわせて読むとおもしろいと思います。

田島健三

現役の部



水泳部生活回顧

三年 村 上 敬

オレが水泳部に入つてすでに二年半が過ぎた。この二年半の間に

いろいろな事があつた。

春、水泳部に入つたのは良いが、一年の男はオレ一人といふ寂しさ、それにせつかくのブールも塗装のため使用禁止の為、東工大のブールまで出張練習という形でシーズンに入つた。

一人きりであつた男も夏前には三人となり、やや活発になつてきたころ、再び一人になつてしまつた。

そして、そのまま強化練習に入つた。そのころ、オレの中学校時代

の級友を入れる事ができ、再び三人となつた。結局、活動している人数は、二年生二・三名、一年生三人の計五六名であつた。しかし少い時は二人つきりの練習という日もあり、五人も集まれば、「今日は良くみんな出て来ているなア。」などと言つて喜んでいたものでした。

そして十六校、まさかと思つていた決勝進出をする事が、二百米平泳ぎでできた。当時、二・三度しか切つていらない三分を切り、何と五位で決勝に出る事ができた。

しかし、決勝では三分を切れず結局五位だつたが、その時もらつたカップは今でも大事に使つてゐる。

つらかつた夏も終り、記念祭も終り、水泳部にとつて長く、つまらない季節、冬になり冬期練習になつた。

何故か、男が二人も入部してきた。内一人は再入部であつたが、これで男が五人になつた。そして来年、同学年だけでリレーが組める事ができ、非常に喜んだのでした。

長かつた冬も明け、春を迎えた。一年生も男四人、女一人と五人も入部し、現役総数が二ヶタとなり、昨年と比べにぎやかにシーズンに入つた。

この年はまさに水泳部の黄金時代の幕開けの年で、十六校では、過去の都高の記録とタイ記録である総合四位になれたのである。しかも四位となつたのは一位こそ一人もいなかつたが、数人の人が少しづつ入賞し点を取つてきて、その結果の四位であり、都高の選手層の厚さを表わすと同時に、次の年への希望をもたせてくれた。

オレ個人としても、百・二百共に入賞でき、この十六校は、うれ

しい大会であった。

三年になつても、水から離れる事はできなかつた。

また、三年だけでメドレーリレーの歴代一位を取ろうと三年になつて、同志がいてくれた事も重なつて練習をした。

そして、最期の十六校、ついに優勝する事ができた。それも、百・二百と二種目ともである。運がいい事に、今年はオレより速い人間がいなかつたのである。

そして、三年生四人の、一度はあきらめた四百米メドレーリレーの歴代一位も、この時だす事ができた。残念ながら、単独ではなく歴代タイ記録だが、一位は一位である。

最期の十六校でこんなにうまく泳ぐ事ができ、三年間のつらい練習もすべてむくわれた様な気がする。そして本当に水泳部に入つて良かつたと思った。

こうして書いてみると十六校の事ばかりになるが、その他にも、合宿・闘六・新人戦・歴代一位の事をいろいろあり、それぞれに深い思い出があり、とうてい書ききれるものではない。

オレの都高水泳部生活には悔いは無い。

後輩達も海いの無い生活を送つてほしい。歴代一位を取る事や、大会で勝つ事がすべてではない。何か一つのものをやりとげる事ができれば、その結果、形として何も残らなくても、そこには悔いは残らないと思う。

都高水泳部には、それに十分なクラブであるとオレは確信をもつて言える。

都高水泳部には、それに十分なクラブであるとオレは確信をもつて言える。

青春とは？

三年 小木協仁

どうしてぼくはクラブに入つたかといえれば、別に理由はないことに気づく。強いて言えば入らなくちや行けないような気がしたし、三年生や先生から、

「クラブは入つておきなまえ。」

と言われた。一年の初め、目上の人からそう言われたのだから、ますます入らなくちやいけなく思つた。そして、オリエンテーションで、クラブ勧誘をされた。その時、野球か水泳かで迷つた。結局、高校の花形とも言うべき野球にあこがれて入つた。秋までは、どうにか苦しい練習にも後の楽しみを思つて、ヘタながらもやつてきた。ところが、新部長決定で、イザコザが起り、友だちが止めた。ぼくは、はつきり言うと友だちが止めたから止めた。その友だちの居ないクラブが陰気になるのは目に見えていた。これは、ぼくの高校生活で、一番の弱体、敗退、恥辱であつて、思い出す度に心が痛む思いで、自分の弱さを真のあたりに見た時だつた。それからの野球部は衰退し、去年はまるで活動をしなかつたのではないか。部員がマネージャーより少ない。こんなバカな事が自分にも責任があることに、痛切に恥じる思いだつた。そして今、新入部員を交え、野球部は立直つた。ぼくは喜んだ。この部員たちが白球を追つて汗を流しながらグラウンドを走り回る姿を早く見たいものである。

さて、話は前後するが、止めてからぼくは麻雀に明け暮れることになる。しかし、そんなものでは氣は晴れなく、水泳部に入部した。他のクラブへとは考えられなかつた。つまりぼくは水泳部に関し

魚になつた日

三年 田畑正紀

て今二年とは同期である。そして、背泳のエースとして昨年度は泳がされたわけだ。エースともいえないタイムを残して今、ぼくは考へるに、大学入試の勉強のため、引退しようかとも思つた。家の事情とかといふには、ほとほと打ちのめされた。ぼくは三男で末子である。兄一人を上に置いて、おまえは気楽だとよく言われる。ところが、ここが落し穴なのだ。一番上の兄は愈々通り、薬剤免許をとり、一番目は大学でそれに向かつて遊びながらの勉強中。残つたぼくには、「別に薬剤師にならなくてもいいが浪人は許されない」と言つられた。ぼくなどはどうでもいいのではないかと思つた。このぼくがどうして水泳を続けられようかと考へた。まだ今も、はつきりは心を決めていない段階である。先輩や友には泳ぐと言つてゐるが、確かに恐怖なのである。

明日はオープンコンペで、今年度の抱負を言わなければならぬだろう。その時、何と言ひかで、今年のぼくの計画が決まる。しかするとぼくの人生が苦難の道へ続くかもしれないのだ。ちょっとオーバーだつたけど、当面の課題はこのことだけである。これが活字になる頃、やっぱり泳いでいるかもしれない。兄は言つた。
「悩むこと。これが青春の一つさ。」

「なんとはなしに入つてしまつた水泳部、知らずにやめてしまつた水泳部、胸をはつて入つた水泳部、もうやめられない水泳部。

そんな過程で現在にいたつたのが、このぼくである。世に言う出戻りである。しかし、べつに意識はしなかつた。それもクラブの人たちが、暖かい視線をむけてくれたからだ。回想してみれば苦しいことばかりが頭に浮かぶ、でも苦しかつたからこそぼくの心身に大きな成長を感じられた。あくまでも有意義な活動であつた。

なぜぼくは、一時やめてしまつたのか。その苦しさの中で、なんにも求めようとはせずにただ、肉体的な苦痛からやめてしまつたのです。考へてみれば楽なクラブなんかありません。人間は、だれだって苦しいことは、いやです。しかし苦しさが伴なわなければ人間は成長しません。そう思つて、高2一年の秋、再び、新しい高校生活の一歩を踏み出したのです。ぼくにとって、高校生活の柱となつたのはこの水泳部の活動だったのです。あれから早1年で一年と半年になります。この活動をとおしてぼくが得たものは、無数にあります。必ず、将来に、クラブ活動の効果があらわれると思つていま

強化練習

ああ、授業が終わってしまった。

弁当も、ろくにのどをとおらない。

足は小刻みにふるえ

心臓は、高なりする

どうしようか、

なにか、いい理由はないものか

時間はせまる

しらずに足はブルーへと動きはじめてしまった。

しようがない

泳ぎまくるか……

○合宿

あけてもくれても水の中

理性を失つてしまつたようだ。

まわりは、鬼だらけ。

たのみの休けいも、すすめの涙ほど、

ああ心臓が破裂しそうだ。

いつ死ぬかわからぬ。

陸上が恋しい

おかあちゃん助けて……

○夜のひととき

他のやつらはトランプに雑談

口には、ガムやあめ

へいなあ、やつらは

寝ようとしても寝むれない

明日を考えれば鳥はだがたつ

ボクシングで鬼たちをやつつけるか

そうしよう……

○食事時

生薬のめしにしては、うまそだ

明日の活力のために

おおいに食いまくるぞ

しかしそれは願望にすぎない

実は、のどにつまつてしまふ。

いつ、のどをとおる時がこよだ

○希望

何メートル泳いだかな

なあんだたつた七キロか

今度は太平洋を泳ぎ渡つてみるか……

○夜のひととき

今日はたつたの一一本

明日は五本だ

びりだつて旗は、あげてくれるからな

マークスピッジがなんだ

マッテスがなんだ

田島コ一チがなんだ

同じ人間じゃないか

対抗戦

やつた!! やつたぞ!!

びりから二番目だ!

ぼくよりおそいやつがいたんだ!
なんたる優越感!!

寒い日

風呂だ 風呂だ 風呂にはいりたい

暑い日

水だ 水だ 水にはいりたい

三年 幕 内 理恵子

泳ぐこと

家で魚を飼っているが、暇な時、その水槽に目を向ける。そして思つた。なんて魚は、優雅に泳いでいるんだろう。なんて速いんだろう。水中において苦しくないのかな。でも陸上にだせば死んでしまう。それも長年の魚自身たちの努力や研究によつてしらずに水中生活に慣れてしまつたのです。まことに不思議なことです。人間だってそうです。水に入つていれば、いつかは肺が退化し、えらが発生して、水中だけしか生活できなくなることができ得るかもしれません。

ぼくは先輩たちに言われた。「スマーマにとつて水にはいつてい

る時間が長いものほど強いんだ。だから一秒でも多く水に入つていろ」魚にならせるつもりなのです。ぼくは実行しました。すると、みるみるうちにタイムは上がり、自己新記録を出してばかり。それが出るたびに、苦しさがうれしさにかわつてくるのです。かつ、魚に近づいてきた感じがしたのです。とはいっても、まだ上には魚により近づいた人たちがいます。しかし、ぼくにとつては、かれらたちが目的ではありません。ただ自己の記録だけを見つめることにあり、それが最大かつ最小の目的なのです。

とにかく泳ぐことが好きです。永遠にぼくと水との縁はきれないはずです。だからこそ一度は、やめてみたものの、再び水泳部に戻つてしまつたのです。

人間は、陸の上で歩く動物である。私は水泳部に入つてほんとうにそれを考える。泳いでくらせるわけはないのに、泳ぎまわろうとするのだから苦しいはずなのだ。それでも、なおかつ人間は泳ごうとする。それが、人間の人間たる所以なのだろう。高い山があれば登るし、海があれば、船をうかべもぐらせ、水があれば泳ごうとする。涙ぐましいほどの人間の努力だ。(それにあえて挑戦する水泳部の面々は、なんと偉大なのであろうか。)

OBはよく「水の壁」という言葉を使う。水は自由で、フワフワとしていて気楽に浮んでいるだけの時は空気のようだ。それが水上を速さをもとめてつき進もうとする、まるで『壁』どころか、巨大な手がおしかえしているようだ。空気のような水は友達になれけれど、壁のような水は憎たらしくさえある。

私はもちろんその空気のような水の方が好きだ。強い『壁』のような水は、私にとつて恐怖でさえある。

すきとおつた水は美しい。私は一人でその中をただよつてゐる。

太陽を反射した水は、壁に光をうつして宝石のように輝やいてゐる。ボンヤリと私はその中にういてゐる。いつまでも、いつまでも私はそうしてゐる。なにもかも忘れる。どんな嫌なこともウソのようだ。

もぐつたり、水の中で宙返りをしたりして、私は水とわむれる。

私にとつて最高の時だ。そしてもう一つ、そうした壁のような水が、私の思うとおりに、私を泳がせてくれた時だ。ものすごく嬉しい。泳ぐことはいいことだと思う。水中で好きなように泳げたら、どんなにすばらしいことだろう。

二年間が終つた。

嫌なこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、笑つたこと、アア、終つた。アアもつとマジメにやつておけばよかつたという気持ち、もつと泳ぎたい気持ち、もう泳ぐもんかという気持ち、なごりおしの気持ち、あとまだ一年あるナアという気持ち、すべてが入りまして複雑だ。

今年は女子部員も多数入つたようだ。新しい部室も出来る。

アツといつまに三年生になつてしまつた。今年の夏は、汗みどろになつて机にかじりつきながら、水につかりっぱなしの部員をうら

めしげに思いながら、お勉強しなければならないのかと思うと、去年にもまして恐怖である。

最後に、お世話になつたヘッドコーチ、サブコーチ、その他のOBの方々、特に薬袋さんに多大の感謝といたしたいと思つております。

水泳部紹介

二年 中 町 恵理子

水泳とへうものは、腕立てが一回もできなくとも、腹筋も背筋もぜんぜんなくても、マラソンをやるといつもピリでもだいじょうぶ。懸垂ができないくても平氣、太つてゐる人でも、やせている人でもだれでもできます。アーリングコでもちゃんと泳げます。

やせたい方！水泳を始めますと、簡単に確実に能率よく楽にやせてスマートになります。

太りたい方！少し時間はかかりますが、記念祭のころになると、夏の間、水泳をやつた幼き目が徐々にあらわれ、ちょうどよい太さになります。

足の短い方！水泳をやりますと、長くなります。もつと早く長くなりたい方は水泳をはじめるとよいでしょう。

夏、隣でテニス部が汗ダラダラ、頭クラクラカー・ハアハア水をくれし、こちらは、水しぶきバシャーン、ザバッザバツ、水は冷ん

やりと快よくさわやか。そして、泳いだあとのスイカのさしさ。

最高にたのしいのは合宿。一日中水とたわむれるたのしさは、言葉では言い表せない。

練習が終つたあとのお風呂もまたたのしい。かならずだれかが興奮のあまり、足を出して沈んでしまうほど。

とにかくおもしろいクラブです。みなさん水泳部に入りましょう。

今年（四十九年）新しく入つた一年生は今のことろ全部で六人。女子は三人でそのうちマネージャーが二人。だから、

村上さんは会うたびに、もつと入れるもつと入れる、休み時間に一年生の全クラスを回れ、休み時間はどうせひまんだから回れ回れと言つ。それで、休み時間に一年のクラスに行つてみたがまだまじめに授業をやつていたのもどつて来た。

「こんなにちは。もうクラブ入つた？ 水泳部つてすぐくたのしくておもしろいの。入りませんか。」たいていの女の子は、私、泳げないの。泳げなくともだいじょうぶと言つても反応なし。ひどい場合は、水泳と聞いてだけで、私だめだめと言つて逃げてしまう。

泳ぐのが大きらいなんていふ人けつこういる。ブルがあるから

この学校にきたくなかったんだなんていふ人も何人かい。去年の夏の体育の水泳授業の時、私のクラスで泳いだ女子が全体の1/5ぐらいなんていふこともあつた。一回もでなかつた人もけつこうい



水の中のみにくく争いに勝った時、あなたは何も恐れることはない。

た。だれかが今年こそは水泳大会をやろうなんていつていたけれど、たぶん大多数の反対にあつてできなくなるんじやないかと思う。あしたはブルーそうじだ。半年もほおつておいた水には、オタマジャクシ、アメンボ、ミミズ、あきカン、擁、葉っぱなどいろいろなものが沈んだり、泳いでいたりしている。水が引いたところではどちらの中でオタマジャクシがバタバタとはねていた。その中の何とかをビンに入れてもつて帰つてきた。今、メダカといつしょに泳いでいます。

水が引いたブルーには、椅子も沈んでいた。石をひろつて、葉をはいて、ドロを流してカルキでゴンゴン・だいたい終りの方に近づくとみんな狂つてきてビショビショになる。ブルーそうじが終るとほんとうの水泳部の活動が始まる。これから十月まで泳ぐのだと思うと、なんとも言えない気持ちだ。

一番悲しい日、雨がザーザー降つている練習日。

一番たのしく体操をする時、合宿が終つた日の最後の整理体そりの時。

一番みだれる日、八月三十一日

一番部員が少ないので嘆く日：現役よりはるかにコーチ・O.B.が多い日。

一番泳ぐのが苦しい時、大石さんがとなりでいつしょに飛び込んだ時。

一番はずかしかつた時、縞の水着のあとがバッヂでお風呂屋さんへ行つた時。あれは合宿の時、

一番参つたこと。合宿中の生協の夕食のおかず毎日ビーマン、最

後の日なんかビーマンライス。私ビーマン大きらい。

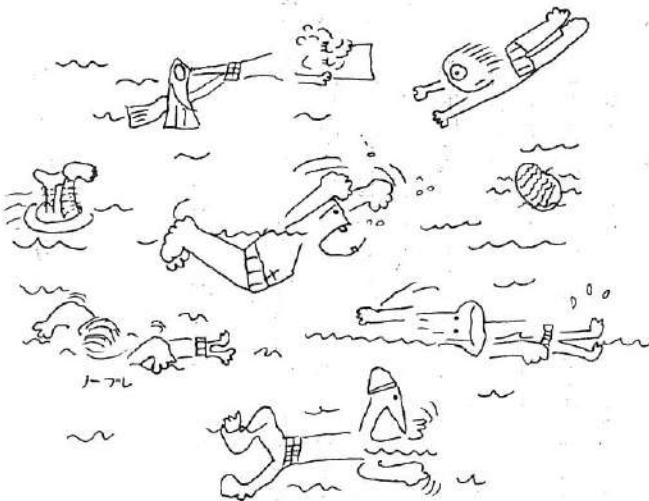
一番ガックリする時(○)、一秒钟でダメなが切れなかつた時。
一番せつない時、足の指がつった時。

一番きたない所、部室とブール。

一番きたない物、毛布

ほかにもいろいろあるし数えあげるときりがないのでここでやめ
る。

今年もがんばろう。



無

題

一年 大 貫 直 子

私が高校に入学し、クラブ紹介のあつた翌日だと思う。放送で水泳部会があるとのこと。ちょっとのぞいてみようかなと思つた。ところが、その「ちょっと」と「が・ずっと」になつてしまつたのである。村上さんの口説きと田畑さんの「なんだ、まだ決めてないのか。早くはいっちまえよ。」の言葉に、なんと恐ろしい部だらうと思つた。ここで普通なら入部しないところだが、私の場合その恐怖が強すぎたせいか、入部しないなどと言つたら何をされるかわからない。と考え、ついに入部ということになつたのである。

私は小さい時から水泳をやつてきた。でもそれは単にタイムを追うばかりで、泳ぐ楽しさなどあまり感じなかつた。中学の時は水泳部がなかつたせいもあるが、一人だけで練習してゐた。呼吸数でインターバルをはかり、ビート板の枚数で本数を確認するなど、楽しにはずがなかつた。

ところが高校の水泳部に入ると、タイムも記録してくれる。一回の練習で必ずおもしろいことがある。練習は同じようにきつへし苦しいが、それだけではなかつた。やつと泳ぐことの楽しさがわかつてきた様な気がする。入部したての頃は、嫌だと思うことも多かつたが、最近では新種の「シヤバラム病」に悩まされつつもがんばつていきたいと思つてゐる。

日記帳のメモより

一年 塩川恭子

ころが、恐いところで思い出すだけでも、笑わずにいられないのが常でした。そんな部が、他にあるだろうか？ 確かではないけれど、ないと言えるのです。

○バドミントン部では経験できない事がありすぎて、自分自身の収穫でありながら、自分には、何だか、自分ではない何かを感じて……

私が、収穫物を手に入れたのは、夏休みも終わる頃。

○最後に、来年もまた寒く……いろいろあるけど、やっぱり、泳ぐでしよう。

追伸

○「おまえ、バドミントンだと、一試合に、何回もチャンスがあるけど、水泳には、一回しかないんだぞ。」中学のときバドミントンをやつていた私に、ある先輩が言つてくれた言葉です。この言葉は、何故か心に残っていて、その時ほど、先輩の良さを感じたことはなかつたと言つても、決して、言いすぎではないのです。

○何て寒いんだろうって思いながら、やっぱり泳ぎました。何て：言葉もないのに、それでもやっぱり泳ぎました。七月だと、うに晴れてくれない。強化練習は、毎日、小雨の中で：寒い寒い毎日。ありつたけの、ジャージをスポーツパックにつめこんで、暑くなることを祈りながら、プールに向かう道。

○合宿最終日の整理体操。皆の笑顔を覚えていました。いつになく、声も大きくて……。泳ぎきった満足感と何とも言えない言葉に対するのはむずかしいけれど、喜びらしきものが、フツと通り過ぎる。コーチがどのくらい疲れているか、その前夜に知つたのです。あの三管笛の音に「やめてくれ。」と言つた先輩の声が、プールにいるときは、全くちがつていた。——それが、何とも言えませんでした。

○毎日が笑い。はたして笑わない日があるだろうか？ それがないと

記

錄

四
十
九
年
部
度
の

記録の部

(6) 100m Br

1. 村上 1' 18" 5 (黒潮新)
2. 大石 1' 27" 0 (49年卒)
3. 和田 1' 28" 2
4. 田畠 1' 32" 0
5. 小沢 1' 32" 8 (48年卒)
6. 塩川 1' 38" 3

(7) 100m Ba

1. 小木 1' 18" 8
2. 田中 1' 33" 8 (46年卒)
3. 越智 1' 33" 9 (48年卒)
4. 東原 2' 12" 0

(8) 100m Fr

1. 村林 1' 06" 0
2. 中島 1' 06" 3 (47年卒)
3. 藤田 1' 06" 7
4. 平出 1' 07" 0 (48年卒)
5. 宮崎 1' 07" 1
6. 石山 1' 14" 1
7. 田渕 1' 14" 2 (48年卒)
8. 松永 1' 14" 2
9. 原田 1' 14" 6 (47年卒)
10. 大貫 1' 14" 8
11. 武笠 1' 15" 0 (48年卒)
12. 大石 1' 16" 0 (49年卒)
13. 中町 1' 20" 1
14. 山田 2' 00" 8

黒潮会

8月11日(日)

(1) 400m Fr

1. 村林 5' 11" 0 (都高新・黒潮新)
2. 大貫 5' 48" 5
3. 石山 5' 58" 5
4. 松永 6' 29" 2
5. 中町 6' 31" 9

(2) 200m Br

1. 和田 3' 14" 6
2. 塩川 3' 31" 4

(3) 200m Ba

1. 村上 3' 10" 9
2. 東原 5' 03" 8

(4) 100m Bu

1. 中町 1' 47" 8

(5) 200 Fr

1. 村林 2' 26" 2 (都高新・黒潮新)
2. 石山 2' 48" 3
3. 大貫 2' 48" 9
4. 松永 2' 55" 0

4.	村上	42"0
5.	山本	43"2
6.	石山	43"4
7.	松永	46"9
8.	菱沼(兄)	47"8 (41年卒)
9.	中町	51"4
10.	吉田	51"5 (27年卒)
11.	東原	55"3

(12) 50m Bu

1.	藤田	33"2
2.	平出	34"3 (48年卒)
3.	中島	36"3 (47年卒)
4.	田中	36"7 (46年卒)
5.	原田	40"8 (47年卒)
6.	大石	41"7 (49年卒)
7.	本間	43"2 (49年卒)
8.	生田	46"4 (49年卒)
	菅野(25m)	41"4 (35年卒)

(13) 50m Fr

1.	大和田	29"5 (48年卒)
2.	宮崎	29"8
3.	村林	30"1
4.	藤田	30"2
5.	角田	31"5 (45年卒)
6.	小木	31"5
7.	松永	33"0
8.	石山	33"5
9.	菱沼(兄)	34"3 (41年卒)
10.	山本	34"3
11.	大貫	35"5
12.	北村	35"6 (38年卒)
13.	中町	36"6
14.	井上(弟)	40"5 (41年卒)

(9) 200m MR

1.	4期連続チーム	2'30"8 (中島, 角田, 武笠, 田中)
2.	コーチ組チーム	2'31"2 (小沢, 大和田, 原田, 越智)
3.	四天王チーム	2'32"1 (村上, 藤田, 宮崎, 小木)
4.	スペシャルOBチーム	2'42"8 (鷺山, 広部, 内田, 吉田, 山本, 横山, 菅野, 北村)
5.	スカイバットチーム	2'45"0 (大石, 生田, 田渕, 本間)
6.	41年+αチーム	2'50"7 (菱沼(兄), 平出, 坂爪, 井上(弟))
7.	女チーム	2'53"7 (東原, 塩川, 大貫, 中町)
8.	恐怖人間チーム	2'54"6 (村林, 石山, 松永, 和田)

(10) 50m Br

1.	村上	35"6
2.	村林	38"5
3.	大石	39"6 (49年卒)
4.	田畠	39"6
5.	和田	40"1
6.	武笠	40"5 (48年卒)
7.	生田	41"5 (49年卒)
8.	横山	43"9 (34年卒)
9.	塩川	44"3
10.	大貫	46"7
11.	中町	48"2

(11) 50m Ba

1.	越智	34"5 (黒潮新)(48年卒)
2.	小木	37"0
3.	宮崎	38"2

7 校 戰

於：学大附プール 8月17日

(1) 男子 800m Fr

- | | |
|------------|-----------|
| 1. 青木(小山台) | 11' 24" 2 |
| 2. 村林(都大附) | 11' 29" 4 |
| 3. 渡辺(学大附) | 12' 09" 2 |
| 4. 金井(学大附) | 12' 41" 0 |
| 5. 斎藤(戸山) | 12' 43" 7 |
| 6. 石山(都大附) | 12' 55" 6 |

(2) 女子 200m Fr

- | | |
|------------|----------|
| 1. 塙(田園調布) | 2' 39" 3 |
| 2. 大貫(都大附) | 2' 44" 1 |
| 3. 中町(都大附) | 2' 57" 8 |
| 4. 揚野(学大附) | 2' 59" 6 |
| 5. 浦島(学大附) | 3' 07" 4 |
| 6. 桐沢(雪谷) | 3' 18" 6 |

(3) 男子 200m Br

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 村上(都大附) | 2' 54" 8 |
| 2. 小谷野(戸山) | 3' 03" 8 |
| 3. 渡部(雪谷) | 3' 10" 6 |
| 4. 広口(学大附) | 3' 11" 3 |
| 5. 松岡(戸山) | 3' 12" 0 |
| 6. 長野(学大附) | 3' 18" 9 |
| 7. 和田(都大附) | 3' 25" 6 |
| open 村林(都大附) | 3' 01" 1 |

(4) 女子 200m Br

- | | |
|------------|----------|
| 1. 揚野(学大附) | 3' 24" 4 |
| 2. 進藤(学大附) | 3' 25" 7 |
| 3. 田中(小山台) | 3' 29" 8 |
| 4. 塩川(都大附) | 3' 29" 9 |
| 5. 原(雪谷) | 3' 36" 3 |
| 6. 鈴木(雪谷) | 3' 44" 1 |

- | | |
|--------|--------------|
| 15. 広部 | 41" 5 (10年卒) |
| 16. 鶴山 | 47" 0 (10年卒) |
| 17. 山田 | 50" 2 |
| 18. 横山 | 51" 3 (34年卒) |

(14) 200m R

- | | |
|-----------------|--|
| 1. O B チーム | 1' 59" 4
(中島, 田中, 角田, 平出, 武笠) |
| 2. キバットチーム | 2' 01" 9
(村林, 小木, 宮崎, 藤田) |
| 3. コーチ組チーム | 2' 03" 6
(越智, 大和田, 原田, 小沢) |
| 4. スカイバットチーム | 2' 13" 5
(大石, 本間, 田渕, 生田) |
| 5. なんでもチーム | 2' 13" 6
(石山, 村上, 松永, 田畠) |
| 6. スペシャルO B チーム | 2' 23" 3
(鶴山, 広部, 内田, 吉田, 山本, 横山, 管野, 北村) |
| 7. ウッシチーム | 2' 48" 3
(東原, 塩川, 中町, 大貫) |

8 水 球

O B × 現役 (1, 2, 3年)

O B	0	1	0	1	2
現役	3	2	1	1	7

(10) 男子 400m Fr

1. 青木(小山台) 5'27"1
2. 渡辺(学大附) 5'41"6
3. 小松田(雪谷) 6'02"6
4. 石山(都大附) 6'03"4
5. 斎藤(戸山) 6'03"8
6. 坂田(小山台) 6'21"9
7. 松永(都大附) 6'26"1

(11) 女子 100m Fr

1. 堀(田園調布) 1'10"0
2. 大貫(都大附) 1'15"2
3. 中町(都大附) 1'19"1
4. 広田(学大附) 1'20"6
5. 浦島(学大附) 1'24"7
6. 佐藤(大崎) 1'25"0

(12) 男子 200m IM

1. 永尾(小山台) 2'43"0
2. 村林(都大附) 2'43"7
3. 追川(雪谷) 2'47"2
4. 宮崎(都大附) 2'53"7
5. 金井(学大附) 3'05"6
6. 安部(学大附) 3'06"7

(13) 男子 100m Br

1. 村上(都大附) 1'19"5
2. 小谷野(戸山) 1'23"5
3. 広口(学大附) 1'27"3
4. 渡部(雪谷) 1'28"0
5. 長野(学大附) 1'28"1
6. 松岡(戸山) 1'29"7
8. 和田(都大附) 1'31"5

(5) 男子 200m Bu

1. 永尾(小山台) 2'54"4
2. 金井(学大附) 3'19"2
3. 小松田(雪谷) 3'27"5

(6) 男子 200m Ba

1. 追川(雪谷) 2'48"7
2. 小木(都大附) 2'58"7
3. 島(戸山) 3'11"4
4. 関(学大附) 3'20"7
5. 竹内(学大附) 3'26"8

(7) 女子 200m IM

1. 堀(田園調布) 3'00"7
2. 大貫(都大附) 3'06"8
3. 揚野(学大附) 3'18"3
4. 羽太(戸山) 3'32"1
5. 進藤(学大附) 3'41"5
6. 桐沢(雪谷) 3'41"4

(8) 男子 400m MR

1. 都大附 (小木, 村上, 藤田, 宮崎) 5'04"3
2. 小山台 5'28"6
3. 学大附 5'36"7
4. 雪谷 5'39"0
5. 戸山 5'49"8

(9) 女子 200m MR

1. 雪谷 2'43"5
2. 学大附 2'43"5
3. 都大附 2'56"6
- (東原, 塩川, 大貫, 中町)
4. 大崎 3'05"0
5. 小山台 3'12"2

18 女子 100m Ba

1. 堀 (田園調布) 1' 27" 5
2. 斎藤 (雪谷) 1' 34" 1
3. 倉本 (大崎) 1' 40" 2
4. 白土 (雪谷) 1' 42" 5
5. 羽太 (戸山) 1' 42" 5
6. 広田 (学大附) 1' 45" 3
9. 東原 (都大附) 2' 27" 9

19 男子 100m Fr

1. 永尾 (小山台) 1' 03" 9
2. 宮崎 (都大附) 1' 07" 8
3. 安部 (学大附) 1' 08" 0
4. 村林 (都大附) 1' 08" 1
5. 渡辺 (学大附) 1' 10" 6
6. 小松田 (雪谷) 1' 12" 3
- open 山田 (都大附) 2' 00" 4
- open 久保 (都大附) 1' 36" 2

20 女子 400m R

1. 学大附 5' 32" 2
2. 雪谷 5' 44" 1
3. 大崎 5' 58" 5
4. 戸山 6' 15" 8
- open 都大附 5' 57" 7

(大貫, 塩川, 八木, 中町)

21 男子 800m R

1. 都大附 10' 36" 5
(宮崎, 石山, 藤田, 村林)
2. 小山台 10' 50" 2
3. 学大附 11' 05" 2
4. 戸山 11' 57" 1
5. 雪谷 13' 15" 2

22 女子 100m Br

1. 進藤 (学大附) 1' 33" 3
2. 原 (雪谷) 1' 36" 2
3. 田中 (小山台) 1' 36" 3
4. 揚野 (学大附) 1' 37" 0
5. 塩川 (都大附) 1' 40" 1
6. 鎗木 (雪谷) 1' 43" 9

23 男子 100m Bu

1. 藤田 (都大附) 1' 17" 7
2. 小松田 (雪谷) 1' 21" 5
3. 金井 (学大附) 1' 24" 5
4. 追川 (雪谷) 1' 25" 1
5. 中村 (小山台) 1' 27" 8
6. 渡辺 (学大附) 1' 33" 8

24 女子 100m Bu

1. 堀 (田園調布) 1' 28" 3
2. 大貫 (都大附) 1' 29" 4
3. 斎藤 (雪谷) 1' 32" 0
4. 揚野 (学大附) 1' 36" 4
5. 橋本 (学大附) 1' 43" 0
6. 香取 (大崎) 2' 11" 6

25 男子 100m Ba

1. 追川 (雪谷) 1' 17" 6
2. 小木 (都大附) 1' 20" 0
3. 竹内 (学大附) 1' 29" 1
4. 島 (戸山) 1' 29" 7
5. 石山 (都大附) 1' 31" 1
6. 関 (学大附) 1' 31" 6

第 20 回

東京都 16 高校対抗水上競技大会

昭和 49 年 8 月 24・25 日

於：小石川高校プール

(1) 男子 400m MR

- | | | |
|----|-------|----------|
| 1. | 小 石 川 | 4' 48" 0 |
| 2. | 新 宿 | 4' 50" 5 |
| 3. | 武 蔵 | 4' 51" 5 |
| 4. | 東 大 附 | 4' 53" 5 |
| 5. | 都 大 附 | 4' 54" 1 |
| 6. | 教 大 附 | 5' 03" 3 |
| 團 | 都 大 附 | 4' 57" 0 |

(小木、村上、藤田、宮崎)

(2) 女子 200m MR

- | | | |
|----|-------|----------|
| 1. | 都 駒 | 2' 31" 4 |
| 2. | 麹 町 | 2' 35" 5 |
| 3. | 三 輪 田 | 2' 36" 6 |
| 4. | 学 習 院 | 2' 39" 2 |
| 5. | 新 宿 | 2' 44" 6 |
| 6. | 三 田 | 2' 48" 6 |
| 團 | 都 大 附 | 2' 47" 9 |

(東原、塩川、大貫、中町)

(3) 男子 800m Fr

- | | | |
|----|-------------|-----------|
| 1. | 植 松 (新宿) | 10' 46" 5 |
| 2. | 岸 (北園) | 10' 51" 2 |
| 3. | 宮 本 (両国) | 10' 57" 5 |
| 4. | 藤 代 (小石川) | 11' 05" 4 |
| 5. | 志 村 (武 蔵) | 11' 12" 2 |
| 6. | 町 田 (港工業) | 11' 12" 8 |
| 團 | 石 山 | 13' 01" 6 |

男子得点		女子得点	
1.	都大附	8 6 点	1. 学大附 7 0 点
2.	学大附	6 7 点	2. 雪 谷 4 6 点
3.	雪 谷	5 8 点	3. 都大附 4 0 点
4.	小山台	5 1 点	4. 田園調布 3 5 点
5.	戸 山	3 2 点	5. 大 崎 2 0 点
6.	大 崎	0 点	6. 小山台 1 2 点
7.	田園調布	0 点	7. 戸 山 9 点

(評)

昨年発足した城南 6 校戦が参加校に一部変更をみて、7 校戦となつた。我校は当然 16 校の前哨戦のつもりで臨んだ。結果は前記の通りである。男子は予想通りの優勝ではあつたが、内容が悪すぎる。誰にも大きな記録の更新はなかつた。ここではレースよりタイムトライアルをしてほしかつた。これに反し、女子は大貫の活躍が目立ち、残る 3 人も 16 校への期待にかなつた泳ぎをみせてくれた。今後が楽しみである。

8 月 17 日

越 智

(8) 男子	200m	Ba	(4) 女子	200m	Fr
1. 河合(北園)	2' 38"8		1. 佐藤(都駒)	2' 27"8	
2. 伊藤(新宿)	2' 46"5		2. 大貫(都附)	2' 43"5	
3. 追川(雪谷)	2' 47"6		3. 秋山(小石川)	2' 51"8	
4. 大瀬(小石川)	2' 50"4		4. 中町(都附)	2' 53"6	
5. 谷口(三田)	2' 51"1		5. 釜井(大森)	2' 54"0	
6. 小林(都附)	2' 55"5		6. 石井(教附)	2' 57"2	
团 小木	2' 55"0		团 中町	2' 56"5	
			大貫	2' 44"6	
(9) 女子	200m	Br	(5) 女子	100m	Bu
1. 根本(都駒)	3' 08"3		1. 三町(都駒)	1' 15"2	
2. 大須賀(小石川)	3' 14"6		2. 佐藤(都駒)	1' 16"4	
3. 上村(青山)	3' 16"5		3. 酒井(麹町)	1' 22"1	
4. 栗田(都駒)	3' 20"1		4. 平栗(麹町)	1' 31"7	
5. 中村(小石川)	3' 21"8		5. 中川(新宿)	1' 42"3	
团 塩川	3' 32"3				
(10) 男子	200m	Br	(6) 男子	200m	Bu
1. 村上(都附)	2' 47"5		1. 沢(小石川)	2' 34"3	
2. 村林(都附)	2' 48"7		2. 加藤(港工業)	2' 40"4	
3. 塚原(両国)	2' 52"3		3. 太田(東大附)	2' 40"5	
4. 長田(九段)	2' 54"4		4. 内村(新宿)	2' 44"8	
5. 青野(東大附)	2' 59"0		5. 永尾(小山台)	2' 47"6	
6. 宮田(北園)	3' 01"1		6. 経塚(城南)	3' 00"4	
团 村上	2' 50"7				
村林	2' 52"4		(7) 女子	100m	Ba
和田	3' 14"0		1. 原山(都駒)	1' 17"1	
(11) 女子	200m	IM	2. 田村(三輪田)	1' 25"6	
1. 原山(都駒)	2' 45"2		3. 斎藤(北野)	1' 28"5	
2. 三町(都駒)	2' 45"7		4. 西郷(学習院)	1' 29"8	
3. 佐藤(都駒)	2' 46"8		5. 斎藤(都駒)	1' 29"8	
4. 大貫(都附)	3' 02"4		6. 古賀(新宿)	1' 32"9	
5. 酒井(麹町)	3' 04"1		团 東原	2' 02"0	
6. 斎藤(北野)	3' 15"6				
团 中町	3' 37"2				
大貫	3' 02"4				

10 男子 400m Fr

1. 岸(北園) 5'03"2
 2. 植松(新宿) 5'07"5
 3. 藤代(小石川) 5'10"0
 4. 宮本(両国) 5'10"0
 5. 伊藤(九段) 5'26"0
 6. 志村(武蔵) 5'26"5
- 团 石山 6'09"0
松永 6'28"8

11 女子 50m Ba

1. 西郷(学習院) 39"6
 2. 斎藤(都駒) 41"2
 3. 田村(両国) 41"2
 4. 古賀(新宿) 41"5
 5. 宮田(教附) 41"6
 6. 古田上(麹町) 42"8
- 团 東原 52"2

12 男子 100m Ba

1. 青木(学習院) 1'08"0
 2. 武田(武蔵) 1'13"7
 3. 河合(北園) 1'14"7
 4. 大橋(小石川) 1'17"0
 5. 追川(雪谷) 1'17"4
 6. 小木(都大附) 1'20"0
- 团 小木 1'19"4

13 女子 50m Bu

1. 原山(都駒) 34"2
2. 酒井(麹町) 36"3
3. 聚田(都駒) 38"5
4. 羽太(戸山) 41"2
5. 石黒(九段) 41"2
6. 桐沢(雪谷) 41"4

14 男子 200m IM

1. 青木(学習院) 2'28"4
 2. 内村(新宿) 2'39"6
 3. 武田(武蔵) 2'39"7
 4. 沢(小石川) 2'43"3
 5. 宮田(北園) 2'43"3
 6. 村林(都大附) 2'45"5
- 团 宮崎 2'57"6
村林 2'43"0

15 男子 200m R

1. 小石川 1'53"7
 2. 都大附 1'53"9
 3. 武蔵 1'55"4
 4. 新宿 1'56"4
 5. 都大附 1'58"2
 6. 戸山 2'00"7
- 团 都大附 1'56"8
(村林, 小木, 宮崎, 藤田)

16 男子 400m IM

1. 宮田(北園) 5'46"7
 2. 永尾(小山台) 5'50"3
 3. 村林(都大附) 5'51"0
 4. 川井(北園) 5'58"7
 5. 志村(武蔵) 6'03"2
 6. 伊藤(新宿) 6'05"0
- 团 村林 5'56"0

17 女子 100m Fr

1. 三町(都駒) 1'06"2
 2. 大貫(都大附) 1'13"4
 3. 引地(九段) 1'15"6
 4. 花岡(三輪田) 1'17"3
 5. 中町(都大附) 1'17"6
 6. 興水(東大附) 1'19"0
- 团 中町 1'16"9
大貫 1'15"2

20 男子 100m Br

1. 村上(都大附) 1' 16"9
 2. 伊藤(新宿) 1' 19"5
 3. 青野(東大附) 1' 19"7
 4. 塚原(両国) 1' 20"5
 5. 熊谷(九段) 1' 20"7
 6. 小谷野(戸山) 1' 22"9
- | | | |
|---|----|---------|
| 田 | 村上 | 1' 19"2 |
| | 宮崎 | 1' 23"4 |
| | 和田 | 1' 27"3 |

20 女子 400m R

1. 都駒 4' 42"6
2. 鮎町 5' 22"0
3. 新宿 5' 27"8
4. 城南 5' 31"1
5. 小石川 5' 39"5
6. 三田 5' 39"8

20 男子 800m R

1. 小石川 9' 47"2
 2. 北園 10' 03"0
 3. 新宿 10' 05"4
 4. 武藏 10' 07"6
 5. 教大附 10' 12"0
 6. 小山台 10' 13"2
- | | | |
|---|-----|----------|
| 田 | 都大附 | 10' 34"2 |
|---|-----|----------|

(宮崎, 石山, 藤田, 村林)

20 男子 100m Bu

1. 梶沢(小石川) 1' 06"3
 2. 青木(学習院) 1' 06"5
 3. 内村(新宿) 1' 09"1
 4. 太田(東大附) 1' 09"9
 5. 田中(三田) 1' 10"4
 6. 加藤(港工業) 1' 11"2
- | | | |
|---|----|---------------|
| 田 | 藤田 | 1' 12"8 (都立新) |
|---|----|---------------|

20 女子 50m Fr

1. 花岡(三輪田) 32"9
2. 惣佐(両国) 35"1
3. 須山(都駒) 35"2
4. 土屋(新宿) 35"2
5. 中川(新宿) 35"8
6. 羽太(戸山) 36"9

20 男子 100m Fr

1. 永尾(小山台) 1' 03"6
 2. 小林(小石川) 1' 03"8
 3. 浜田(教附) 1' 03"8
 4. 渡辺(武蔵) 1' 04"5
 5. 町田(港工業) 1' 05"5
 6. 田中(三田) 1' 06"9
- | | | |
|---|----|---------|
| 田 | 松永 | 1' 15"4 |
| | 久保 | 1' 34"8 |

20 女子 100m Br

1. 根本(都駒) 1' 27"5
 2. 大花(三輪田) 1' 31"6
 3. 上村(青山) 1' 31"6
 4. 大須賀(小石川) 1' 32"9
 5. 鈴木(都駒) 1' 33"6
 6. 中村(小石川) 1' 35"4
- | | | |
|---|----|---------|
| 田 | 塩川 | 1' 38"3 |
|---|----|---------|

第26回

関東6高校水上競技大会

昭和49年8月29・30日

於：都立大学附属高校プール

(1) 男子400m MR

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 東大附 | 4' 54"2 |
| 2. 都大附 | 4' 55"4 |
| (小木, 村上, 藤田, 村林) | |
| 3. 武藏 | 5' 07"6 |
| 4. 学習院 | 5' 16"2 |
| 5. 成蹊 | 6' 17"5 |

(2) 女子200m MR

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 学習院 | 2' 40"8 |
| 2. 都大附 | 2' 43"0 |
| (東原, 塩川, 大貫, 中町) | |
| 3. 成城 | 2' 46"1 |

(3) 男子400m Fr

- | | |
|------------|---------|
| 1. 武田(武藏) | 5' 12"4 |
| 2. 上総(東大附) | 5' 19"5 |
| 3. 志村(武藏) | 5' 20"2 |
| 4. 井上(成蹊) | 5' 23"8 |
| 5. 板倉(武藏) | 5' 28"8 |
| 6. 石山(都大附) | 5' 53"8 |
| 石山 | 5' 59"0 |
| 松永 | 6' 31"2 |
| 久保 | 7' 15"8 |

男子得点

- | | | | |
|----------|-----|----------|------|
| 1. 小石川 | 65点 | 1. 都立駒場 | 110点 |
| 2. 新宿 | 50点 | 2. 薬町学院 | 29点 |
| 3. 北園 | 43点 | 3. 三輪田 | 25点 |
| 4. 都大附属 | 30点 | 4. 都大附属 | 18点 |
| 4. 武藏 | 30点 | 4. 新宿 | 18点 |
| 6. 学習院 | 19点 | 6. 小石川 | 17点 |
| 7. 東大附属 | 16点 | 7. 学習院 | 13点 |
| 8. 小山台 | 15点 | 8. 両国 | 9点 |
| 9. 教大附属 | 14点 | 9. 青山学院 | 8点 |
| 9. 両国 | 14点 | 10. 九段 | 6点 |
| 11. 港工業 | 9点 | 11. 北野 | 5点 |
| 12. 九段 | 7点 | 12. 戸山 | 4点 |
| 13. 雪谷 | 6点 | 13. 城南 | 3点 |
| 14. 三田 | 5点 | 13. 教大附属 | 3点 |
| 15. 戸山 | 2点 | 15. 大森 | 2点 |
| 16. 城南 | 1点 | 15. 三田 | 2点 |
| 17. 青山 | 0点 | 17. 東大附属 | 1点 |
| 17. 大森 | 0点 | 17. 雪谷 | 1点 |
| 17. 教附駒場 | 0点 | 19. 小山台 | 0点 |
| 17. 都立駒場 | 0点 | 19. 北園 | 0点 |

(評)

素晴らしい大会であった。結果は男子、女子とも総合4位。16校入賞をめざした今シーズン、おしくも入賞はできなかったがその目標には十分に到達していた。男子は3年を中心とまとった力をフルに発揮し、そのチームワークのよさには一目をおく。残念なことと言えば、800Rと100Bu(藤田)において、どちらも好記録を出しながら予選7位で決勝に進出できなかつたことである。しかし、これらのその内容のよさはそれだけで十分に賞賛に値するものである。女子においても少人数であるにもかかわらず18点をとりその活躍には予想外のものがあった。

一人で何点も稼いだ者。得点こそしなかつたがベストを出した者。ベストこそ出さなかつたが全力で泳いだ者。みんな素晴らしい。

8月25日

越智

(8) 女子 200m Br

1. 塩川(都大附) 3'19"1
2. 金子(東大附) 3'24"9
3. 成田(学習院) 3'26"0
4. 大庭(学習院) 3'33"8
5. 瀬尾(学習院) 3'36"7

(9) 男子

1. 太田(東大附) 2'40"8
2. 鈴木(学習院) 3'09"3
3. 宮本(東大附) 3'15"1
4. 久野(武藏) 3'44"8
5. 横山(武藏) 3'46"0

(10) 女子 200m Bu

1. 関根(学習院) 3'53"3
2. 山際(成城) 4'00"3
3. 村浦(学習院) 4'59"8

(11) 男子 100m Fr

1. 河野(成蹊) 1'02"0
 2. 藤田(都大附) 1'06"0
 3. 武田(武藏) 1'06"3
 4. 宮崎(都大附) 1'06"6
 5. 神山(武藏) 1'06"6
 6. 村林(都大附) 1'07"7
- 團 藤田 1'07"1
 宮崎 1'08"3
 村林 1'08"1
 山田 1'50"6

(4) 女子 400m Fr

1. 大貫(都大附) 5'39"8
2. 富田(学習院) 6'11"6
3. 永井(成城) 6'34"0
4. 平山(成蹊) 6'34"7
5. 興水(東大附) 6'53"3
6. 松平(学習院) 7'21"5

(5) 男子 200m Ba

1. 青木(学習院) 2'31"4
2. 若松(東大附) 2'49"8
3. 小木(都大附) 2'50"0
4. 井上(東大附) 2'50"5
5. 神山(武藏) 2'52"0
6. 横山(武藏) 3'13"7

團 小木 2'55"1

(6) 女子 200m Ba

1. 西郷(学習院) 3'20"2
2. 永井(成城) 3'50"8
3. 東原(都大附) 4'26"0
4. 野崎(学習院) 4'34"4

(7) 男子 200m Br

1. 村上(都大附) 2'50"0
 2. 村林(都大附) 2'52"3
 3. 青野(東大附) 2'52"8
 4. 香月(武藏) 3'03"3
 5. 和田(都大附) 3'10"3
 6. 小山(東大附) 3'17"1
- 團 村上 2'53"3
 村林 2'56"7
 和田 3'09"4

06 女子 100m Bu

- 大貫(都大附) 1' 28"1
- 関根(学習院) 1' 42"4
- 藤倉(成城) 1' 49"6
- 村浦(成城) 1' 58"6
- 村浦(学習院) 2' 04"8

07 男子 100m Bu

- 太田(東大附) 1' 09"6
- 藤田(都大附) 1' 15"0
- 井上(東大附) 1' 20"6
- 鈴木(学習院) 1' 22"1
- 宮本(東大附) 1' 24"1
- 小山(東大附) 1' 40"0

08 女子 100m Br

- 金子(東大附) 1' 31"7
- 成田(学習院) 1' 33"0
- 塩川(都大附) 1' 33"3
- 大庭(学習院) 1' 39"3
- 東井(学習院) 1' 42"8
- 山際(成城) 1' 43"5

09 男子 100m Br

- 青木(学習院) 1' 16"5
 - 村上(都大附) 1' 17"1
 - 青野(東大附) 1' 18"5
 - 水野(成蹊) 1' 22"2
 - 香日(武藏) 1' 22"5
 - 宮崎(都大附) 1' 23"5
- 团村上 1' 18"3
宮崎 1' 23"5
和田 1' 25"3

10 女子 100m Fr

- 大貫(都大附) 1' 14"3
- 中町(都大附) 1' 16"1
- 藤倉(成城) 1' 16"3
- 富田(学習院) 1' 18"3
- 興水(東大附) 1' 19"9
- 平山(成蹊) 1' 20"2

11 男子 200m R

- 武藏 1' 57"5
- 都大附 2' 00"3
(村林, 石山, 宮崎, 藤田)
- 成蹊 2' 01"0
- 東大附 2' 02"0

12 女子 200m R

- 成蹊 2' 23"9
- 学習院 2' 24"1
- 都大附 2' 47"4
(東原, 塩川, 中町, 大貫)

13 男子 800m Fr

- 志村(武藏) 11' 04"6
 - 上総(東大附) 11' 11"7
 - 村林(都大附) 11' 11"7
 - 井上(成蹊) 11' 29"7
 - 板倉(武藏) 11' 38"0
 - 大弥(東大附) 12' 21"3
- 团石山 12' 40"6

24 女子 200m IM

- 大 貴(都大附) 2' 59"9
- 藤 倉(成 城) 3' 17"3
- 中 町(都大附) 3' 24"2
- 西 郷(学習院) 3' 33"1
- 浦 島(学大附) 3' 34"5
- 金 子(東大附) 3' 35"3

25 男子 200m IM

- 青 木(学習院) 2' 37"6
- 武 田(武 藏) 2' 43"5
- 村 林(都大附) 2' 45"6
- 神 山(武 藏) 2' 50"8
- 宮 崎(都大附) 2' 52"5
- 志 村(武 藏) 2' 53"8
- 藤 田(都大附) 2' 54"4
- 村 林 2' 45"8
- 宮 崎 2' 53"3
- 藤 田 2' 55"0

26 女子 400m R

- 都 大 附 5' 26"8
(塙川, 浦島, 中町, 大貴)
- 学 習 院 5' 35"0
- 成 城 5' 36"7

27 男子 800m R

- 武 藏 10' 11"8
- 東 大 附 10' 33"0
- 都 大 附 10' 35"8
(宮崎, 石山, 藤田, 村林)
- 成 踏 12' 30"7

28 女子 200m Fr

- 中 町(都大附) 2' 50"3
- 富 田(学習院) 2' 53"4
- 平 山(成蹊) 3' 00"7
- 輿 水(東大附) 3' 04"1
- 大 泷(成 城) 3' 09"5
- 松 平(学習院) 3' 18"8

29 男子 200m Fr

- 板 倉(武 藏) 2' 34"3
- 青 野(東大附) 2' 36"2
- 神 山(武 藏) 2' 36"4
- 鈴 木(成蹊) 2' 46"0
- 宮 本(東大附) 2' 48"3
- 小 山(東大附) 2' 49"5
- 松 永 2' 54"7
- 久 保 3' 25"0
- 山 田 4' 22"1

30 女子 100m Ba

- 西 郷(学習院) 1' 30"0
- 坂 井(成 城) 1' 37"7
- 穴 戸(東大附) 1' 37"7
- 金 子(東大附) 1' 48"7
- 東 原(都大附) 2' 02"3
- 野 崎(学習院) 2' 03"8

31 男子 100m Ba

- 青 木(学習院) 1' 12"1
- 武 田(武 藏) 1' 14"9
- 河 野(成蹊) 1' 16"4
- 若 松(東大附) 1' 17"8
- 小 木(都大附) 1' 19"3
- 井 上(東大附) 1' 22"4
- 小 木 1' 20"5

四 校 戦

昭和 49 年 9 月 14 日 (土)
於：教育大学附属高校プール

(1) 男子 400m MR

1. 都 大 附 4' 58" 7
(小木, 村上, 藤田, 宮崎)
2. 教 大 附 5' 12" 0
3. 学 大 附 5' 13" 8

(2) 女子 400m MR

1. 学 大 附 6' 01" 2
2. 都 大 附 6' 17" 6
(東原, 塩川, 大貫, 中町)
3. 跡 見 6' 33" 0
4. 教 大 附 6' 40" 8

(3) 男子 400m Fr

1. 篠 崎 (教) 5' 46" 1
2. 渡 辺 (学) 5' 48" 7
3. 石 山 (都) 5' 52" 5
4. 中 村 (教) 5' 52" 7
5. 松 永 (都) 6' 20" 4
6. 井 沼 (学) 6' 32" 0

(4) 女子 400m Fr

1. 大 貫 (都) 5' 52" 6
2. 浦 島 (学) 6' 28" 9
3. 井 上 (跡) 6' 29" 5
4. 藤 田 (跡) 6' 49" 8
5. 吉 岡 (教) 7' 20" 4
6. 入 沢 (学) 7' 56" 6
7. 原 田 (教) 8' 41" 0

男子得点

1. 武 蔵 102 点
 2. 東大附 95 点
 3. 都大附 79 点
 4. 学習院 42 点
 5. 成 蹤 41 点
1. 学習院 107 点
 2. 都大附 95 点
 3. 成 城 68 点
 4. 東大附 27 点
 5. 成 蹤 8 点

(評)

今年は、6年に1度の主催校ということで大会前の2,3日準備に忙しく練習量がぐっとへり、心配された大会であった。しかし、そんな心配をよそに3年はもちろんのこと2年、1年も持てる力をすべて出して、すばらしい泳ぎを見てくれた。特に女子においては皆、賞状をとりその活躍は目を見はせるものがあった。又、この大会を成功させてくださった諸先輩方に心からお礼を申し上げます。

8月30日

大和田

(9) 男子	200m	Bu		(5) 男子	200m	Ba	
1. 藤田(都)		3'14"0		1. 小木(都)		2'54"6	
2. 宮崎(都)		3'26"3		2. 桂田(教)		2'58"8	
3. 堀(教)		3'27"4		3. 吉田(教)		3'02"9	
4. 田中(教)		3'42"9		4. 関(学)		3'09"8	
				5. 石山(都)		3'20"4	
				6. 竹内(学)		3'28"9	
(10) 男子	100m	Fr		(6) 女子	200m	Ba	
1. 中村(教)		1'05"4		1. 宮田(教)		3'25"4	
2. 渡辺(学)		1'09"5		2. 広田(学)		3'41"0	
3. 堀江(教)		1'09"5		3. 吉田(跡)		3'48"4	
4. 井沼(学)		1'14"7		4. 山本(教)		3'54"3	
5. 久保(都)		1'28"8					
6. 山田(都)		1'56"6					
(11) 女子	100m	Fr		(7) 男子	200m	Br	
1. 中町(都)		1'15"5		1. 村林(都)		2'58"9	
2. 大貫(都)		1'16"2		2. 広口(学)		2'58"9	
3. 進藤(学)		1'20"2		3. 和田(都)		3'11"9	
4. 広田(学)		1'20"9		4. 長野(学)		3'18"2	
5. 広川(跡)		1'24"6		5. 佐藤(教)		3'23"2	
6. 藤井(教)		1'31"0		6. 小山(教)		3'35"4	
7. 角田(跡)		1'33"4					
8. 加藤(教)		1'40"1					
(12) 女子	100m	Ba		(8) 女子	200m	Br	
1. 宮田(教)		1'33"7		1. 揚野(学)		3'19"8	
2. 揚野(学)		1'37"7		2. 塩川(都)		3'24"9	
3. 平野(跡)		1'44"5		3. 島(教)		3'31"5	
4. 吉田(跡)		1'45"0		4. 赤星(教)		3'39"1	
5. 山本(教)		1'46"1		5. 阿部(跡)		3'46"8	
6. 東原(都)		1'57"5		6. 弧田(学)		3'53"3	
				7. 遠藤(跡)		3'56"0	

⑩ 男子 200m IM

1. 村 林(都) 2' 51"5
2. 宮 崎(都) 2' 54"7
3. 長谷川(教) 2' 57"6
4. 金 井(学) 3' 01"9
5. 堀 (教) 3' 05"5

⑪ 女子 100m Bu

1. 吉 岡(教) 2' 02"0
2. 原 田(教) 2' 37"1

⑫ 男子 100m Bu

1. 篠 崎(教) 1' 25"3
2. 田 中(教) 1' 36"4
- 藤 田(都) 1' 22"3 (失格)

⑬ 女子 400m R

1. 学 大 附 5' 25"5
2. 跡 見 5' 52"0
3. 教 大 附 6' 10"9

⑭ 男子 800m R

1. 都 大 附 10' 32"7
(小木, 石山, 藤田, 村林)
2. 教 大 附 10' 32"7
3. 学 大 附 11' 11"1

男子 得点	女子 得点
1. 都大附 87点	1. 学大附 87点
2. 教大附 82点	2. 教大附 81点
3. 学大附 48点	3. 跡 見 70点
	4. 都大附 56点

⑮ 男子 100m Ba

1. 小 木(都) 1' 19"8
2. 萩 田(教) 1' 22"5
3. 吉 田(教) 1' 22"6
4. 関 (学) 1' 27"7
5. 村 上(都) 1' 28"4
6. 竹 内(学) 1' 29"4

⑯ 女子 100m Br

1. 進 藤(学) 1' 34"6
2. 塩 川(都) 1' 36"3
3. 島 (教) 1' 38"0
4. 平 野(跡) 1' 38"5
5. 赤 星(教) 1' 44"1
6. 遠 藤(跡) 1' 49"4
7. 薮 田(学) 1' 49"4
8. 関 田() 2' 09"5

⑰ 男子 100m Br

1. 村 上(都) 1' 19"5
2. 広 口(学) 1' 21"4
3. 和 田(都) 1' 25"7
4. 長 野(学) 1' 26"2
5. 佐 藤(教) 1' 30"5
6. 小 沢(教) 1' 31"6

⑱ 女子 200m Fr

1. 中 町(都) 2' 52"6
2. 浦 島(学) 3' 01"6
3. 井 上(跡) 3' 08"2
4. 萩 田(跡) 3' 14"2
5. 三 桜(学) 3' 14"8
6. 藤 井(教) 3' 47"7
7. 宮 司(教) 4' 07"6

(5) 男子 200m Br

1. 村上(都) 2' 56"6
2. 広口(学) 3' 05"6
3. 和田(都) 3' 12"9
4. 高木(学) 3' 38"2

(6) 女子 200m Br

1. 進藤(学) 3' 22"9
2. 揚野(〃) 3' 23"5
3. 塩川(都) 3' 27"8

(7) 男子 200m Ba

1. 小木(都) 3' 04"5
2. 関(学) 3' 15"4
3. 竹内(〃) 3' 30"1
4. 長沢(〃) 4' 01"0

(8) 女子 200m Ba

1. 揚野(学) 3' 43"0
2. 東原(都) 4' 12"8

(9) 男子 100m Bu

1. 藤田(都) 1' 24"7
2. 金井(学) 1' 26"1
3. 渡辺(〃) 1' 40"2

(10) 女子 100m Bu

1. 中町(都) 1' 39"2
2. 浦島(学) 1' 43"2

学大戦

9月28日

於：学大附高プール

(1) 男子 200m MR

1. 都大附A 2' 17"6
(小木, 村上, 藤田, 宮崎)
2. 学大附A 2' 18"9
3. 都大附B 2' 30"4
(石山, 和田, 村林, 松永)
4. 学大附B 2' 31"6
5. 学大附C 2' 41"1

(2) 女子 200m MR

1. 都大附 2' 45"0
(東原, 塩川, 大貫, 中町)
2. 学大附 2' 45"5

(3) 男子 200m Fr

1. 村林(都) 2' 40"2
2. 小木(〃) 2' 41"8
3. 渡辺(学) 2' 42"9
4. 金井(〃) 2' 43"9
5. 松永(都) 2' 56"2
6. 石山(〃) 2' 58"7
10. 久保(〃) 3' 29"4

(4) 女子 200m Fr

1. 大貫(都) 2' 47"3
2. 浦島(学) 3' 01"0
3. 高橋(〃) 3' 19"7
4. 八沢(学) 3' 21"5

05 男子 100m Ba

1. 小木(都) 1' 24"6
2. 渡辺(学) 1' 30"6
3. 関(〃) 1' 40"8
4. 竹内(〃) 1' 46"0
5. 広口(〃) 1' 48"3
6. 長沢(〃) 1' 53"4

06 女子 100m Ba

1. 揚野(学) 1' 36"6
2. 浦島(〃) 1' 48"7
3. 東原(都) 1' 52"6

07 男子 100m IM

1. 藤田(都) 1' 15"5
2. 村林(〃) 1' 17"6
3. 宮崎(〃) 1' 21"8
4. 村上(〃) 1' 22"5
5. 小木(〃) 1' 24"3
6. 広口(学) 1' 27"5
7. 石山(都) 1' 29"2
14. 和田(〃) 1' 38"6
15. 松永(〃) 1' 39"7
18. 久保(〃) 1' 44"0

08 女子 100m IM

1. 大貫(都) 1' 27"0
2. 揚野(学) 1' 30"0
3. 進藤(〃) 1' 35"4
4. 中町(都) 1' 35"6
5. 浦島(学) 1' 36"1
6. 高橋(〃) 1' 49"3
8. 塩川(都) 1' 53"1

01 男子 100m Fr

1. 安部(学) 1' 07"5
2. 村林(都) 1' 07"8
3. 小木(〃) 1' 12"0
4. 金井(学) 1' 14"4
5. 高橋(〃) 1' 15"0
6. 渡辺(〃) 1' 15"6
7. 松永(都) 1' 15"8
8. 石山(〃) 1' 16"1
15. 久保(〃) 1' 31"1

02 女子 100m Fr

1. 大貫(都) 1' 16"6
2. 中町(〃) 1' 17"5
3. 浦島(学) 1' 21"7
4. 揚野(〃) 1' 22"7
5. 進藤(〃) 1' 22"8
6. 高橋(〃) 1' 28"0

03 男子 100m Br

1. 村上(都) 1' 19"2
2. 広口(学) 1' 24"7
3. 長野(〃) 1' 26"6
4. 和田(都) 1' 27"5
5. 高木(学) 1' 35"9
6. 下川(〃) 1' 36"4

04 女子 100m Br

1. 進藤(学) 1' 36"3
2. 塩川(都) 1' 38"0

⑩ 女子 200m R

1. 学大附 2' 28" 7
 2. 都大附 2' 44" 2
 (東原, 塩川, 中町, 大貫)

(評)

今シーズン最後の試合であり、3年生を先頭として皆頑張っていたようだ。が、お祭りといった感が強く、タイムとしては目を見張るもののがなかつた。残念である。来年も村林を先頭に良いチームになるであろうことを期待する。

9月28日

小沢

⑪ 男子 200m R

1. 都大附 A 2' 03" 6
 (小木, 村上, 藤田, 宮崎)
 2. 学大附 A 2' 05" 7
 3. 学大附 B 2' 08" 8
 4. 都大附 B 2' 14" 4
 (村林, 石山, 松永, 久保)
 5. 学大附 C 2' 18" 3
 open O.B.Aチーム 1' 56" 3
 (越智, 平出, 田島, 大和田)
 open O.B.Bチーム 2' 07" 9
 (大石, 武笠, 小沢, 藤岡)

49年度 各人最高タイム

*印は女子

		50m	100m	200m	400m	800m
Fr						
3年	村 上	30" 9	1' 14" 2			
	宮 崎	28" 8	1' 06" 4			
	藤 田	27" 8	1' 06" 0	2' 34" 0		
	小 木	30" 6	1' 11" 3	2' 40" 7	6' 03" 0	
	田 畑	32" 1	1' 14" 2	2' 52" 7	6' 16" 0	
2年	村 林	29" 6	1' 06" 0	2' 26" 2	5' 11" 0	11' 11" 7
	石 山	31" 5	1' 12" 1	2' 42" 2	5' 52" 5	12' 29" 5
	高 取				6' 52" 2	
	山 田	46" 9	1' 50" 6	4' 22" 4		
	*中 町	33" 9	1' 15" 4	2' 50" 3		
1年	松 永	32" 0	1' 14" 0	2' 54" 5	6' 15" 0	
	久 保	37" 2	1' 28" 2	3' 25" 0	7' 15" 8	
	*大 貫		1' 13" 4	2' 43" 5	5' 39" 7	12' 57" 5
	*塩 川	41" 9	1' 35" 0			

		50m	100m	200m	400m	800m
Br						
3年	村上	35"6	1'16"5	2'47"5		
	藤田		1'25"6			
	小木	43"8				
	田畠	39"6				
2年	村林			2'48"7		
	*中町	46"0	1'43"3			
1年	和田	39"1	1'25"3	3'09"4		
	久保		1'40"5			
	*塩川	43"8	1'33"3	3'19"1		
Ba						
3年	村上	40"0	1'27"3	3'10"9		
	宮崎	38"2				
	藤田	39"2				
	小木	36"0	1'15"7	2'50"0		
2年	村林			2'57"4		
	石山	40"7	1'29"5	3'13"2		
	*中町	46"0	1'45"5			
1年	*東原	48"7	1'50"4	4'12"8		
	*塩川	57"0				
Bu						
3年	藤田		1'12"8	2'56"9		
	小木		1'25"0			
2年	村林	34"0		3'10"4		
	*中町	44"0	1'39"2			
1年	*大貫	36"0	1'25"5			

		5 0 m	1 0 0 m	2 0 0 m	4 0 0 m	8 0 0 m
I M						
3年	村 上		1' 22"5	2' 59"5		
	藤 田		1' 15"5	2' 54"4		
	小 木		1' 24"0			
2年	村 林		1' 17"6	2' 43"0	5' 51"0	
	*中 町		1' 35"6	3' 24"2		
1年	*大 貫		1' 27"0	2' 59"9	6' 44"2	
	*塙 川		1' 53"1			

2 0 0 m R

村林，小木，宮崎，藤田	1' 56"8
村林，石山，宮崎，藤田	2' 00"3
小木，村上，藤田，宮崎	2' 00"9

8 0 0 m R

小木，石山，藤田，村林	10' 33"6
宮崎，石山，藤田，村林	10' 35"8

4 0 0 m MR

小木，村上，藤田，宮崎	4' 54"1
小木，村上，藤田，村林	4' 55"4

49年度 総評

49年度ヘッドコーチ 越智昌之

○基本方針

今年度は16校に勝つという大きな目標をもって二つの方針のもとでコーチをした。

まずは3年生も含めてフリー陣の強化をはかる事であった。そのための練習としては距離をこなせることが主となった。強化練習以後の本格的練習期においては例年になく泳がせた。合宿では8000~10000に至った。もちろん距離をこなせることはフリー陣に限ったことではなかった。距離に比例して肉体的疲労が増すことは明らかだったので、精神的な面においてはできる限り圧力を取り除いた。練習内容は練習前に必ず現役諸君に公開した。

二つ目は個人の能力に相応じた練習を行なったということである。十分力のある者にとって、アーミング、ピートそれ自体の練習は決して無駄ではないが重要とも言い難い。それよりもその力をいかにしてスピードに見えるかという方が重要であり、そのための練習が必要である。反対に力のない者にとってインターバルトレーニングはそれこそ無駄であり、それ以前にアーミング、ピート、コンビネーションを必要とする事は明らかである。そんな訳で今年は現役をその能力に応じ細分化した。例えば、強化練習、合宿では7つのグループに分かれていた。もちろん1人しかいないグループ?もあった。

以上が基本方針であるが、この他にも変革的なことを多く行なった。まず、新しい練習方法を多く取り入れた。以前のコーチングには何か慣例的なところがあり、自分には納得のいかぬ点が多くあつたからだ。レペティション、ミックスセット、スペシャルPKC、スペシャルダッシュ、ダッシュノルマ勝負、ロング500etc どれも新しい試みであったため試行錯誤的なところもあつたが、それなりの成果は十分に得た。また、前にも述べたが、精神的圧力を取り除くため、ノルマによる増しはほとんどやらなかつた。ノルマと増しの意義を考えると、以前のこれらの行使に関してはどうも疑問が多い。ダッシュを例に述べよう。50メートルダッシュはその練習自体の意味を考えると、多くても10本が限度である。もちろんインターバルは十分にとる必要がある。しかし、うちの現役の中に10本を10本とも完全にダッシュし得る者は何人いるであろうか。いても1人か2人、いやいないかもしない。このような状態においてノルマをつけ、しかもノルマを増しの基準としてきた以前はダッシュという練習を行なうことにより現役に何を求めていたのだろうか。10本流す(ダッシュしない)より5本とばせる方がはるかにダッシュとしての練習効果はあるのではないか。5本流すより3本とばせる。3本流すより2本とばせる。この考え方がダッシュのノルマ勝負を考えつかせた。普通に考えれば8本ダッシュをやらせたい時、ダッシュ、ノルマ4本勝負をやらせた。これはノルマを与える、そのノルマを4本切った時点で終わる。切れなかつた者は8本目までやることができ、その時点で4本切れなかつた者はこれ以上ダッシュする力はないものと判断し25番水やダイビングを罰としてやらせた。つまり、

どんなに多くても8本なのである。以前のようにダッシュが際限なく続くことは決してない。この方法は確かに効果があった。少くとも以前の形式におけるダッシュよりもダッシュの意義に近づいていると思う。このようにダッシュのみならず、レースからインターバルに至るまで、その練習の真の意義を考え直し、その上でコーチをした。その結果、自然と以前のノルマ感はなくなった。以前のノルマ、増し制度は絶対的に誤りである。これは今後コーチを行なう者、特に現役諸君に言っておく。ノルマを決して増しの基準とはしないこと。

○総評

目標とした16校にはおしくも入賞できなかった。しかし、あのすばらしい試合内容は自分にとってたいへんうれしいものだった。

今年度は前半運が悪すぎた。プール工事で春季大会前一週間プールが使えなかつた。更衣室等の改築により部室がなくなり大学の部室にいそもうすることになった。また何と言つても強化練習に入つてまではだ寒いつゆが続いたことは最大の不運であった。そして強化練習以後、みんなが目標のため一丸となりがんばつた。ほとんどの者が記録に著しい伸びを見せてくれた。今年ほど都高新が乱発した年もめずらしいだろう。しかし、それ以前によく自分の練習を理解してついてきてくれたものだ。こちらの方が自分にとってはうれしい。コーチと現役との溝も感じなかつた。もっとも感じないようなコーチングをしたのだが、そのためけじめを失つた現役が多くなつたようだ。やはりいつでも、コーチと現役、先輩と後輩という関係は頭にしまつておくべきだろう。自分が今年できなかつた一つにこの点がある。泳ぐ以前の問題である。ずるいようだが今後の課題としてほしい。

最後に、自分をよく助けてくれたサブコーチの大和田、小沢、原田さんに心から感謝します。

寸評

和田

彼をはじめて見た時、体のひよわなこと、タイミングのずれ、アーミングの弱さ、腰の沈みすぎなどの欠点が目についた。従つて6～7月にかけて基礎体力の向上、タイミングなどを主眼においてきた。彼には相当きつかったと思うがよく耐えてくれた。

あの素人っぽい泳ぎから100mで1'25"3が出たのが不思議だが、今考えると持久力で全てが語れるのではないかと思う。

泳法は、タイミング、腰の沈み、プレスタイル、キックなど基本的なことに欠点があるので来シーズンには自分で研究してほしい。

塩川

彼女はだまされて入部したのだが良いセンスを持っている。とは言ってもまだ欠点が目につく。たとえばプレスタイルミング、手首のかえり、キックのフィニッシュなどであるが、それ以上に大きな精神的な弱さ、なげやりなところといった大きな欠点がある。

来シーズンに向かって責任がのしかかって来るのだからこの2つの欠点をよく考えてほしい。

総評

今年は基本量を多くしてましを減らすことにして現役諸君の精神的な重圧をへらすことに重点をおいた。また、新しいコーチングの導入にも手をつけた。

村林君を筆頭とする体力人間には我々も驚かされた。16校戦などでもレースの後半からじわじわと抜いていくかっこ良さに酔わされた。しかし、フリー陣の弱体には困ったものだ。

毎年言えるのだが、現役特に1年生の研究心のないことは問題である。泳法というものはいくら上でコーチが言っても自分で考えて常に大げさに実行してゆかないと身につかないものである。現役諸君は来シーズンに入る前に自分の泳ぎを頭で理解して研究してほしい。

小沢

評

今年は、7月に入てもなかなか梅雨が明けず寒い日がつづき、風呂も7月中旬になってやっと完成というようことで、合宿に入るまで練習量が増やせずに、合宿から急激に練習量が増えたので、合宿で例年のように落伍者が続出するのではないかと心配したがド体力人間の2年生、ドスマミナ人間の1年生と、それぞれ元気よく合宿を消化し、コーチ陣を驚かせた。

又、今年のチームは3年の主力4人が残り戦力的に充実し、且つ3年が4人残っていたので精神的にも2年、1年生たちを支えてくれたのでチーム全体がよくまとまっていた。

コーチングはその計画を越智を中心個人的なレベルによって科学的根拠に基づいて作成し、7月までの寒い時期には質的な練習を多くし、合宿からの量的にハードな練習をこなすための基礎づくりが成功し、目標16校及び6校大会において、その実力を十分に発揮しシーズン当初の目標を達成し、シーズンを終えることができた。

最後に、今年当校で開催された関東6高校水上競技大会にご協力下さいました諸先輩方に心からお礼を申し上げて終りにします。

49年初秋・サブコーチ 大和田 是

合宿評

今年の合宿では泳ぐ距離をかせぐことを第一の目標とした。そのために、できる限り精神的疲労を負わせないようした。その結果合宿が進むにつれてほとんどの者がイソターバル、ダッシュの記録を向上させ、予想外のすばらしい成績で合宿を終えることができた。

例年になく基本量をふやし、ノルマはつけても「ノルマによる増しは、ほとんどやらずその点は個人個人の意欲にまかせた。

ここに8月29日(月)のFreeの練習内容を記しておく。

早朝	Long 1,500×1	dash 25×20	
午前	race 400×1	Long 500×1	interval 100×20
	arming 100×5	IM 50×4	dash 25×20
午後	Long 800×1	arming 100×15	beat 100×10
dash 50×10, 25×30			
TOTAL	1,0650		

この練習は、合宿第4日目の最も肉体的、精神的疲労の多い日に行なったが、練習に参加したすべての者がすばらしい成績でこれをこなした。これには自分をはじめ、コーチ陣一同圧倒された。また、合宿中にもかかわらず好記録が続出したことも自分の驚きとするところである。とにかく現役諸君の体力に終始圧倒され続けたすばらしい合宿であった。

7月31日(木) 越智評

個人評 越智

村上

三年という立場を十二分に生かして泳いだ。記録への執着、研究熱心さは現役中一番であつた。残した記録も誠にすばらしい。特に、16校、百、二百制覇は立派。

小木

自分がコーチしたが、君という人間を十分理解できずにシーズンが終わってしまって遺憾だ。君が目指した目標を達成させてやることができず、すまないと思っている

宮 崎

リレー要員としての立場を十二分に果してくれた。練習熱心という点では群を抜いていた。一年、二年に対する影響力もかなり強かったようだ。

藤 田

シーズン途中まで、その活躍が最も危ぶまれていたが、最後に根性を見せてくれた。特に、100m蝶泳で残した記録は立派。またリレー要員としてもよく活躍してくれた。

村 林

今年は自由型とIMを中心に練習させた。昨年、重点を置いて練習した平泳はほとんどやらせなかつた。自由型ではシーズン前に予想した通り、二百、四百、八百において歴代一位を取つた。水のキャッチに関しては他の者に類を見ない。ある意味では天才的なものがある。来年は持ち前のスタミナを生かしスプリントを身につける練習に重点を置いて是非とも百米に挑戦してほしい。

石 山

練習熱心であり、根性もあるが、自分に対して甘いところがあるようだ。泳ぎ自体まだまだ未完成である。特にアーミングにおける入水の位置、ブレースタイミングに関しては勉強が必要である。今シーズンの記録はまだまだ君の記録ではない。今シーズン身につけた力とスタミナを土台に来シーズンはもっと考えて泳いでほしい。自分で自らの目標をたてることが大切。

高 取

耳の病気のためとはいえ、シーズン後半を棒に振ったことはスポーツマンとして失格である。シーズン当初、君の超変則ビートをなおすため大和田とまた原田さんとずい分討論を重ねた。君は自分でビートをなおすために何を努力したか。もっと自分にきびしさを持って、来年もこのままなどということが決してないように。スポーツは惰性でやるものではない。

山 田

今年から入部、しかもまったくと言ってよいほど水を知らなかっただけにつらかっただろうと思う。シーズンを過ごしてだいぶ水にも馴れただろうと思う。今後は泳ぎのテクニックを身につけることだ。これは水の中に入らなくても本の上である程度勉強できることだ。このまま水から遠ざかるのは君らしくない。君にもわかつたと思うが水泳はすばらしいスポーツなのだ。

中 町

腕の入水時にもっと肩をローリングさせた方がよい。確かに君の泳ぎは抵抗の少ないきれいな泳ぎである。しかしあの泳ぎでは持ついる力をすべてスピードに代えることは不可能であるようだ。この問題は重要であるから自分でもよく考えること。来年は大貴と共に女子フリー陣の双壁として活躍してほしい。三年だからと言って引退できたのはひと昔前の冗談にすぎない。

松 永

コンビネーションに重大な欠陥がある。ピートよりもアーミングを重視し、腕で泳がねばだめだ。シーズンオフの間にできる限りのフォームの矯正をすること。また、フリー以外の種目もこの冬に泳げるようにしておくこと。特に現在のブレは見えてても恥ずかしい。来シーズンもこのままといふことがないように。そして来シーズンはラスト前流しとラスト飛ばしはやめること。

久 保

シーズンオフに陸トレをはじめにやり力を持つこと。泳ぐために必要な力さえつけば体の小さいことは決してハンディにはならない。また水泳に関する本を読み、その知識を豊富にすることも大切。君はプレスの時頭を回しそぎるため体が開いてしまうという欠点がある。これは泳ぐことによって自然に直るものであるから今冬は積極的に泳ぎに行くこと。

和 田

人の泳ぎをまねるのも悪くはないが、それだけではだめ。人のよい所は堂々と盛んでよいから自分で研究することを決して忘れないこと。君には村上というすばらしい先輩がいるが、村上のすばらしさは残した記録であって決してそのフォームではないのだから誤解しないように。また力不足は陸トレで補っておくこと。特にゴム引きに重点を置いてやること。

大 貴

確かに速い。センスも抜群である。キャリアが物を言っているようだ。しかし、泳ぎ自体はまだまだである。特にフリーはきたないフォームの代表選手である。リカバーとプレスは何としても直す必要がある。ブレとバックは今年は鍛え方が足りなかつたようだ。来年はこの二つの泳ぎを物にすること。泳ぎに欠点が多いということは逆に考えれば、まだまだ記録は縮まるということである。

塩 川

ブレストに関してセンスがある。とても今年から泳ぎだしたとは思われない。練習熱心で研究心も旺盛である。こうしたところが泳ぎに現われるのであろう。しかし、泳ぎはまだまだ荒

いところが多い。一番気になるのはプレスの不自然さである。シーズンオフの間には力を十二分につけること。君の場合力さえあれば荒さはほとんどとれると思う。陸トレではゴム引きに重点を置くこと。

東 原

合宿までマネージャーをしていて泳ぎだしたのは合宿以後であった。練習した期間が非常に短かったわりに記録が伸びた。泳ぎに癖がないためすなおに一つ一つ覚えている。しかし、まだ水中における手の平の軌道に安定感がない。これは力不足によるものだから陸トレで克服すること。また水泳に関する本を読み知識を豊富にすること。室内プールに行き水に馴れること。

個 人 評

大 和 田

村 上

今年もよく泳いだ。なんといっても水中の姿勢がいいのでかきの効率もよくなるのだろう。きれいな泳ぎではないが、力強さを感じさせる泳ぎだ。1, 2年の面倒もよくみてくれた。いいコーチになるだろう。

宮 崎

よく練習し、1, 2年のころのような気弱さを感じさせなくなり、フリーのエースとしてよく活躍した。1, 2年も宮崎のように研究をして早く速くなってほしい。

藤 田

泳ぎそのものは、きれいではないが、力強く、そしていいタイミングを持っていたので速くなつたのだろう。ゴクロウサン！

小 木

力強い泳ぎだ。バックの時の姿勢がわるい。しかしフリーは、いい型になっている。来年がたのしみだ？！

村 林

今年は自分の泳ぎをよく研究し、すばらしい泳ぎを身につけた。しかしターン等の小わざは、本当に水泳部なのかと疑わせるほどヘタである。来年はスプリントをつけることとターン等の小わざを身につけてほしい。言うまでもなく、今年はよくやった。

石 山

泳ぎの型はすばらしいが、心臓についていかないようだ。ランニング等で心臓を強くして来年は、“うかない”泳ぎを見せてもらいたい。

中 町

シーズン前半は、スランプに泣いていたが、後半はうそのように自己新ラッシュでかざりよかったです。女子部員をよく引っぱってくれた。泳ぎはべつに欠点はなかったようだ。

松 永

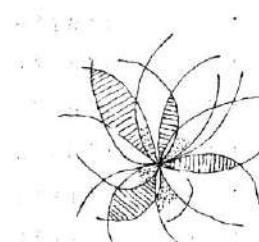
体がかたい。来年は前にのびる泳ぎを研究してほしい。冬の練習は君が引っぱって行くんだからがんばってくださいね。

久 保

小さいながらよく泳げるようになった。手の力をもっとつけて中学生に負けないようにがんばりなさい。

大 貫

泳ぎの型をよく知っているがまだまだのびるぞ。かきの型、プレスのやり方等まだまだ改善しなければならないところが、いっぱいあるのでガンバレ。



黑潮会 15 傑

200m Fr

1. 村林(現 2・49) 2'26"2
2. 田島(46卒・48) 2'29"5
3. 森(38卒・41) 2'40"2
4. 目(39卒・43) 2'40"5
5. 平出(現 2・46) 2'42"6
6. 新井(現 2・33) 2'43"8
7. 藤巻(27卒・30) 2'44"0
8. 菱沼(兄)(41卒・42) 2'44"6
9. 薬袋(現 3・45) 2'44"6
10. 石塚(現 2・30) 2'45"0
11. 中島(現 2・45) 2'45"3
12. 角田(現 2・43) 2'47"8
13. 中原(現 2・41) 2'48"0
14. 金田(現 2・41) 2'48"0
15. 石山(現 2・49) 2'48"3

400m Fr

1. 村林(現 2・49) 5'11"0
2. 服部(34卒・38) 5'26"3
3. 目(現 2・37) 5'27"4
4. 宮崎(現 2・48) 5'35"5
5. 平出(現 2・46) 5'39"1
6. 薬袋(現 3・45) 5'44"2
7. 中島(現 2・45) 5'46"5
8. 大貫(現 1・49) 5'48"5
9. 藤田(現 2・48) 5'50"7
10. 吉田(現 2・39) 5'56"8
11. 新井(現 2・33) 5'57"6
12. 石山(現 2・49) 5'58"5
13. 菱沼(兄)(41卒・42) 5'59"9
14. 田島(現 3・45) 6'01"0
15. 山本(34卒・36) 6'02"0

50m Fr

1. 田島(現 3・45) 27"9
2. 目(39卒・40) 28"2
3. 伊丹(13卒・28) 29"4
3. 中島(現 3・46) 29"4
5. 大和田(48卒・49) 29"5
6. 藤田(現 2・48) 29"6
7. 藤巻(27卒・28) 29"8
7. 久保田(27卒・28) 29"8
7. 宮崎(現 3・49) 29"8
10. 早坂(現 3・37) 30"0
11. 森(38卒・41) 30"1
11. 村林(現 2・49) 30"1
13. 堀川(24卒・29) 30"4
14. 菅野(35卒・36) 30"5
14. 北村(38卒・40) 30"5

100m Fr

1. 田島(現 3・45) 1'03"5
2. 目(現 3・38) 1'03"6
3. 村林(現 2・49) 1'06"0
4. 中島(47卒・49) 1'06"3
5. 服部(34卒・37) 1'06"4
5. 大和田(48卒・48) 1'06"4
7. 藤田(現 3・49) 1'06"7
8. 平出(48卒・49) 1'07"0
9. 宮崎(現 3・49) 1'07"1
10. 藤巻(27卒・28) 1'08"8
11. 森(38卒・40) 1'09"5
12. 岩瀬(現 2・41) 1'11"2
13. 平井(現 2・40) 1'11"7
14. 菅ヶ谷(現 1・40) 1'12"6
15. 早坂(現 3・37) 1'12"8

200m Br

1. 村林(現 1・48) 2'55"9
2. 北川(現 2・41) 2'57"1
3. 村上(現 2・48) 2'58"1
4. 塚田(現 3・46) 3'01"4
5. 伊藤(現 3・43) 3'03"8
6. 森(38卒・39) 3'04"0
7. 菅野(現 2・33) 3'04"4
8. 横尾(現 1・45) 3'06"7
9. 丹羽(30卒・34) 3'06"8
10. 田島(五)(現 2・34) 3'07"2
11. 中村(34卒・37) 3'07"2
12. 小沢(現 2・46) 3'08"6
13. 大島(現 2・31) 3'09"4
14. 菱沼(現 2・44) 3'11"0
15. 高品(現 2・29) 3'13"0

50m Ba

1. 越智(47卒・49) 34"5
2. 河北(36卒・44) 34"9
3. 森(38卒・42) 35"2
4. 鈴木(37卒・40) 36"5
5. 早坂(38卒・40) 36"5
6. 田島(現 3・45) 36"5
7. 小木(現 2・48) 37"0
8. 田中(現 3・45) 37"4
9. 大塚(43卒・46) 38"1
10. 宮崎(現 3・49) 38"2
11. 菱沼(元)(現 2・39) 40"0
12. 目(39卒・40) 40"2
13. 薬袋(現 3・45) 40"4
14. 武村(現 3・37) 40"8
15. 平出(現 2・46) 41"0

50m Br

1. 横尾(現 3・47) 35"3
2. 北川(43卒・43) 35"6
3. 村上(現 3・49) 35"6
4. 水口(43卒・47) 36"6
5. 伊藤(現 3・43) 36"8
6. 高品(33卒・37) 36"9
7. 安部(44卒・45) 37"4
8. 勝又(39卒・43) 37"8
9. 田島(46卒・47) 38"2
10. 宮本(現 3・45) 38"3
11. 越智(現 3・47) 38"3
12. 宮崎(現 2・48) 38"5
13. 村林(現 2・49) 38"5
14. 塚田(47卒・47) 38"8
15. 菱沼(元)(45卒・48) 39."1

100m Br

1. 村上(現 3・49) 1'18"5
2. 横尾(現 3・47) 1'20"4
3. 村林(現 1・48) 1'20"8
4. 北川(現 3・42) 1'21"6
5. 水口(43卒・47) 1'21"7
6. 宮崎(現 2・48) 1'22"1
7. 塚田(現 2・45) 1'22"9
8. 横山(34卒・36) 1'23"2
9. 高品(33卒・37) 1'23"4
10. 丹羽(30卒・30) 1'24"0
11. 目(現 3・38) 1'24"0
12. 森(現 3・37) 1'24"5
13. 勝又(39卒・40) 1'24"5
14. 菅野(現 1・32) 1'24"6
15. 中村(34卒・37) 1'27"0
15. 大石(49卒・49) 1'27"0

100m But

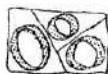
1. 藤田(現 2・48) 1'15"0
2. 菅ヶ谷(現 2・41) 1'16"8
3. 服部(34卒・38) 1'17"0
4. 田島(現 3・45) 1'17"1
5. 宮崎(現 2・48) 1'22"4
6. 目(39卒・43) 1'22"5
7. 早坂(現 2・36) 1'24"1
7. 恒吉(現 2・39) 1'24"1
9. 宮本(現 3・45) 1'26"9
10. 村林(現 1・48) 1'27"3
11. 横山(34卒・38) 1'27"5
12. 菅野(35卒・37) 1'27"9
13. 飯沼(39卒・39) 1'28"8
14. 大和田(現 3・47) 1'29"1
15. 村山(現 2・40) 1'30"1

100m Ba

1. 森(38卒・42) 1'17"4
2. 越智(現 3・47) 1'17"9
3. 小木(現 2・48) 1'18"8
4. 河北(36卒・36) 1'20"3
5. 服部(34卒・41) 1'21"0
6. 早坂(現 2・36) 1'21"2
6. 田中(46卒・47) 1'21"2
8. 大和田(現 3・47) 1'24"2
9. 鈴木(37卒・39) 1'24"6
10. 山本(34卒・36) 1'26"2
11. 川崎(30卒・38) 1'27"0
12. 斎藤(現 2・42) 1'27"2
13. 大塚(現 2・41) 1'29"5
14. 薬袋(現 3・45) 1'29"6
15. 菱沼(兄)(現 2・39) 1'30"3

50m But

1. 早坂(38卒・41) 31"6
2. 目(現 3・38) 31"9
3. 田島(46卒・47) 32"2
4. 村山(42卒・44) 33"0
5. 藤田(現 3・49) 33"3
6. 菅ヶ谷(現 3・42) 33"4
7. 平出(48卒・49) 34"3
8. 安部(現 3・43) 34"8
9. 北村(38卒・42) 35"3
10. 石塚(32卒・39) 36"0
11. 菱沼(弟)(46卒・47) 36"2
11. 横尾(現 3・47) 36"2
13. 中島(47卒・49) 36"3
14. 福島(44卒・45) 36"5
15. 沢田(現 3・39) 36"6
15. 宮崎(現 1・47) 36"6



全都立各種目 30 傑

200米自由型

1. 村林宣昭 2'26"2(49)
2. 中島孝幸 2'28"7(45)
3. 目信彦 2'29"4(37)
4. 田島健三 2'30"7(45)
5. 米本礼太郎 2'31"2(14)
6. 野村克夫 2'31"2(15)
7. 藤田亮 2'33"5(48)
8. 平出英夫 2'34"5(46)
9. 伊丹康夫 2'34"7(12)
10. 宮崎公義 2'37"0(48)
11. 久保田邦彦 2'37"2(26)
12. 大月稔之 2'38"8(22)
13. 吉田初男 2'39"1(39)
14. 角田昌之 2'39"4(43)
15. 新井洸三 2'39"5(33)
16. 田中正太郎 2'40"0(16)
16. 小林紳也 2'40"0(28)
18. 石渡良一 2'40"2(12)
19. 米本恭三 2'40"6(25)
20. 小木協仁 2'40"7(49)
21. 藤巻芳男 2'40"8(25)
22. 中光尚之 2'42"0(12)
22. 鈴木治 2'42"0(25)
22. 服部誠示 2'42"0(32)
22. 宮本俊男 2'42"0(44)
26. 石山修 2'42"2(49)
27. 清水義文 2'43"0(25)
28. 薬袋紀子 2'43"2(44)
29. 大貫直子 2'43"5(49)
30. 横山幹司 2'44"2(32)

100米自由型

1. 田島健三 1'02"7(45)
2. 目信彦 1'03"2(38)
3. 中島孝幸 1'05"0(45)
4. 米本礼太郎 1'05"2(14)
5. 平出英夫 1'05"4(47)
6. 藤田亮 1'06"0(49)
6. 村林宣昭 1'06"0(49)
8. 宮崎公義 1'06"4(49)
9. 伊丹康夫 1'06"5(12)
9. 大和田晃 1'06"5(47)
11. 野村克夫 1'06"6(16)
12. 岩瀬均 1'07"0(41)
13. 久保田邦彦 1'07"6(26)
14. 藤巻芳男 1'07"8(25)
15. 宮本俊男 1'08"9(44)
16. 越智昌之 1'09"0(47)
17. 新井洸三 1'09"2(33)
17. 角田昌之 1'09"2(43)
17. 田中伸 1'09"2(44)
20. 福島利治 1'09"6(42)
21. 平井卓 1'09"9(41)
21. 原田恵造 1'09"9(45)
23. 菅野次彥 1'10"0(40)
24. 大月稔之 1'10"2(22)
24. 石塚徹 1'10"2(30)
26. 田中正太郎 1'10"4(17)
27. 武笠好次 1'10"6(47)
28. 小坂徳三郎 1'10"8(10)
29. 益田正男 1'10"9(7)
29. 菅ヶ谷泰邦 1'10"9(40)

800米自由型

1. 村林宣昭 11' 11"7(49)
2. 目信彦 11' 23"3(37)
3. 米本礼太郎 11' 28"0(12)
4. 伊丹康夫 11' 32"4(12)
5. 中島孝幸 11' 45"2(45)
6. 野村克夫 11' 52"0(12)
7. 平出英夫 11' 54"5(46)
8. 田島健三 12' 04"0(44)
9. 薩袋紀子 12' 05"2(44)
10. 中光尚之 12' 06"8(12)
11. 田中正太郎 12' 08"4(15)
12. 宮崎公義 12' 08"4(48)
13. 角田昌之 12' 10"8(43)
14. 清水義文 12' 11"6(25)
15. 久保田邦彦 12' 12"2(26)
16. 服部誠示 12' 13"2(32)
17. 鈴木治 12' 20"8(24)
18. 清水一郎 12' 23"0(26)
19. 吉田初雄 12' 24"7(39)
20. 長坂聰 12' 25"0(16)
21. 石山修 12' 29"5(49)
22. 霜山富士夫 12' 36"8(12)
23. 金田保則 12' 37"7(41)
24. 藤巻芳男 12' 38"0(25)
25. 小林紳也 12' 38"4(27)
26. 桜井譲二 12' 39"8(40)
27. 武笠好次 12' 41"2(46)
28. 須崎巖 12' 42"0(18)
29. 原田恵造 12' 42"0(45)
30. 新井洸三 12' 42"1(33)

400米自由型

1. 村林宣昭 5' 11"0(49)
2. 目信彦 5' 19"1(37)
3. 米本礼太郎 5' 24"0(12)
4. 中島孝幸 5' 25"0(45)
5. 宮崎公義 5' 35"5(48)
6. 田島健三 5' 35"7(44)
7. 伊丹康夫 5' 37"0(12)
8. 野村克夫 5' 37"0(12)
9. 藤田亮 5' 37"7(48)
10. 平出英夫 5' 39"1(46)
11. 大貫直子 5' 39"7(49)
12. 角田昌之 5' 44"0(43)
13. 薩袋紀子 5' 44"2(44)
14. 田中正太郎 5' 44"6(14)
15. 岸田正二 5' 45"0(9)
16. 久保田邦彦 5' 45"9(26)
17. 服部誠示 5' 46"2(32)
18. 石渡良一 5' 49"2(12)
19. 清水義文 5' 50"2(25)
20. 鈴木治 5' 50"5(25)
21. 佐野雅治 5' 50"5(32)
22. 新井洸三 5' 50"7(33)
23. 中光尚之 5' 51"4(12)
24. 吉田初雄 5' 51"5(39)
25. 米本恭三 5' 51"9(29)
26. 長坂聰 5' 52"0(16)
27. 清水一郎 5' 52"3(26)
28. 石山修 5' 52"5(49)
29. 平井一卓 5' 54"0(40)
30. 大月稔之 5' 55"0(22)

200米平泳

1. 村上 敬 $2'47"5(49)$
2. 村林 宣昭 $2'48"7(49)$
3. 横尾 武 $2'55"0(45)$
4. 伊藤 隆 $2'55"2(42)$
5. 北川 英一 $2'57"0(41)$
6. 根来 清太郎 $2'57"2(17)$
7. 勝又民樹 $2'58"2(37)$
8. 塚田 研一郎 $3'00"4(45)$
9. 森 健二 $3'01"5(36)$
10. 宮崎 公義 $3'01"9(48)$
11. 中島 洋 $3'02"1(43)$
12. 大島 義邦 $3'02"5(31)$
13. 石井 和雄 $3'03"2(27)$
14. 丹羽 和央 $3'04"0(29)$
15. 菅野 次彥 $3'04"2(33)$
16. 水口 寛幸 $3'04"5(40)$
17. 重宗 信正 $3'04"6(25)$
18. 桜井 恭二 $3'05"2(23)$
19. 山田 文夫 $3'05"4(22)$
20. 菊沼 和男 $3'05"6(44)$
21. 河原 一 $3'06"0(10)$
22. 渡 正明 $3'06"2(25)$
23. 三田村 昌生 $3'06"4(27)$
24. 田島 五十詞 $3'06"5(34)$
25. 増田 道隆 $3'07"4(42)$
26. 吉田 俊夫 $3'07"6(48)$
27. 高品 齐 $3'07"6(31)$
28. 藤田 亮 $3'07"8(48)$
29. 小沢 秀生 $3'08"6(47)$
30. 伊丹 康夫 $3'08"8(11)$

100米平泳

1. 村上 敬 $1'16"5(49)$
2. 横尾 武 $1'18"2(47)$
3. 北川 英一 $1'18"8(41)$
4. 伊藤 隆 $1'19"6(42)$
5. 村林 宣昭 $1'20"0(48)$
6. 塚田 研一郎 $1'20"7(45)$
7. 根来 清太郎 $1'21"8(18)$
8. 宮崎 公義 $1'21"8(48)$
9. 勝又民樹 $1'22"1(37)$
10. 森 健二 $1'22"3(37)$
11. 水口 寛幸 $1'22"4(40)$
12. 重宗 信正 $1'22"6(26)$
13. 塩谷 晋 $1'23"0(12)$
14. 米本 礼太郎 $1'23"0(12)$
15. 高品 齐 $1'23"5(31)$
16. 丹羽 和央 $1'24"0(29)$
17. 目信彥 $1'24"1(38)$
18. 菅野 次彥 $1'24"1(33)$
19. 中島 洋 $1'24"6(43)$
20. 河原 一 $1'24"8(10)$
21. 山田 文夫 $1'24"8(22)$
22. 石井 和雄 $1'24"8(26)$
23. 藤田 亮 $1'24"9(48)$
24. 吉田 俊夫 $1'25"0(16)$
25. 三田村 昌生 $1'25"2(27)$
26. 大石 隆彦 $1'25"2(48)$
27. 和田 博己 $1'25"3(49)$
28. 渡 正明 $1'25"9(25)$
29. 藤巻 芳男 $1'25"9(25)$
30. 小杉 健二 $1'26"0(23)$
30. 鹿取 博 $1'26"0(40)$
30. 原田 恵造 $1'26"0(46)$

200米背泳

1. 越智昌之 2'48"1(47)
2. 小木協仁 2'50"0(49)
3. 田中伸 2'52"6(41)
4. 大和田晃 2'52"9(47)
5. 早坂義昭 2'55"8(36)
6. 村林宣昭 2'57"4(49)
7. 小池清 2'57"6(17)
8. 河北紘明 2'59"2(35)
9. 上原信一郎 2'59"4(16)
10. 中島猛 2'59"8(18)
11. 石渡良一 3'00"0(12)
12. 宮崎公義 3'00"3(48)
13. 田島健三 3'00"7(44)
14. 米本礼太郎 3'03"0(14)
15. 長坂聰 3'05"0(17)
16. 斎藤文章 3'06"7(42)
17. 村上保則 3'07"8(12)
18. 大塚謙一 3'08"3(41)
19. 鈴木貞男 3'10"0(36)
20. 堀川浩生 3'10"4(23)
21. 中光尚之 3'10"4(12)
22. 村上敬 3'10"9(49)
23. 清水一郎 3'11"0(25)
24. 石山修 3'13"2(49)
25. 米本恭三 3'15"4(23)
26. 相沢広美 3'17"0(40)
27. 菱沼千明 3'17"8(39)
28. 山口知也 3'23"0(28)
29. 高津太平 3'23"4(25)
30. 佐藤信次 3'26"6(37)

100米背泳

1. 越智昌之 1'15"4(47)
2. 小木協仁 1'15"7(49)
3. 田中伸 1'17"2(44)
4. 田島健三 1'17"8(44)
5. 早坂義昭 1'18"6(36)
6. 大和田晃 1'18"6(47)
7. 上原信一郎 1'19"0(15)
7. 河北紘明 1'19"0(35)
9. 小池清 1'21"0(18)
10. 石渡良一 1'22"0(10)
10. 米本礼太郎 1'22"0(14)
12. 中川充 1'23"0(12)
13. 鈴木貞男 1'23"4(36)
14. 村林宣昭 1'23"5(48)
15. 中島猛 1'23"6(16)
16. 中光尚之 1'23"8(14)
16. 野村克夫 1'23"8(16)
18. 長坂聰 1'24"2(17)
19. 宮崎公義 1'24"5(48)
20. 大塚謙一 1'24"6(41)
21. 斎藤文章 1'25"4(42)
22. 村上保男 1'26"0(12)
23. 堀川浩生 1'26"4(23)
24. 薬袋紀子 1'27"2(43)
25. 米本恭三 1'27"4(33)
26. 岸田正二 1'28"0(9)
27. 菱沼千明 1'28"4(39)
28. 高津太平 1'28"8(25)
29. 横尾武 1'29"0(46)
30. 山口知也 1'29"4(28)

200米蝶泳

1. 藤田亮 2'56"9(49)
2. 菅ヶ谷泰邦 3'04"5(41)
3. 村林宣昭 3'10"4(49)
4. 宮崎公義 3'11"6(48)
5. 恒吉康夫 3'12"1(39)
6. 早坂義昭 3'15"7(36)
7. 安部俊秀 3'19"2(42)
8. 田島健三 3'19"4(45)
9. 飯沼清 3'20"0(37)
10. 宮本俊男 3'21"6(44)
11. 平井卓 3'23"6(40)
12. 石塚徹 3'24"0(30)
13. 横山幹司 3'27"8(32)
14. 越智昌之 3'30"0(47)
15. 鈴木豊 3'31"0(42)
16. 藤谷文雄 3'31"3(39)
17. 村山武 3'34"0(40)
18. 武村昶正 3'37"8(36)
19. 村上敬 3'39"9(48)
20. 新井洸三 3'40"0(33)

標準タイム

3'40"0

100米蝶泳

1. 藤田亮 1'12"8(49)
2. 田島健三 1'13"4(45)
3. 菅ヶ谷泰邦 1'14"3(41)
4. 早坂義昭 1'15"3(37)
5. 大和田晃 1'16"3(47)
6. 目信彦 1'16"4(37)
7. 石塚徹 1'19"2(30)
8. 平出英夫 1'20"6(47)
9. 村林宣昭 1'20"9(48)
10. 宮崎公義 1'21"0(47)
11. 越智昌之 1'21"1(48)
12. 恒吉康夫 1'21"5(39)
13. 安部俊秀 1'22"1(42)
14. 宮本俊男 1'22"2(44)
15. 村山武 1'22"5(41)
16. 新井洸三 1'23"0(33)
17. 横山幹司 1'24"0(33)
18. 小木協仁 1'25"0(49)
19. 大貫直子 1'25"5(49)
20. 藤谷文雄 1'26"5(39)
21. 飯沼清 1'27"0(37)
22. 武村昶正 1'28"8(36)
23. 菅野次彦 1'29"2(34)
24. 原田恵造 1'29"4(46)
25. 河北紘明 1'29"6(34)
25. 平井卓 1'29"6(40)
27. 田島五十詞 1'29"8(34)
28. 伊藤隆 1'29"9(42)
29. 福島利治 1'30"2(43)
30. 北村隆彦 1'30"3(31)

400米個人メドレー

1. 村林宣昭 5'51"0(49)
2. 宮崎公義 6'29"8(48)
3. 田島健三 6'30"5(45)
4. 越智昌之 6'38"0(47)
5. 大貫直子 6'44"2(49)
6. 藤田亮 6'54"7(48)
7. 薩袋紀子 7'03"7(44)
8. 村上敬 7'17"6(48)
9. 田中伸 7'20"0(44)
10. 大石隆彦 7'23"5(48)
11. 宮本俊男 7'29"2(44)
12. 小木協仁 7'47"8(48)
13. 田畠正紀 7'53"6(48)
14. 石山修 8'22"2(48)
15. 高取至 8'51"1(48)

200米個人メドレー

1. 村林宣昭 2'43"0(49)
2. 越智昌之 2'47"7(47)
3. 田島健三 2'48"6(45)
4. 宮崎公義 2'49"5(48)
5. 大和田晃 2'52"9(47)
6. 藤田亮 2'54"4(49)
7. 村上敬 2'59"5(49)
8. 大貫直子 2'59"9(49)
9. 薩袋紀子 3'00"5(44)
10. 横尾武 3'00"9(47)
11. 田中伸 3'07"4(44)
12. 平出英夫 3'08"8(46)
13. 大石隆彦 3'16"0(48)
14. 田畠正紀 3'17"2(48)
15. 小木協仁 3'21"7(48)
16. 中町恵理子 3'30"5(48)
17. 石山修 3'32"7(48)
18. 浅野茂夫 3'42"5(48)
19. 高取至 3'44"0(48)

200米游泳

1. (原田, 田島, 宮本, 中島)	1' 56" 0 (45)
2. (中島, 田中, 宮本, 田島)	1' 56" 3 (44)
3. (村林, 小木, 宮崎, 藤田)	1' 56" 8 (49)
4. (米本, 鈴木, 久保田, 藤巻)	1' 57" 6 (25)
5. (武笠, 越智, 大和田, 平出)	1' 58" 2 (47)
6. (裡島, 角田, 安部, 田島)	1' 59" 1 (43)
7. (平出, 大和田, 原田, 中島)	1' 59" 2 (46)
8. (大和田, 田渕, 横尾, 宮崎)	2' 00" 0 (47)
9. (村林, 石山, 宮崎, 藤田)	2' 00" 3 (49)
10. (原田, 大和田, 武笠, 中島)	2' 00" 4 (46)
11. (小木, 村上, 藤田, 宮崎)	2' 00" 9 (49)
12. (重宗, 清水鶴, 藤巻, 久保田)	2' 01" 4 (26)
12. (越智, 田渕, 横尾, 宮崎)	2' 01" 2 (47)
14. (伊丹, 田中鶴, 中川, 米本)	2' 01" 5 (45)
14. (大和田, 平出, 原田, 中島)	2' 01" 5 (45)
16. (中島, 原田, 宮本, 武笠)	2' 01" 6 (45)
17. (鈴木, 吉田, 藤巻, 久保田)	2' 01" 9 (25)
17. (中島, 原田, 横尾, 宮本)	2' 01" 9 (45)
19. (平井, 村山, 金田, 岩瀬)	2' 02" 6 (41)
20. (大石, 宮崎, 村林, 藤田)	2' 02" 7 (48)
21. (田渕, 藤田, 越智, 大和田)	2' 03" 6 (47)
22. (福島, 安部, 菅ヶ谷, 岩瀬)	2' 04" 5 (42)
23. (福島, 角田, 鈴木, 田島)	2' 05" 0 (42)
24. (重宗, 鈴木, 久保田, 藤巻)	2' 05" 3 (24)
25. (川崎尻, 三田村, 小林, 青木)	2' 05" 4 (27)
26. (早坂, 武村, 森, 目)	2' 05" 5 (37)
26. (福島, 岩瀬, 金田, 大谷)	2' 05" 5 (42)
28. (越智, 平出, 藤田, 小沢)	2' 05" 6 (47)
29. (早坂, 鈴木, 目, 北村)	2' 06" 0 (36)
30. (大槻, 新井, 河北, 菅野)	2' 06" 1 (34)

800米游泳

1. (小木, 石山, 藤田, 村林)	10' 33" 6 (49)
2. (宮崎, 石山, 藤田, 村林)	10' 35" 8 (49)
3. (米本, 久保田, 藤巻, 鈴木)	10' 42" 2 (25)
4. (石渡, 岡田, 米本, 伊丹)	10' 44" 4 ()
5. (中島, 田中, 宮本, 田島)	10' 55" 0 (45)
6. (角田, 福島, 薩袋, 田島)	10' 55" 2 (43)
7. (清水田, 清水鶴, 藤巻, 久保田)	10' 59" 7 (26)
8. (鈴木, 清水鶴, 久保田, 藤巻)	11' 00" 0 (25)
9. (長谷川, 横山, 服部, 佐野)	11' 00" 3 (32)
10. (大和田, 武笠, 原田, 平出)	11' 05" 5 (46)
11. (藤田, 大石, 村林, 宮崎)	11' 05" 6 (48)
12. (越智, 宮崎, 平出, 大和田)	11' 10" 3 (47)
13. (森, 目, 北村, 早坂)	11' 16" 0 (36)
14. (佐野, 新井, 長谷川, 服部)	11' 18" 6 (32)
15. (中原, 金田, 村山, 岩瀬)	11' 19" 4 (41)
16. (岩瀬, 金田, 中原, 菅ヶ谷)	11' 20" 7 (41)
17. (角田, 鈴木, 福島, 田島)	11' 23" 0 (43)
18. (河北, 大槻, 新井, 横山)	11' 23" 2 (33)
19. (目, 飯沼, 永島, 沢田)	11' 23" 4 (38)
20. (恒吉, 藤谷, 桜井, 吉田)	11' 23" 4 (39)
21. (小谷野, 鈴木, 久保田, 藤巻)	11' 23" 8 (24)
22. (桜井, 相沢, 藤谷, 平井)	11' 27" 7 (40)
23. (原田, 武笠, 宮本, 中島)	11' 28" 5 (45)
24. (桜井, 村山, 菅ヶ谷, 平井)	11' 29" 2 (40)
25. (平井, 相沢, 村山, 桜井)	11' 31" 3 (40)
26. (恒吉, 吉田, 福島, 桜井)	11' 31" 8 (39)
27. (新井, 服部, 横山, 大槻)	11' 32" 4 (33)
28. (小谷野, 藤巻, 高津, 鈴木)	11' 37" 2 (23)
29. (目, 早坂, 森, 鈴木)	11' 38" 0 (36)
30. (桜井, 吉田, 村上, 鈴木)	11' 39" 2 (40)

400米混縲泳

1. (越智, 横尾, 大和田, 平出)	4' 54" 1 (47)
1. (小木, 村上, 藤田, 宮崎)	4' 54" 1 (49)
3. (小木, 村上, 藤田, 村林)	4' 55" 4 (49)
4. (田中, 横尾, 田島, 中島)	5' 02" 0 (45)
5. (大塚, 北川, 菅ヶ谷, 岩瀬)	5' 06" 7 (47)
6. (鈴木, 森, 早坂, 目)	5' 12" 0 (36)
7. (越智, 横尾, 大和田, 田渕)	5' 12" 2 (47)
8. (田中, 塚田, 宮本, 田島)	5' 12" 4 (44)
9. (越智, 横尾, 平出, 大和田)	5' 12" 8 (47)
10. (田中, 伊藤, 安部, 田島)	5' 15" 8 (43)
11. (大塚, 水口, 菅ヶ谷, 岩瀬)	5' 17" 8 (41)
12. (武村, 勝又, 早坂, 目)	5' 18" 2 (37)
13. (越智, 塚田, 平出, 中島)	5' 18" 6 (46)
14. (越智, 横尾, 平出, 中島)	5' 21" 0 (46)
15. (越智, 大石, 平出, 大和田)	5' 21" 3 (46)
16. (早坂, 森, 目, 北村)	5' 22" 4 (36)
17. (田中, 伊藤, 宮本, 田島)	5' 22" 6 (43)
18. (越智, 横尾, 宮崎, 平出)	5' 23" 2 (47)
19. (齊藤, 伊藤, 安部, 福島)	5' 23" 3 (42)
20. (早坂, 勝又, 飯沼, 目)	5' 23" 8 (37)
21. (齊藤, 伊藤, 菅ヶ谷, 安部)	5' 24" 1 (42)
22. (大和田, 横尾, 越智, 武笠)	5' 25" 3 (47)
23. (菱沼, 北川, 菅ヶ谷, 吉田)	5' 27" 9 (40)
24. (森, 勝又, 早坂, 目)	5' 28" 6 (37)
25. (田中, 中島, 宮本, 田島)	5' 31" 1 (43)
26. (菱沼, 北川, 菅ヶ谷, 平井)	5' 32" 4 (40)
27. (早坂, 森, 武村, 北村)	5' 32" 8 (36)
28. (菱沼, 奥山, 恒吉, 吉田)	5' 33" 2 (39)
29. (東, 北川, 村上, 菅ヶ谷)	5' 34" 4 (40)
30. (武村, 勝又, 飯沼, 目)	5' 34" 5 (37)

女 子 歷 代 15 傑

400米 自由型

1. 大貫直子 5'39"7(49)
2. 薬袋紀子 5'44"2(44)
3. 中町恵理子 6'19"0(48)
4. 大日向かほる 7'28"2(47)
5. 幕内理恵子 7'43"4(48)
6. 戸叶佳代子 8'09"9(44)
7. 間 恵美子 8'29"5(44)
8. 谷山たけ子 9'03"0(36)
9. 塩崎律子 9'08"0(41)

200米 自由型

1. 薬袋紀子 2'43"2(44)
2. 大貫直子 2'43"5(49)
3. 中町恵理子 2'50"3(49)
4. 大日向かほる 3'23"1(47)
5. 幕内理恵子 3'24"3(48)
6. 戸叶佳代子 3'50"3(44)
7. 間 恵美子 3'54"0(44)
8. 薫原志津子 4'20"0(42)
9. 谷山たけ子 4'21"0(36)
10. 塩崎律子 4'23"6(40)
11. 新井和子 4'46"0(37)
12. 敷地美津子 4'48"0(37)
13. 池本さゆり 4'55"0(42)
14. 岩井のり子 6'21"4(37)

100米 自由型

1. 薬袋紀子 1'12"4(43)
2. 大貫直子 1'13"4(49)
3. 中町恵理子 1'15"4(48)
4. 大日向かほる 1'27"3(47)
5. 幕内理恵子 1'27"8(48)
6. 戸叶佳代子 1'31"8(44)
7. 高橋真実 1'38"8(41)
8. 間 恵美子 1'48"0(44)
9. 谷山たけ子 1'50"0(36)
10. 薫原志津子 1'52"0(42)
10. 塩崎律子 1'52"0(40)
12. 渡辺ゆかり 1'57"5(44)
13. 池本さゆり 2'06"0(42)
14. 新井和子 2'07"5(37)
15. 敷地美津子 2'13"5(37)

200米 平泳

1. 塩川恭子 3'19"1(49)
2. 南条由紀江 3'27"2(44)
3. 薬袋紀子 3'30"8(44)
4. 菊地博子 3'40"8(36)
5. 鳥飼富美枝 3'44"2(40)
6. 戸叶佳代子 3'55"5(44)
7. 清水滋子 4'05"8(44)
8. 幕内理恵子 4'08"1(48)
9. 中町恵理子 4'11"5(48)
10. 関克江 4'17"0(39)
11. 大滝敏江 4'39"2(44)

100米 平泳

1. 塩川恭子 1' 33"3(49)
2. 南条由紀江 1' 33"6(44)
3. 薫袋紀子 1' 37"0(44)
4. 菊地博子 1' 40"2(36)
5. 鳥飼富美枝 1' 42"8(40)
6. 中町恵理子 1' 43"3(49)
7. 戸叶佳代子 1' 44"7(44)
8. 幕内理恵子 1' 46"3(48)
9. 清水滋子 1' 52"2(44)
10. 関克江 1' 55"8(39)
11. 大瀧敏江 2' 00"8(44)
12. 間惠美子 2' 26"8(44)

100米 蝶泳

1. 大貫直子 1' 25"5(49)
2. 薫袋紀子 1' 28"5(44)
3. 中町恵理子 1' 39"2(49)
4. 南条由紀江 1' 52"0(44)
5. 幕内理恵子 1' 58"9(48)

200米個人メドレー

1. 大貫直子 2' 59"9(49)
2. 薫袋紀子 3' 00"5(44)
3. 中町恵理子 3' 24"2(49)
4. 幕内理恵子 3' 54"9(48)

200米 背泳

1. 大瀧敏江 3' 57"1(44)
2. 伊藤涼子 4' 00"2(40)
3. 東原万理子 4' 12"8(49)
4. 中町恵理子 4' 16"7(48)
5. 池内 4' 18"0(39)
6. 佐伯久美子 4' 22"0(35)

50米 自由型

1. 薫袋紀子 31"9 (43)
2. 中町恵理子 33"0 (49)
3. 大日向かほる 37"6 (47)
4. 大瀧敏江 38"6 (44)
5. 幕内理恵子 38"9 (49)
6. 南条由紀江 39"5 (44)
7. 戸叶佳代子 40"0 (44)
8. 高橋真実 40"5 (41)
9. 塩川恭子 41"9 (49)

100米 背泳

1. 薫袋紀子 1' 27"2(44)
2. 中町恵理子 1' 45"5(49)
3. 伊藤涼子 1' 48"0(40)
4. 大瀧敏江 1' 49"7(44)
5. 東原万理子 1' 50"4(49)
6. 池内 1' 55"8(39)
7. 幕内理恵子 1' 58"9(48)
8. 佐伯久美子 2' 04"3(35)

10. 渡辺ゆかり 46"1 (49)
11. 間惠美子 46"4 (44)
12. 谷山たけ子 47"8 (36)
13. 薫原志津子 48"0 (42)
14. 塩崎律子 51"6 (40)
15. 池本さゆり 51"7 (42)

50米蝶泳

1. 薩袋紀子	35"6 (45)
2. 大貫直子	36"0 (49)
3. 中町恵理子	44"0 (49)
4. 南条由紀江	47"1 (44)
5. 幕内理恵子	58"3 (48)

<ランキング表について一言>

これらのランキング表は、現役にとってよい刺激になっているようです。

全都立歴代三十傑は昭和37年に旧制、新制に別れていた記録を横山先輩がまとめあげたものです。

又、我水泳部四十数年の歴史の中では、水球に全刀を注ぎ、競泳には重きをおかないと時代がかなりあったことは忘れてはならないでしょう。昭和37年以前の記録には、様々な混乱から失なわれた先輩方の大記録があったということです。

女子の部の記録は48年にまとめたもので、全都立の記録と同様のことになります。

(編集部注)

50米平泳

1. 南条由紀江	43"2 (44)
2. 薩袋紀子	43"5 (44)
3. 塩川恭子	43"8 (49)
4. 菊地博子	45"0 (37)
5. 中町恵理子	46"0 (49)
6. 戸叶佳代子	46"8 (44)
7. 鳥飼富美枝	47"3 (40)
8. 幕内理恵子	48"8 (48)
9. 清水滋子	49"6 (44)
10. 大滝敏江	53"6 (44)
11. 関克江	55"2 (39)
12. 間恵美子	1'06"0 (44)

50米背泳

1. 薩袋紀子	39"8 (44)
2. 中町恵理子	46"0 (49)
3. 大滝敏江	46"1 (44)
4. 伊藤涼子	47"4 (40)
5. 東原万理子	48"7 (49)
6. 池内	52"0 (39)
7. 幕内理恵子	54"9 (48)
8. 佐伯久美子	56"6 (35)
9. 塩川恭子	57"0 (49)
10. 戸叶佳代子	58"0 (44)
11. 間恵美子	1'18"5 (44)

黒潮会規約

第一条	名称	副会長	二名
第二条	所在地	幹事	三名（内会計一名）
第三条	目的	監査	一名
第四条	会員	会長	二名（内会計一名）
第五条	役員	幹事	三名（内会計一名）
第六条	監査	幹事	三名（内会計一名）
第七条	幹事の義務	幹事	三名（内会計一名）
第八条	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）
一、総会の開催	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）
二、会員名簿の作成	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）
三、会費の徴収	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）
四、決算報告	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）
五、水泳部機関誌「黒潮」の編集指導	幹事は会長及び副会長の承諾を得て、左記の事項を適切に行わなければならない。	幹事	三名（内会計一名）

六、その他役員が必要と認めた事項

第十一条 役員の任期

役員の任期は毎年五月一日から一ヶ年とし、再任は妨げない。但し兼任はそれを認めない。

第十二条 総会

総会は本会の最高議決機関であり、左記の事項を決定する。

附 則

本会規約は昭和三十七年五月一日より発効する。

納入するのが望ましい。

第十三条 会計年度

本会の会計年度は毎年五月一日より翌年四月三十日までとする。

第九条

定足数及び議決

総会は総議決権数の五分の一以上の出席及び委任がなければ議事を開くことができない。

総会の議決は出席議決権数の三分の二以上をもつてこれを決する。

第十条 定例総会

総会は五月、八月の二回を定例とする。

第十二条 経費

本会の経費は会費及びその他の収入でこれを支弁する。

第十三条 会費

本会の会費は年額一名千五百円とし、毎年五月中に

歷代水泳部主將

昭和 高 等 科 尋常科	昭和二十四年 二十六年 二十五年 二十七年 二十八年 二十九年 三十一年 三十二年 三十三年 三十四年 三十六年 三十七年 三十八年 三十九年 四十一年 四十二年		
小山藤楠 杉田村本 健文欣正 二夫三郎	根中須田上上霜米石伊丹小岸佐広益 来島崎中原原山本渡丹沢坂田藤部田 清正太一士太三之 猛巖郎夫郎一夫晃郎二助道勇		
桜高堀 井橋川 恭浩 二朗生	大町根長 月田来坂 稔富清 之夫聰	須田野山米石 崎中村田本渡 正克礼良 巖夫泰郎一	玉丹内 川沢山 寿利壽 一晃春
安賀村菱沢勝北 部谷山沼田又村木 俊泰千忠民隆貞 秀邦武明美樹彦夫	鈴田菅横高 島野山品坂田羽 五次幹順行和紳 詞郎司齊助雄夫	小星丹青重 木坂田羽林宗 太郎也正信恭 正正二郎和	小谷野井宗和 重信恭和郎
昭和四十三年 四十五年 四十六年 四十七年 四十八年 四十九年	昭和二十四年 二十六年 二十五年 二十七年 二八年 二九年		
角田中島健昌 島田昌宣 三幸之敬昭	大越石智孝 上石宣隆	田島昌宣 角田敬昭	三幸之敬昭

編集後記

黒潮22号をお届け致します。

昨夏、たまっていた記録、3年分をまとめて別冊の形で発行しましたが、現役諸君のため、また、黒潮会の活動のためにも今後は何年も黒潮を出さないといった事態を避け毎年発行を目指したいと思います。

最後に原稿をお寄せ下さった諸先輩、又、近年不備の目立っていた住所録に貴重な情報を下さった小杉先輩、菱沼先輩、薬袋さん、越智君等に、この場を借りてお礼を申し上げます。

P.S. 昨シーズン中にプール改築工事が終りました。男女更衣室、温水シャワー、ガス風呂、浄化装置等が最新設備になり、小さいながらも二階に部室も出来ました。
今年の夏はお気軽に新しいプールへお寄り下さい。

(田島健三)

黒潮 第22号

編集 田島健三 水谷勝恒 萩袋紀子

発行人 水谷勝恒

発行所 黒潮会 東京都目黒区八雲1丁目1番2号
都立大学附属高等学校 水泳部

印刷所 西尾印刷 電話(03) 202-3764番